

Le Coeur



No. 39



銘

ル・クールとは、フランス語で魂や精神の宿るところを意味する言葉です。

したがって松高精神の核となるものが、この生徒会誌「ル・クール」です。

「ル・クール」は、我々の魂と生き方の質を高め、励ます資料です。

目次

表紙・裏共 二B 松野 美穂

巻頭の言葉 学校長 中田勝久……………1

生徒会長 二B 赤星 雅俊……………2

生徒会報告 生徒会総務役員紹介……………3

委員会報告……………5

クラブ紹介……………12

行事報告 入学式……………28

遠足……………29

体育祭……………33

輝松祭……………39

二年生修学旅行……………47

創立四十周年記念式典……………49

読書感想文 一・二・三学年……………50

投稿欄 創作・詩・エッセイ……………74

クラス紹介……………81

編集後記 生徒会誌編集委員会……………98

カット 二A 松本 久代

二A 南 亜子

二A 山口 秀美

二C 中村千津子

巻頭の言葉

国際理解

校長 中田 勝久

今日の社会は国際化の時代といわれ、諸外国との時間的心理距離が短縮され異文化との接触の機会が増大し、日本人に国際人としての自覚が要請されています。

いま我が国は、産業構造の転換に伴い、国際社会の中でどのように生きていくか深刻な模索が行われています。近年の日本が大幅な貿易収支の黒字国となり、世界から厳しい批判を招いている状況を、外国が無為なのだということがたづねられません。このような摩擦は日本の考えや行動と、世界が日本に求めている期待・役割との間に大きな乖離が生じているものではないかと思われまします。これからの日本は世界と共に生き、その中で自らの繁栄を図っていくことが緊急の課題です。実はこのことが今日盛んに問われている国際化ではないかと思っています。

ならば国際理解とは何か。そこですぐ考えられることは外国語を修得し技能を高めること、世界の国々の歴史や地理、社会問題を学ぶことなどが第一歩かもしれません。しかし、それだけでは十分とはいえません。世界には自分が身につけた文化と異なる文化があり、その文化と自分の文

化との相互に価値を見い出す必要があります。我が国の立場で考えると、日本の文化つまり言語・生活習慣・宗教・歴史・社会の仕組み・日本で育った学術・産業などについて正しく認識し、同時に日本と異なる言語・生活習慣・物の価値観の上に暮らしている民族や国家があることを理解し日本人としてどうあるべきかを考えるところまでいかなくはなりません。

ところで今日では異文化に接する機会が、学校教育の中で急速に取り入れられるようになってきました。例えば、都立高校生のニューヨーク派遣、オーストラリア高校生との相互交流、洋上セミナー、外国留学の制度化などが進められています。本校生徒も毎年何人かが外国に留学し帰国後、復学しています。

実は私も昨年十一月、チェコスロバキア・フランス・イギリスの主要都市の教育視察に行ってきました。生まれて初めての海外旅行でしたが、各都市の市民生活の状況や高校教育の実態をこの目で見る事ができました。どこへ行っても「日本人の印象は」といえば「お金持ち」こんな回答が返ってきました。プラハでは六日間滞在し、幾多の高校の授業を見学しました。確かに日本の生活水準は西洋を超えたと思いましたが、学校で使用されている教具・備品は日本の二十年前くらいのものでした。しかし、それは幻想でした。何ががうといえ「心のゆとり」と感じました。当学校の校長が、この国では社会の一員として、まず他人に対するいわたりを考えると話していたのに強く感動

を覚えさせられました。

いくら日本の国が豊かになってお金があっても、こせこせした品性はもちたくなくと強く思いました。ゆとりをもって、大人には大人としての、若者には若者としてのそれぞれの責任を果たしながら誠実に生きていきたいものです。特に若者の諸君には、国際感覚を身につけるために、この貴重な高校時代に、知性を大いに磨いてほしいと願うものです。

生徒会総務の活動

前期 生徒会長 赤星 雅俊

今年もまた「ル・クール」の季節がやってきました。この原稿依頼がくるとどんなことを書くのかと皆悩むようで、私も実は最初なにを書くか考えているうちに締切りが近づいてきたので、一番書きやすい活動内容について述べたいと思います。

生徒会総務の活動で皆さんがよく知っているのは、やはり予算のことだろうと思います。予算は、年に一回予算折衝（総務の決めた予算についてクラブの責任者と話し合うこと）にて最終決定され四月より執行されます。これで一年の予算がすべて決まってしまうので私たちの決めた予算に納得できずにいつも少数が第二次折衝までもつれこんで

います。

年三回皆さんがとても嫌がる生徒総会があります。いつも行う主な議題は五月は前年度の本決算（前年度に実際に使われたお金と余ったお金を表にしたもの）、十月は中間報告（前期に使われたお金とまだ使われていないお金を表にしたもの）、二月は文化祭の会計報告、仮決算（十二月現在の使われたお金と余ったお金を表にしたもの）です。いつも騒がしく後ろまで聞こえないためもう少し静かに聞いてください。

私たち総務は体育祭、文化祭などの行事を企画しています。企画するといっても実際に動いているのは各委員会です。私たちのする仕事は会計が主になります。各委員会とも行事の前になると成功させようと熱心な活動を始めます。

最後に生徒会とはどういうものかを説明したいと思います。生徒会とは私たち生徒全員の組織です。皆さんは、一年に一回生徒会会員として三千円を払っています。そのため生徒総会に出ることは当然の権利であり義務です。皆さんちゃんと出席し静かに聞いてください。

今回の「ル・クール」編集の為、生徒会誌編集委員会の皆さんが走り回り、大変なようでした。ですからこれから先の内容も期待できますので最後まで読んでみてください。

生徒会報告



一九九〇(平成二)年度

生徒会総務役員紹介

前期(四月)

会長……赤星 雅俊

いざという時はハンパじゃない！
頼もしくて(?!) 明るい生徒会長。

副会長……伊富喜陽子

いつも明るく皆にいつも笑いを提供してくれる。

副会長……佐藤 茂男

縁の下の力持ち。この人がいないと総務が動かない。

書記……藤岡 さえ

実力派。とてもよく働き仕事もよくやる??

書記……相沢 秀紀

NAZONO・OTOKO。でもやる時はやる。

会計……中田 晴子

一人というハンデをのりこえ、テキパキと仕事をする働きもの。

後期(十一月)

会長……努力なら 誰にもまけない 高橋 瑞穂

ve me 彼氏でがんばります?

副会長……物事を 知っているのに 知らぬふり(?!) み

んなを惑わす 藤岡 さえ。

副会長……AVを、こよなく愛す 内藤郁之 コピーの鬼

を 目指します。

書記……悩み事 あえて言うなら あるけれど 幸せい

つばい 赤星 雅俊。

書記……明るいな 笑顔の女王 伊富喜 陽子 その笑

みいったい 誰のもの。

会計……生徒会、スクラウンの 会計長こと 中田 晴

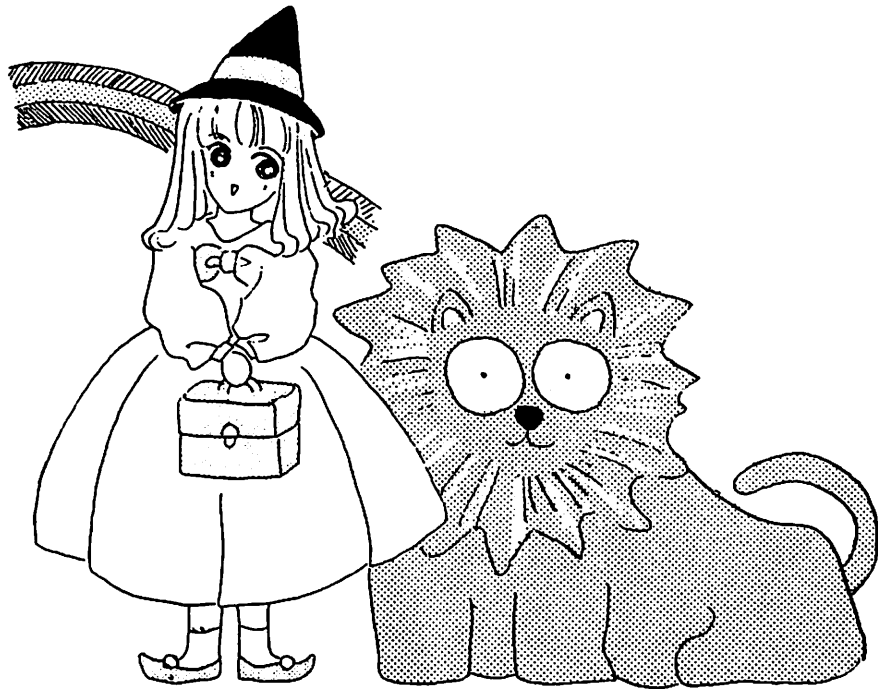
子 いつも元気で マイペース。

会計……初恋は 実らぬものと あきらめて 仕事に燃

える 上原 恵美。

会計……健全 安全 好青年 一家に一体 渋谷 快。

会 計……かき氷 どうしてこんなに 恋しいの タメイ
キひとつ 川村 智津。



評 議 会

評議会は字のごとく、学校生活について、色々な事を議会という形で話し合います。よって、評議会に入っている人達は、委員ではなく、評議会議員と呼ばれます。これが他の委員会と一番違うところです。

評議会が行う内容は、誰でも知っている生徒総会の司会進行、運営を始めとして、生徒総会に提出する予算案、決算の承認やクラブや同好会の設立等に関する事、そして、生徒総会に提案する議案の承認などがあります。その他、生徒の間から出た学校生活の不満や、希望等がある人は、各クラスの評議会議員に伝えてください。

評議会の中には、議会運営委員会、会計監査委員会、総務委員会A・Bと言う四つの委員会が置かれています。特につきつめて話し合う事が必要な場合に開かれます。評議会議員全員が、どれかの委員会に入っています。この様に細かく分担し、いつでも対応できる様になっています。

その他評議会は議会の運営に関して独自の規則を持っています。また、学校生活の改善や生徒側の意見等を、最終的に議会で決議する権限を持っています。すごい訳でもなんでもなく、みんな同じ生徒です。各委員会のような専門の仕事と言うのはありませんが、学校生活全般に関する色々な仕事を持っています。

評議会議員の一言で学校が変わる事もあります。「私こそ」と思う人は、ぜひやってみてください。

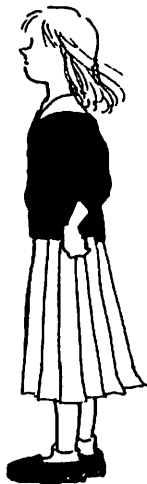
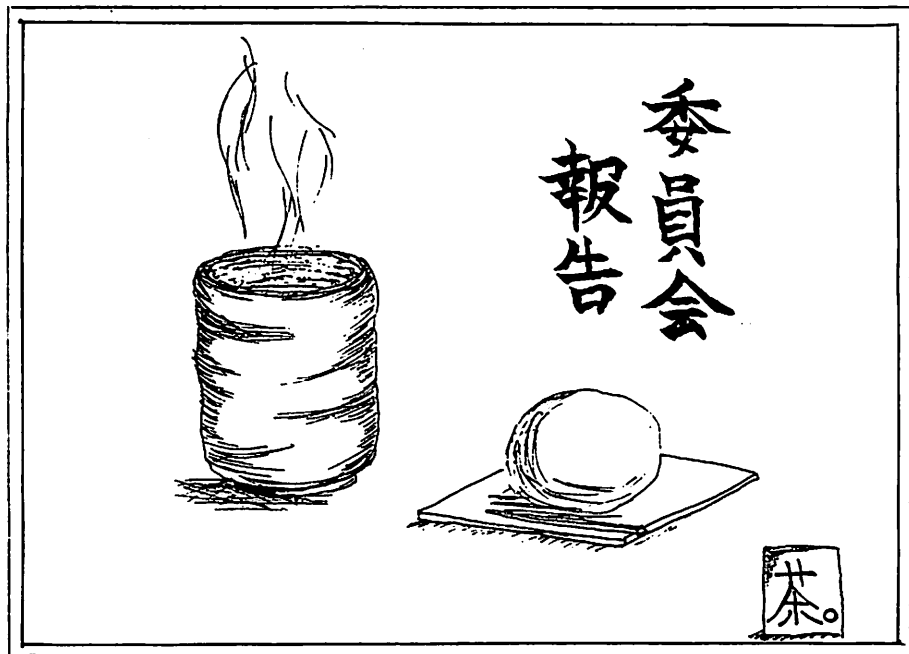
(二F 井上 由香)

文化委員会

とにかく文化委員会というのは、その名のとおり、輝松祭執行を中心とした委員会です。仕事は、六月の中旬ぐらいから準備はじめ、プログラム係などの係に分けて、仕事をし、輝松祭を成功させてきました。口で言うのは簡単ですが、実際に、活動してみると、とてもハードな仕事でした。特に、委員長・副委員長・書記などによる執行部は活動を始めると同時に忙しくなり、毎週一回は、居残るようになって、各係の進み具合や、どうすれば、輝松祭を成功させることができるか?など、様々なことを考え、実行してきました。輝松祭前日などは、椅子や机の移動を指示したり、注意事項を守らせるようにしたりしました。輝松祭の前日は、毎年、本部を設けて、そこに、文化委員はいなければならなかったわけですが、今年は本部をなくし、ほとんど仕事がなくなっていました。

最後に委員長として、この仕事をやって、ハードだったけれども、やりがいがあるって、おもしろい仕事だったなと思います。

(二C 松島 俊弘)



生活委員会

わが生活委員会は、見た目ほどかたくなしくなく、みんなが、のびのびとやっている委員会です。

だいたい仕事の内容は決まっています、みんなが高校生活をよりよく送っているような仕事をしています。

体育祭のときには、部外者などが校内へ入らないように警備したり、校内で盗難などがおこらないように、校内へ入る人の、用件や、名前などをチェックしたりしています。文化祭の時も似たような仕事で、部外者と、松高生との間に問題がおこらないように警備したり、講演の間、誰かが抜け出したりしていないかを見たりもします。

まあ、だいたい主な仕事はこんなところですが、あとは年に何回かある、遅刻防止キャンペーンです。うちの学校は遅刻をする人が多いので、名前をチェックするのが大変です。八時五分まえに通過すればよいのですが、大勢なだれ込んでくるので、よっぽど遅れなければ遅刻にはなりません。冬なんかは、生活委員会は三分までにはききずーと立っているのですからけっこうきつい仕事です。

主な仕事はこんなところですが、みんな楽しくやっています。松高がよりよい生活の場となるようにがんばっているのです、よろしく願います。

(二A 依田 雅幸)

整備委員会

「タタタ……隊長大変です東京港の埋め立てゴミから怪獣が出現しました。」

「なに!!」「よし出動だ。」「はっはい」「タタタタ」

「グイーン・ゴゴゴゴゴ一号発進。」

「ブオオオブイーン二号発進。」

「よしW作戦だ。」「はっはい」

「ガオーゴゴガオーギャオ」(怪獣の声)

「バシ」(怪獣になぐられた音)

「隊長!!二号機がやられました。」「なに……」

その時二号機に乗っていた、整備委員会の切井田苦鈴(キレイダクリン)がウルトラSに変身した。「ジョワッチ」

「ダー」「ガオーゴゴゴ」「むむ、貴様なかなかやるな」

「このゴミ怪獣ゴミラめ!!貴様もこれで終りだ」「ピー」

「ガオー」「この整備委員会オレンジマジック光線も効かないとは」その時であった、ウルトラSの体が伝説のヒーローポリッシーマンと変った。ポリッシーマン参上。「ポリッシーアタック」「アタック」「アタック」「バシ」「バシ」

「バシ」「バシ」「ギャオオオオオ」ゴミラは死んだ。しかし、真の敵はあなたのそばにあるかもしれない。

(ナレーター 石坂浩二)

行け我らの整備委員、明日の美化に向かってGO!

(二C 斎藤 良一)

保健委員会

保健委員会の主な仕事を説明します。

・病気・けが人の応急手当——けが人・病人が出た時に、保健室までつきそってあげて、手当をしてあげる。体育祭や文化祭の救護係をしたり、遠足や修学旅行の時などは救急箱を携帯し、具合の悪い生徒が出たら対応します。救急箱に入れる薬の点検などもします。

・石けんの補充——委員会の際に当番の人が流しを見回って補充します。

・記録の統計——生徒がいつどんな症状で保健室を利用したかの記録の統計を出します。

・保健だよりの発行——学期ごとに一回、保健に関する記事を掲載します。保健に関する知識やアンケートなどを行って、松校生の実態を調べて載せたりします。

以上が保健委員の仕事です。応急手当の方法なども説明してもらえし、ためになる話も多くやりのある楽しい委員会です。



(二C 山根 慶子)

クラブ委員会

ほとんどの活動時間には卓球場に集まって活動(主に話し合いや連絡事項の伝達)をしています。体育系・文化系クラブが多様なため、活動しにくい時もありますが、各クラブの特色を生かして、進めています。

仕事の内容は、その時によって変わります。ある時には生徒会総務から、または先生方から、委員から等、その日の活動してみないと内容がわからないような感じですが、しかし、各人が異なるクラブであり、かつ部長または代表者であるため、その一つ一つが非常に重要な仕事が多いのが事実です。

時には、連絡事項や活動内容が全くない日もあるので、油断してさぼる人もいますが、前にも述べたように仕事が必要な時もありますから、必ず出席して下さい。あまり活動が活発とは言えませんが、この委員会がなければ、きっと松高のクラブは、バラバラな行動をとるでしょう。そのような事になったら、グラウンドの奪い合いなどが起きて大変な事になってしまいます。このような意味で、この委員会に参加する事は学校全体をまとめていく上でも大切な事です。

このようなわけで、クラブ委員会は活動していますが、一番のモットーとするとところは、各クラブがより盛り上がり、よりよく活動している所です。

(二A 上原 恵美)

図書委員会

図書委員会では、常時活動としてカウンター当番があります。これは、毎週月曜日から土曜日までの昼休みと放課後に主に、本の貸し出しや返却の手続きなどを行っています。土曜日は一時までです。

水曜日の委員会の時間では、新聞班（「松高図書新聞」の編集）、資料班（新着図書のカバーつけをする）、広報班（ポスターなどを廊下に掲示する）、統計班（貸し出し冊数の統計を取る）、読書班（読書会を行う）の五班に分かれて活動しています。その他に、年間行事として七月下旬に蔵書点検。これさえなれば委員会は極楽だ、というほど辛い行事だと思います。文化祭では、いらなくなった本を生徒や先生方からいただき古本市を行います。また、松高図書新聞の発行や、他校との交流会などを行っています。活動内容としてはこんなところだと思います。

最後になりますが図書委員会からお願いがあります。本の無断持ち出しは絶対にしないで下さい。カウンターで手続きすることは、そんなに大変な事ではないと思います。面倒がらずにやって下さい。さらにもう一つ、近頃昼休みの図書室はうるさくはありませんか？静かにしている人には大変迷惑な話だと思います。涼みに来ることは悪いとは言いませんが、図書室がなんのためにあるのかをもう一度考えてみてはどうですか？

（二A 南 亜子）

新聞委員会

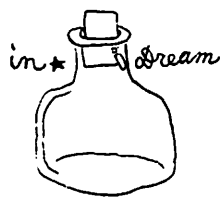
委員会の紹介……といわれても……。『読んで字の如く』としかいいようがないんですケド。でも、きっと、こんな説明じゃ駄目ですよ。

では、気をとり直しまして――。

現在、新聞委員会は各学年12名、合計36名で構成されており、週に一度の委員会で話し合いを進め……てる筈なんです………実状は厳しく、委員会に出席するのは半数いるかないか、です。まあこんなものでしょう。（これでも良くなったんですよ、ね、先生）そして、この話し合いで不幸にも「記事を書く」という負担を与えられてしまうと締め切り日までにノルマを果すべく、地獄の日々を送るわけです。しかし、本当の地獄はこの後、編集作業なのであります。面付けなんてやっていると、思わず投げ出したくなりますよ、ほんとに。でもその分、新聞が出来上がった時の喜びといったら……！

——というわけで、あの喜びを味わうために、今日も新聞委員会は「記事集め」にいそしむのでした。

（二E 渡辺 香織）



選挙管理委員会

「選管」の仕事は、生徒総会の日に行う、生徒会総務役員選挙の準備を行う事です。その内容は、まず公示を書き、選挙公報を作成し、選挙の後に開票をするだけです。

しかし、例年のことながら、自ら総務に立候補する人はほとんどいません。従って、選挙前日まで必死で候補者を集めなければならず、特に今年の場合、選挙一週間前で立候補者は、わずか一名なので、いつもより選管の仕事が増えています。

また、選管の場合、今まで生徒会に関わりのなかった人がやると大変です。特に委員長にでもなってしまうては、もうお手上げです。生徒会にしか出てこない、わけのわからん用語、あるいは選挙準備の手順なども、慣れた人でないとわかりません。

でも、選挙の準備以外に、仕事というようなものではなく生徒総会の前以外は、委員会活動というものはありません。そのおかげで、他の委員会が活動をしている時でも、選管は自由に過ごすことができます。

もし、何も委員会活動をしておらず、毎週、委員会がある所に入りたくないあなた、この際、選挙管理委員会に入ってみてはいかがですか。普段はあまり活動しないので楽ですよ。でも、選挙の前だけは、毎週、委員会を開き、遅くまで残ることもありえます。その点だけは覚悟しておいて下さい。

（二D 渡辺 誠）

放送委員会

私達は、「さぼり委員」とも呼ばれる松原高校放送委員会（MBS）です。一部では、（顧問）がオタクの集まりと思われがちですが、この委員会の活動を紹介します。一、入学式や、卒業式などの時の放送設備の操作と司会。二、体育祭のアナウンスとBGM。三、文化祭のBGM、後夜祭の音楽放送。四、停滞ぎみの「昼の放送」。

昼の放送については、よく「個人的趣味」と言われますが、少数の人で持ち寄った物では仕方ありません。そこで、皆様、流して欲しい曲は、放送室に持って来て下さい。種類は、テープ・CD・レコード、そして、ラジオFM・AMもOKです。

続いて放送室の利用についてお知らせします。

利用時間は、12時35分～7時5分です。放送出来るのは、委員会・クラブ・クラス・教科・生徒会関係の連絡放送です。放送内容を書いた原稿を放送室の中の委員に渡して下さい。ちなみに、放送室は、南棟二階国語科の隣です。

只今MBSでは、やる気あるスタッフ募集中です。健康で、明るく、サボらない人なら、大歓迎です。

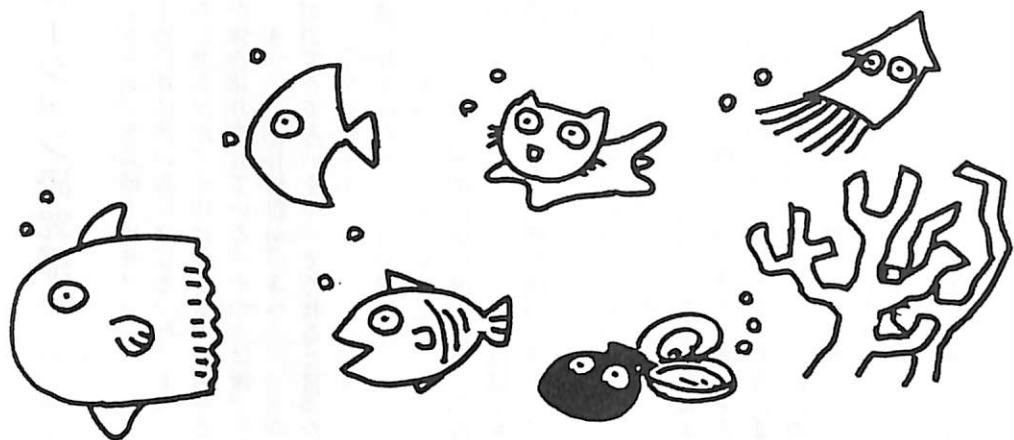
（二B 佐野 龍一）

生徒会誌編集委員会

この委員会の活動内容といったら、やっぱり「ル・クール」を作る、それ以外にはないでしょう。でもその一言ですませるのは、さすがに良心が咎めるのもう少し詳しく説明することにしましょう。「ル・クール」に載せる記事の内容は次のようなものです。体育祭・文化祭などの行事報告、委員会・クラブ・生徒会の活動を紹介する生徒会報告・各クラスの紹介・そしてみなさんから作品を集める投稿欄などです。それらを全員で分担し、記事を集めたり、アンケートをとったりします。一学期から、こういう活動を続けていたわけですが、なかなかこれが難しく、今現在の状況には、かなりせっぱつまったものがあります。そこでみなさんをお願いがあります。「ル・クール」に対するみなさんの関心はそれほど強くないように思います。しかし「ル・クール」は生徒会誌であり、みなさん松高生の手で、作っていく雑誌です。「ル・クール」は、年々つまらなくなっているなどといわれるのも、「ル・クール」に対する関心の薄さが原因ではないかと思っています。私たち生徒会誌編集委員も、少しでも、内容のある面白いものを作るよう努力しますので、みなさんも「ル・クール」に対して活発な意見などを、出してください。

(二C 山口 陽子)

クラブ紹介



演劇部

今年は去年の悩み——部員が少ない、男子が少ない——もめでたく解消。「こりやめでたいぞ。」と喜び勇んで活動をスタートさせたわけですが、神様の意地悪で、予想外の多人数。おまけに楽しい人材が揃ってるとくりやあついついムダ話に花咲いてしまうのはこの世の常識。まともまいにくいし軌道修正する人間も時には……いない。そりやあもう困ったもので、夏休みはほとんど毎日顔をつき合わせ、合宿まで行っちゃったりしたのに文化祭二日前にセリフが抜けちゃったり……のテンヤワンヤ。けどやっぱり、神様は私たちの味方だったのねっ！一九九〇年度演劇部文化祭公演「ナツヤスミ語辞典」はいくらか(？)のハプニングが起こってしまったにもかかわらず、見事にぐぐり抜けてとりあえず成功に終わったわけです。ほらほら「終わり良ければ全てよし」って言うではないですか。とにかく仲がいいです私たち。確かに練習中は仲が良すぎるのも欠点となるかもしれませんが、自覚してません。楽しければいいんだと思います。やるべきこと——文化祭、冬、春の公演そしてコンクールに精一杯力をそそぐのであれば。

楽しみながら演る時はやる。いろいろな役に挑戦する。この二つが今年のモットーでした。発声をはじめとする基礎だってやります。真面目に、しかも楽しみながら。嘘だと思ふんなら舞台裏をのぞいてみてください。笑いもあれば涙だってあるんです。

(二A 林 彩子)



アニメーション研究部

シュミレーションゲーム アニ研を探せノ
君は松高という名の森に迷い込んでしまった。1へ
1歩いているうちに湖が出た。そばに大きな木があって
その下で誰かが弾き語りをしていた。その人は誰。
①スナフキン 4へ ②谷村新司 3へ
2へムレンさんが出てきて占いをやってくれると言った。
①やる 8へ ②やらねーよ 5へ
3谷村新司と一緒に昂を唄おうノと言ってきた。
①唄ってやるぜノ 6へ ②えーやんない 2へ
4スナフは立ち上がり「僕と一緒に旅に出ないか」と言う
①「ごおういずゆう 7へ ②のんのん(某K氏風) 5へ
5さあ大変。突然ニョロニョロの大部が襲ってきた。
君は死んでしまった。 げーもーばー
6唄い終ると目の前に堀内たかがいて「もつと唄おう」
とつれてかれてしまった。 げーもーばー
7スナフについていくとムーミン谷についてそこにはムー
ミンがいた。ムーミンが「僕ってカバ？」ときいてきた
①おめーはカバだ5へ ②君はカバじゃないバカだ8へ
8突然はげしい光が君をつつみ目をあけるとそこには数人
の人が唄い踊っていた。上のたれ幕にはこうあった。
「うたって踊れるグローバルなカルチャークラブ
アンメーション研究部へようこそ」

(二C 中村千津子)

ブラスバンド部

普通、クラブ紹介と言えば良い面ばかりを並べ立てて、
たくさん部の員に入ってもらおうと思いがら書くけど:
私は今のうちの部の状態を正直に書きたい。

昨年は、まるで悪夢のような年だった。春には新入部員
が20人を超え、皆はりきっていたのに、あつという間に大
勢の人が退部してしまった。と言ってもじよじよに減って
いったのではなく、ある時を境にいきなり集団で消えてし
まった。そう、止める間もなく。でも今もくじけずに残
された19人の部員達はがんばっている、まるでドラマのよ
うに。中には、人数の足りなくなったパートへ進んで移っ
て行かれた(敬語)人もいて、実に涙ぐましいと思う。

このように今、うちの部は絶体絶命の危機を迎えている。
春には演奏会が行われるが、どうなることやら...

少し話を変えて、活動日は日曜日を除くすべて。と言っ
ても木曜日は自主練、休んでもけつこう。年間行事は、入
学式に始まり、対面式、コンクール、文化祭...と大忙し。
はつきり言つて、この部に入るには相当の覚悟が必要。
なぜってそりゃ...入ればわかるさ。まあ入ってからじゃ遅
いんだけど。私としては一人でも多くの人に入ってもらっ
し、入った以上は誰にもやめてほしくない。
仮入部は大歓迎。本入部はよく考えて...ね。
でも、楽器を吹くことは楽しいぞ。一度はおいで。

(二A 橋ノ口久美子)

合唱部

毎週月曜日と木曜日に、音楽室から歌声が聞こえるのは
私たち合唱部が活動しているからです。

顧問は菊地先生で、一人一人丁寧に指導して下さいます。
年間を通しての主な活動は、四月の入学式と五月の体育
祭の校歌斉唱。九月の文化祭、十一月の地区音楽会、そし
て一月の中央音楽会です。

地区音楽会と中央音楽会は、二学区の他の学校のみなさ
んと力を合わせて、混声合唱を発表します。私たちにとつ
ては数少ない他校との交流の、チャンスでもあります。そ
して中央音楽会では、上野にある東京文化会館の大ホール
のステージで歌えるという、めったにない体験をすること
もできます。

人数は少ないのですが、ほのほのとしていてとても楽し
い部です。歌が好きの人、もっとうまくなりたいと思っ
ている人、音楽室のドアを開けてみてください。

(二B 桑原 里佳)



華道部

毎週一回、京都古流の家元でいらっしゃる久野連峰先生
をお招きして、花を活けています。

華道部と言うと、「おとなしい」とか「ねくらだ。」とか
思われがちですが、実際のところは決してそうではないの
です。笑いがあふれ、花を活ける時には心が和み「どう挿
したら美に近づけられるか」を常に心掛けて、清らかな活
動をしています。また、先輩後輩の厳しい関係もなく、個
性をお互いに尊重しあつてのびのびとしています。

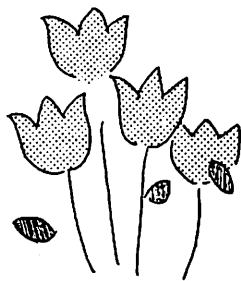
花を活けることを主な活動としているため、他の部活ほ
ど目立った活動はしていませんが、文化祭では一番の「花」
であると自負しています。あなたもお花を活けて、雑念を
一掃してみたいと思いませんか? 初心者、大歓迎です。

活動日 毎週土曜日

時間 一時半〜三時半ぐらいまで

場所 会議室

是非、見学をしに来てください。あなたの入部を待つて
います。



(二A 上原恵美)

美術部

わが部は部員が少ないので、来年も存在するか否かが問われている。しかし、少人数だからこそ、アットホームで道具の取り扱いもなく仲良く活動している。

隣りのアニ研の気迫に押されながらも、明るく、のびのびと自由を尊重するポリシーある部活なのです。

先輩も優しく言うことなし。

油絵から紙粘土までの幅の広さ。

美術のうまい・へたは関係なし。

楽しめればそれでOK。君もアーティスト。

さあ！美術部の未来を担おう。

(二A 滝永 律子)
(二F 藪内 秀子)



クッキング部

私達クッキング部は毎週木曜日に食物室で活動しています。自分達で作りたいものを決め、買い物にも行きます。部員は二年生六人と一年生十一人です。クッキング部という「おとなしい人の集まり」とかあまりいい印象がないでしょうが、そんなことはありません。荒井先生を先頭にみんな明るく、楽しい活動をしています。

今年の文化祭では、三年生女子食物選択の方たちと合同で、パーラーをしました。メニューはカレーライスや和風スパゲッティ、アップルパイ・ティラミスやパフェ、クッキーなど販売しました。売れゆきはなかなか良くて、好評でした。私達は文化祭のために、夏休み前から色々計画を立てがんばりました。文化祭一週間前になると、カレーの作り方も練習し、クッキーも千五百枚以上焼き、とても大変なものでした。当日も朝七時から来て仕込みをしたり、かたづけの時なんて気力で働いていたようなものでした。しかし、今となってはとてもいい思い出ができたなあと思います。来年も、パーラーをやろうと思っていますので、楽しみにしてください。

(二A 金原 明美)



生物部

先ず生物の話。生物室にはいろんな生物がいる。この前ダイエーで熱帯魚を買ったが、その中で一番高価だった、黄色のがいて、実を言うところある部員Hに無理矢理買わされたのだ。それはいいとして、他にハムスターや鼠や鶏、そんでカエルがいて……。部員はそれを世話する。しなくちゃならん。が、なんせ怠けもののつぶざろい、今年もいくらかの生物達が逝ってしまった(K先生の指?がかかっているというウーバーまで逝ってしまった)。

で、一部の部員で実験をしたりもする。ここでもHは麻薬をつくるのか爆弾をつくるのか言い出す。一応まじめなだけで……。

と、こんな具合で、さらに部員が変。Hを筆頭に間抜けなM、歌うお姉さんのY、いつも元気なさそーなK、寄生獣を返してくれないK先生、牛がタクシード酔ったようなS、まあ、まともなのは俺ぐらいだ。

というわけで、生物部、万才!

(二F 棚村 浩)



物理部

物理クラブは休部していたのですが、今年から本格的に復活し、現在、部員が15名になっています。しかし、ほとんどの人が天文部、生物部、写真部などとかけもちをしていて、物理部だけに入っているのはたったの四人です。

今年の活動の目標は、エレクトロニクス作品を製作しながら、コンピュータの基礎回路を研究することです。

一学期は、電気回路に慣れ、組み立ての技術をマスターするために、簡単な電気回路を使った作品を、実際に作ってみました。

FMマイククロホンなどを作ってみました。なかなかうまくいかなかったものもありました。失敗を繰り返しながら完成した時の感動はたいへんなものでした。これらの作品は輝松祭で発表しました。

二学期は、デジタルICを使ったデジタル回路の研究に入っていく予定です。RAMメモリーや、CPU、ICの基本動作を理解するための、実験回路の製作や実験をやっていたいと考えています。

女子部員が一人もいないので、女の子の興味のある活動も検討していきたいと話合っているところです。

(二E 福田 富保)

軽音同好会

軽音同好会は二年前に発足したばかりですが、もうすぐ、部になります。

気になる会員さんは、

部長 加藤慎也くん(二年) G,

副部長 林京子ちゃん(二年) Vo,

関根健くん(一年) Drs,

会計 中西由美子ちゃん(二年) G,

滝尻尚子ちゃん(二年) Vo,

書記 沢村牧子ちゃん(二年) G,

戸井路子ちゃん(二年) Key,

その他にも、髪が肩より長い男の人や、ヤンキー上がりの女の子、やたら元気なヒトとか、イロイロいます。

きつと、見てるだけでも楽しいから一見の価値あり、だよ。

今までは結構、活動とか不定期になったりとかしちゃってたけど部になったからには、きちんと、活動します。

部長はカッコいいし、会計はカワイイし、その他の部員もみんな松高を代表する美男美女ばかり。

もちろんルックスだけでなくみんな高校生とは思えないほど上手な G・B・Ds・Key・Vo を聞かせてくれるぜ。

というワケで軽音部をヨロシクね♡

(二D 加藤慎也)

陸上部

うちの部は、とにかくいい部です。別にすごく強いわけでもないけど、みんななまじめに練習に出て来るし、おいしいおみやげ買ってくるし、まあ部長を代表によい子の集まりみたいな部です。そんな陸上部でどんな事をやっているかというところ、走っているんです。学校の周りをダッシュしたり、砧公園までジョギングしたり。ただ一言「走る」と言ってもいろいろ技があるわけですよ。他にフィールドもいろいろやっていて、高跳び、幅跳びはもちろん、砲丸とか槍とかもやってます。砲丸とか槍とか、ただ投げてるだけみたいにいる人もいると思うけど実は非常に技がいる。教訓「陸上を甘く見てはいけません」

陸上という人多くの人は、まず一〇メートルとかの短距離種目を考えるとありますが、やっぱり陸上は長距離です。このおもしろさは、陸上部に入ってみればたぶんわかるんじゃないかと思うような気がします。まあとにかくヒマな人とか本気で陸上やりたい人とか遊びのつもりで入ってみましょう。気合入れてやればどんな人でも体育祭で目立つくらいにはなれます。それから陸上部の活動日は、火、水、木、土の週四日なので、見学したかったらいつでも見に来てください(どこかの公園に行ってるかもしれないけど)。

とにかく楽しい所なので、特に一年生は一度来てみましょう。

(二A 河村 甚)

ラグビー部

ラグビー部は月、火、水、金、土曜日にグラウンドで三年生十二人、二年生十人、一年生十三人の計三十五人とかわいくはないかもしれないけど親切なマネージャー四人と、うわさでは前世ではタヌキだったという元気の顧問の大場先生で活動しています。部員もラグビーやめてもお笑いで生きていけそうな個性あふれる人が多いので練習中もアフターもマイペースでまるでチームワークがないように見えるけど、試合になると全員が一丸となってしまします。

平成二年度高校総体成績

一回戦 松原VS都立東 32-0

二回戦 松原VS都立国分寺 6-0

三回戦 松原VS都立葛飾野 24-3

四回戦 松原VS都立園芸 0-16

以上は春に行われた大会の結果です。四回戦を勝てば、ベスト8に入れたのでとても悔しかったです。

今はとても弱いですが、昔は全国大会の東京都の予選でベスト4やベスト8に進出したり、関東大会に出場したこともあったので、これらの成績を目標にしてこれからがんばっていききたいです。

(二E 新屋 大樹)

サッカー部

今年のサッカー部は、二年生と一年生の仲が非常に良い。部活をいやがる者もいなくなり、平和そのものである。女子部員も数名入り、それぞれががんばっている。ただ、練習の時に二年生の密度が低いのが問題である。来年に期待しよう。(去年も同じ様な事を言われた気がするが...)。

練習の時に派手なユニフォームを着ている者も一人いるが、MG各氏もがんばってくれています。こんな部ですが、どうぞよろしく。

(二E 峯木康之郎)



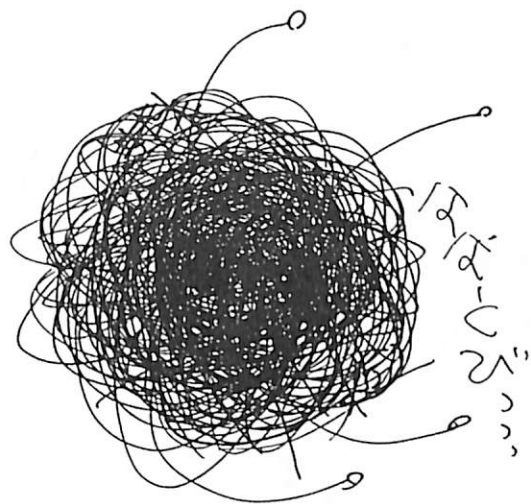
軟式テニス部

私たち軟式テニス部は、体操素振りからはじめ、乱打・ランニングボレー・ランニングストロークをし、最後にサーブ・レシーブをします。

活動日は、月・火・木・金・土ですが、毎回出る人が、順番のようになっていきます。そのため試合に出れば一回戦負けがあたりまえでしたが、九月九日にあった新人団体戦では、念願の一勝を果たすことができました。

こんな調子で軟式テニス部は、元気に活動しています。

(二E 三木 陽子)



野球部

今年の野球部も昨年に引き続き、スーパースターの集まりである。まずキャッチャーのO君は一年の途中から入部して、三度の飯より筋トレ好き(?)の男で、筋トレの月曜日に彼の顔を見た者は、ないノなんと一年のマネージャーに手を出そうとしたこともあるクセのある男である。二塁手のT君はカンフー映画に影響されて、自ら筋トレを行い、その筋肉により強引に内野安打につなげる奇妙奇天烈な副キャプテンである。ライトのK君は、一年の最初から入部しており、今はよく知らないが、当時の彼の欠席率は素晴らしい、更に試合などの集合時刻に彼の姿を見た者はないという、とてもケジメのある男である。しかし今では、ある時はキャッチャー、ある時は一塁手、ある時は三塁手、ある時はレフト、ある時はベンチ、ある時は行方不明という、ジプシー野郎である。センターのA君は野球部キャプテンという座であり、しかも野球部一の秀才、野球部一の運動神経、更に四番打者というおまけまでついている。彼は控え投手でもあり、内容を見ると、ボール、ボール、ボールと、フォアボールを連発して、自らピンチに追い込みながらも、まだフォアボールを与え続ける命知らずな男である。最後に一塁手のT君は、松高一の後頭部から発する美声で敵を惑わし、更には相手チームと口ゲンカさせたら右にでる者はない。また、彼は野球部一の俊足である。が、そう思っているのは本文の作者Tのみだ。(二B 荒幡 昌彦)

ソフトボール部

ソフトボール部は、今、少し落ちぶれています。人数が少ないことが、さらに新入部員を少なくします。そのため練習もろくなことができないので、とうとう、月・水・金・土の練習日も、月曜日だけの週に一回になってしまいました。ところが、練習が少なくなったことにひかれて、なんと二年生が少し増えたのです。もしかしたら、それで一年生が少し増えたりするかもしれません。そうしたら、来年は新入部員が多いかもしれません。今のソフトボール部はそんな状態です。

でも、やっぱり試合もきちんとしたいし、バリバリ練習したいと思っています。それには!!

これを今、読んでくれているあなたが入ってくればいいのです。ソフトボール部は他の運動部と違って、勉強にさしつかえる程、きつくないし、しよと思えば兼部もできたりします。ちよと体を動かしたいなと思うくらいでも大丈夫、さあ一緒にアジア大会を目指そう(ちよとちがうかな?)

ホームランを打った時にはあまりにも気持ちよくて、病みつきになりますよ。

では、新入部員を待っています。

(二A 日向あすか)

バドミントン部

これから君たちにバドミントン部の魅力を教えてあげるから、目ん玉が落ちる位に目を見開いて読んでよね。

まず、誰もが気になる部員の特徴から始めましょう。またこれがすごい人種の集まりで…。なんて事は言いません。先輩後輩の仲は、まるで兄弟、姉妹、のようです。微笑ましい光景だと思いませんか?もうこれ以上の事は書き表しません。もっと知りたい人は入部しましょう。

さあ本題の活動内容について述べましょうかね。私達、僕達の部は火・木・金の週三回を体育館で過ごしています。その練習内容は、ただみんなでシャトルを打ち合ってるだけではないのです。I君、Iさん、Iさんetcで考え出した「自分の実力を伸ばすぞ方法」を取り入れてます。これで技術面を成長させ、着実に進歩させてます?!バドミは、技術の他に体力も必要とします。そのため、毎週月曜日には、「キン肉マンの様な筋肉と、トンイアスロン人間の様な体力をつけようじゃないか期間」ということで、筋トレをしています。参加者は、真面目な人だけです。

あまり具体的に書きませんでしたでしたが、絶対に楽しい部です。足首はキュッと締まります。それに:試合中で、「ウリヤー、スマッシュだー。」と言って(言いません)。コートに打ち込んだときは、もう、たまりません。私たちと一緒にスポーツとしてのバドミを楽しもうではありませんか。絶対に損はしません、させません。(二E 井上 みみ)

女子バレーボール部

私達女子バレーボール部は、一・二年生が仲良く、OGの先輩方にもたくさん指導をしてもらい、楽しく活動しています。

火曜日を利用しています。

私達のクラブは、OGの先輩方が忙しいため、練習をずっとしてもらえないので、自分達でメニューを考えてマイペースでやっています。たまにだらけたりしますが、やらなければいけないという時には、みんなで力を合わせ、一所懸命に取り組むクラブです。

マネージャーさんは、一人しかいませんが、すべての仕事をしっかりとこなしてくるので私達は、楽に練習することができ、すごく感謝しています。

私達がおっとりしているので、顧問の先生も不安なものがあるのか、よく声をかけてくれます。

まだまだ勝ち進むほどの力はないけれど、これから一・二年生で力を合わせて練習をして、一つでも勝ち進めるように努力していこうと思っています。

(二B 大西 綾子)

男子バレーボール部

私たち男子バレーボール部は、毎週月・水・金・土曜日に体育館一階で活動しています。主な活動内容は、サーキット(筋トレ)・レシーブ練習・サーブ練習・スパイク練習などを様々な形式で行っています。

部員数はマネージャーも含めて二十人弱ですが、普段はもちろん、長期休業中の練習や練習試合もとても楽しくやっています。特に最近は練習試合もたくさん組んでいるので、今度の公式戦での成果を期待しています。

私たち男子バレーボール部は、こういった感じで練習していますが、少しでも興味を持った方は是非遊びに来てください。

(二B 岩崎 勇一)



女子バスケットボール部

私たち女子バスケットボール部は、体操・ストレッチからはじまり、ランニングシュートや、シューメン・スリーメン・シュート練習・一対一・三対三etc.で最後に五対五を練習しておわります。一時間三十分という限られた時間しか練習できないので、短時間に集中して三部にあがれるようにがんばっています。夏休みが終わるまでは、基礎体力づくり、二学期からはセットプレーなどが中心となります。たくさん走るからつらいけど、試合で勝った時はとてもうれしいので、つらい練習にも耐えられます。一年生八人、二年生五人というわりと少ない人数です。人数が少ないので、五対五も女子だけではできない時もあるので、人数が多くなることを望んでいます。練習日は月火水土が体育館、木が外練です。

(二D 松田 美歌)



剣道部

みなさんは、剣道というものをどのようにイメージするでしょうか。おそらく「臭い」「痛い」「暗い」とか、イメージするでしょうが、まったくそのとおりで練習後、小手のおいがなかなか落ちず、五分ぐらい手を洗うこともあります。又、Kの面が痛くて涙することもあります。

以上のような暗くつらい毎日を送っているが、部員は明るく、強者がそろっている。まずナバ・キャットワンチャイに似てる奴、名前が変わっている奴、練習中に屁をこく奴、とにかく変な奴、などの大バカ野郎ばかりだ。このバカどもに顧問の三四郎のババを加えるとなさには、史上最低の軍団と言っても過言ではないだろう。ババは剣道三段であり、国語科の帝王?として松高では有名である。最近ババは、あきカンを集めるのが趣味でたくさんのカンを、剣道場のわきに置いてあり、そのおかげで夏場は生ゴミくさい中で練習させていただけました。

以上のようにどうしようもない人ばかりの集まりだけど、剣道にかける情熱は、どの学校にも負けません。(試合はすぐ負ける)。練習日は、月火木金の週四日、剣道場で大暴れしています。興味のある人は、いつでも剣道場に来て見てください(初心者OK)。きっと後悔するでしょう。

(二C 松島 俊弘)

水泳部

どうも、こんにちは。水泳部部长(肩書き)の南雲です。水泳部といいますが、泳いでいるだけ。ではないのです。まあ、基本的には泳ぎますが(あたり前)ただ泳ぐだけではないのです。我ら水泳部は何と、あの「水球」を行っているのです。えっ!? 水球を知らない…。困ったなあ…。簡単にいえば、「水中ハンドボール」かな? 七人対七人で点を取り合うのです。また試合中に何回でも人を入れ替えられるのです。これを聞いて「楽なスポーツ」だと思った君ノ考えが合成甘味料だぞ。なぜなら、プールの水深は二m!! しかも五分を一口オーターとして四クオーター行いうから、合計二十分!! しかも五分間全力で泳ぎっぱなし!! 泳げない人はもとより泳げる人でもキツイ。たいした事ないと思っただけの人ならやってみなさい。(三回ある休憩はそれぞれたったの九十秒ノ) どんなものかわかるでしょうから。まあ、これで「水球」というものが少々ですが理解していただけたと思います。もし、「水球」というものに興味を持ちましたら、我が水泳部員(少数精鋭)に御相談を!! 君達の入部を待ってるぞ!!

(二D 南雲 嗣之)

活動報告

女子バスケットボール

春季大会

松原50―市ヶ谷商34 松原32―山脇33

女子バスケット選手権大会

松原43―香蘭30 松原16―慶応78

夏季大会

松原24―聖ドミニコ45 松原36―富士見丘25

世田谷大会

松原61―昭和女子59 松原37―聖ドミニコ

松原45―目黒39 松原38―富士見丘56

女子バレーボール

吹奏楽部

平成二年度松原高校吹奏楽部活動

4/10(火) 入学式 4/11(水) 対面式/クラブ紹介
5/20(日) 体育祭 8/12(日) 8/16(木) 夏季合宿
8/18(土) 『東京都吹奏楽連盟主催高等学校吹奏楽コンクール』 出場 銀賞受賞
9/22(土) 9/23(日) 輝松祭 11/10(土) 松原高校創立四十周年記念式典 11/17(土) 芦花中学校創立三十周年記念式典招待演奏 3/24(日) 第十四回定期演奏会

男子バレーボール部

新人戦

広尾2―0松原
駒場2―0松原
新宿1―2松原
春季大会
麻布2―0松原
夏季大会
一回戦

永山1―2松原

二回戦

池袋商1―2松原

三回戦

岩倉2―1松原

硬式テニス

1989年

世田谷大会(夏)

夏季リーグ兼夏季大会予選 一勝四敗

東京都総体全日本高校選手権予選 二回戦負け

夏季Ⅱ部大会 一回戦負け

シングルス 鈴木ベスト8 堀井(和)ベスト8

千葉(真)ベスト16 舞草4R 金子3R

ダブルス 舞草・服部ベスト8 鈴木・堀井(和)

ベスト16 千葉(真)・金子3R

新人戦(秋)

シングルス 鈴木5R 堀井(和)5R 舞草4R

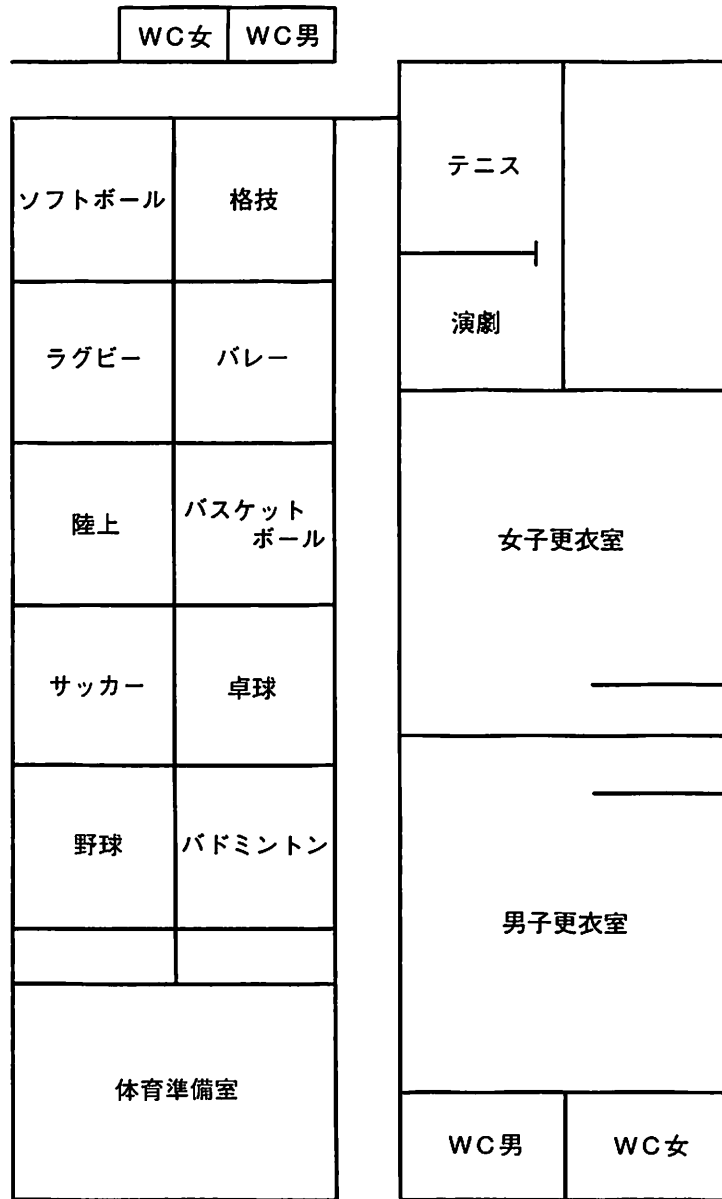
1990年

高体連(春)

シングルス 鈴木4R 堀井(和)4R

世田谷大会(夏)

体育館部室配置図



野球部

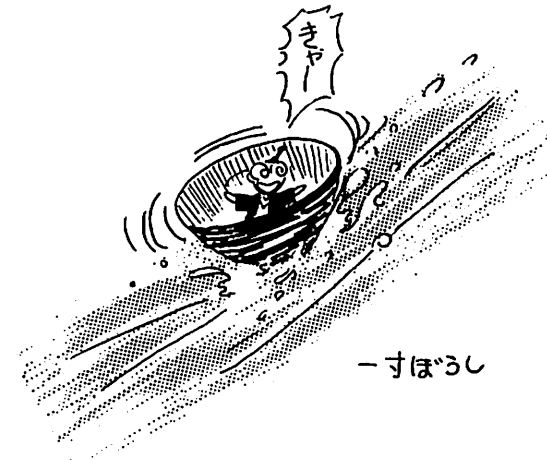
夏休み前に練習試合を三回やりました。一回目は高輪高校と行い12-3で松原が勝ちました。二回目は砦高校と行い4-4で引き分けでした。三回目は日本学園と行い0-3で松原が勝ちました。公式試合は、三年生最後の試合でした。江北高校と行い、グラウンドは上井草球場でした。白熱した試合で、松原が先攻で、最終回裏2アウト、2ストライク、3ボールで1点リードしていました。あと一球でこの試合の結果が決まるというときに、相手チームに2ベースヒットを打たれてしまい逆転され、その時点で試合は終わりました。結果は7-8でした。夏休み明けの後は、練習試合で保善高校と行い、7-1で負けました。公式試合は、早稲田高校と行い、グラウンドは上井草球場でした。後攻で一回裏に松原は1点得点しました。そして三回まで1-0でリードしていましたが四回裏に、調子をくずしたかヒット続きで、6点取られてしまいました。そのまま1-6で九回の表、又一点を取られて1-7になってしまいました。しかし4-7で、松原は負けてしまいました。だけど、とても内容の良かった試合だと思います。(二B 荒幡 昌彦)

ソフトボール

春の大会 負け 夏の大会 松原-池袋商 負け
松原-台東商 負け

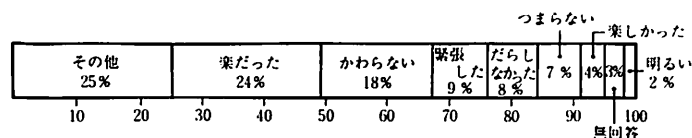
サッカー部

高校サッカー予選	
対稲城	1-3 負
練習試合	
対千歳	0-1 負
対江戸川	0-5 負
対専大附	0-7 負
対専大附	2-5 負



一寸ぼろし

■ 中学校の時と比べどうでしたか。

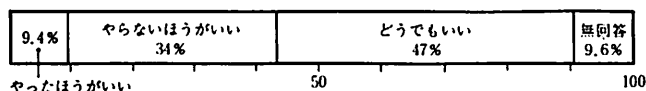


2 松高の第一印象は？（複数回答）

- ・ 自由……………54人
- ・ 明るくて楽しい……………43人
- ・ 汚い……………33人
- ・ 狭い……………29人
- ・ 校舎の形がおもしろい……………20人
- ・ きれい……………11人
- ・ 先輩の感じがよい……………11人
- ・ すごい！……………8人
- ・ つまらない……………4人
- ・ その他……………65人

松原高校に対しての印象は、入学当時とどう変わりましたか。二、三年の先輩方も、入学式のことまだ覚えていますか。あの緊張感や、やっと高校生になったという喜び、私達一年も、もうすぐ忘れてしまうのでしょうか。何だか少し淋しいですね。

3 入学式の時「君が代」と「日の丸」がありませんでしたが、このことについてどう思いますか。



4 入学式の日、制服でしたか、それとも私服でしたか。

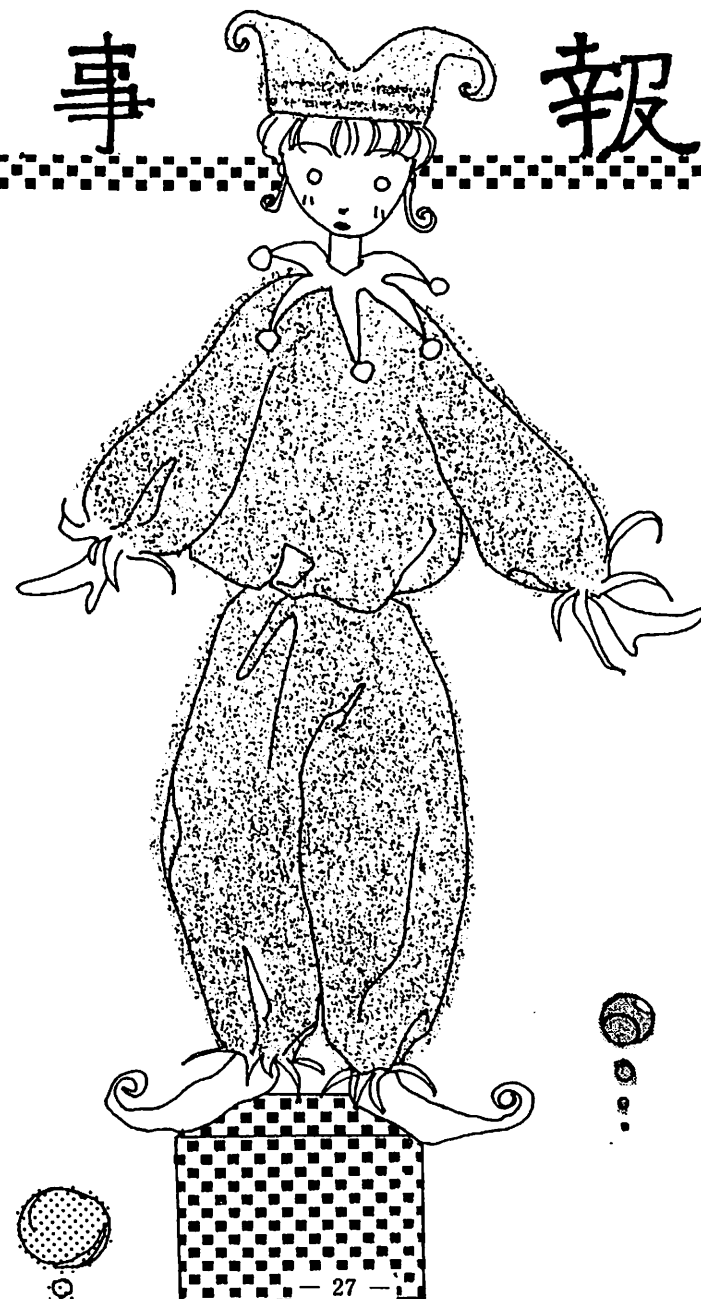
- 制服……………178%
- 私服…………… 53%
- 無回答…………… 6%

入学式

例年より少し早く開花した桜の中、平成二年度の入学式が四月十日に挙行されました。この日、私達一年生は松高生として、また新しい高校生活への第一歩を踏み出しました。中学校の時のと比べて、高校の入学式はどうだったでしょうか。一年生みなさんにアンケートに答えてもらいました。

行事

報告



遠足

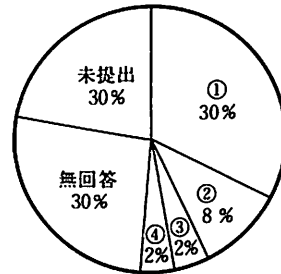
一年生 相模湖ピクニックランド

嬉し楽しや飯盒炊爨

平成二年 五月十一日 五月晴れのさわやかな朝、眠い目をこすりながら、数時間後には胃におさまっているか、ゴミと化すかもしれない重い材料を持ち、足どり軽く(?)、遠足の一日は始まったのでした。

突然ですが、次にアンケートの結果です。

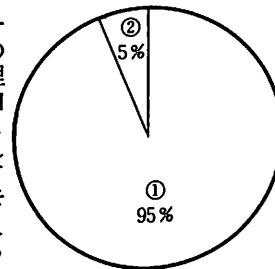
Q. 遠足についてどうでしたか?



- ① おもしろかった。
- ② おもしろくなかった。
- ③ どちらでもない。
- ④ もう行きたくない。

・ おもしろかった・無回答・未提出の人が同数でした。アンケート用紙はどこいったんでしょう?

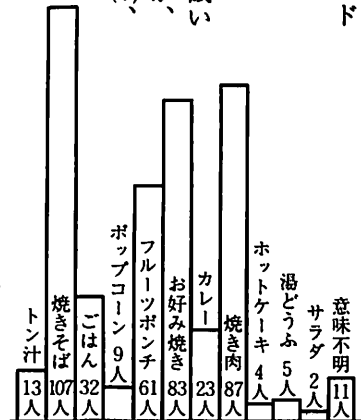
Q. あなたの班の献立は何でしたか?



- ① おいしかった。
- ② おいしくなかった。

・ その理由として考えられる事

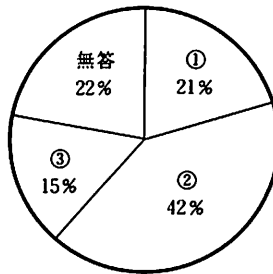
- ① ・ みんなで協力したから。・ ジャンがうまかった。
- ・ 極めて腹が減ってたから。二十人前作ったから。
- ・ 説明通りに作ったから。
- ・ そりゃあ私がいいますから(?)
- ② ・ こげたや焼きすぎた。
- ・ 食べていない(?)
- ・ ...などでした!



Q. 出来栄はどうでしたか?

意味不明はやきものと、やきうどん・かまど(?)です。からすに材料をつつかれたという班もありました。かわいそうですね。
笑 わっはっは

Q. バスガイドさんはどうでしたか?



- ① 美人だった。
- ② あまり美人でなかった。
- ③ 美人不美人に関係なく説明が優れていた。

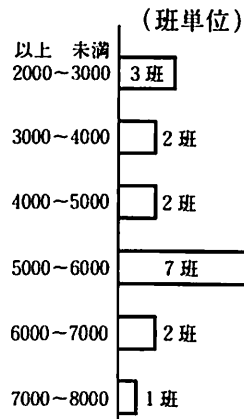
・ みんなバスの中で、カラオケ・UNOなどをやっていたのでバスガイドさんを見てない人が多いようです。

Q. レクリエーションで何をしましたか?

- ・ 散歩と昼寝
- ・ 乗り物
- ・ スポーツ一般
- ・ 卵割りゲーム
- ・ バスへ戻る(?)

・ 乗り物料金が高くてみんなお金を出ししぶっていたようです。一体卵割りゲームとはなんなんでしょうね?

Q. お金はいくらぐらいつかいましたか?



・ 八千円というリッチな班もありました。一体何をつくったんでしょうか?

まだ初々しいみんなが、一所懸命力をあわせて行った最初の行事は、それぞれ個人に思い出が残ったと思います。(書きながらちよつと照れる...) 今後力もあわせて、みんなですばらしい友情を育んでいきましょう。

おしまい

- 一 A 四宮 豪
- 一 C 磯部 喜美子
- 一 D 大澤 純代
- 一 E 宮沢 郁子
- 一 F 堀内 美穂



二年生の遠足

十月の末に予定されている修学旅行の班別自主行動の準備として二年生は鎌倉に行ってきました。

集合場所は小田急線藤沢駅、JR鎌倉駅、北鎌倉駅の三つで、そこから自主行動となつて、各班ごとに鎌倉の大仏や寺院などを訪問することにより、古都の文化を知り、よりよい自主行動となるような班行動を行った。印象に残る二地点、行けなかった所と行った所についてを次に述べたい。

.....

▽銭洗弁天

岩穴から名水の湧き出るこの場所では、古くからこの清水で金銭を洗うと福徳の御利益があるという習俗が残っています。僕はここへ足を運ばなかったで、詳しいことはわかりません。

▽鶴岡八幡宮

赤い鳥居が見えてきました。鳥居の前には、いかめしい面構えの獅子が、両側に二頭、じつとこちらをにらんでいます。僕はおもわず、すくみあがりました。慎重にそこを通り抜けると、若宮大路が一直線にどこまでも続き、その先に鶴岡八幡宮がありました。鶴岡八幡宮は平氏池、源氏池の二つの池を持ち、そこには鯉が放されていました。解散地点の鶴

岡幼稚園は源氏池の近くにあつて、鳩がたくさん群れていました。

(二)C 沢村実 二D 矢崎博文 二D 津吹宏次郎



童心に返った日

我々三年生の遠足は、多数の候補地の中から三年生全員のアンケートによって、東京ディズニーランドに決まりました。

五月十一日、あいにくの曇り空にもかかわらず、ちょうど遠足シーズンということもあって、一般の人はもちろん学生も多数いて、とても平日とは思えない混雑でした。

園内では、それぞれ四〜六名ぐらいの班による自由行動となりました。

みんな嫌なことなど全て忘れて楽しんでいたようです。やはり最初は、スペースマウンテンやスターツアーズなどに人気が集申し、長蛇の列ができていました。どのアトラクションにも、それぞれ細かい工夫が凝らされていました。例えばスターツアーズでは、待ち時間も退屈しないようにと、各所にいろいろな口ポットがいて、それぞれが楽しいアトラクションを見せてくれました。

アトラクションを見終わって、次へ移動しようと人込みの中を歩いていると、不思議なことに松高の生徒とはなかなか会えませんでした。

「いくら広かったてもう少し会いそうなもんだけど。」と言いながら、その広さに圧倒されてしまいました。

やがて、集合時間の四時となり、各クラスごとに写真を撮りました。その際、再入園をする人は手にスタンプを押してもらいました。

写真を撮り終わると、その場で解散しましたが、再入園する人も多く、夜まで遊んでいました。

ディズニーの夜といえばやはり「エレクトリカル・パレード」です。色とりどりのイルミネーションがピカピカととても美しく輝いて、幻想的なディズニーの夜を演出していました。

一日かけて遊んだだけあって、帰る時には、みんな疲れきっていたようでしたが、

「たまには童心に返ってみるのもいいもんだ。」

などとおきまりの文句を言いながら、十分遊んだことに満足していました。

(三)A 今村 和人 三B 岩館 達也



体育祭の結果

まずは総合結果からです。
優勝は、赤組で三七九点でした。準優勝は、白組で三二点、続いて青組で二八七点でした。

今年は、昨年最下位だった赤組が優勝し、昨年優勝した青組が最下位という結果に終わりました。まあ総合結果はともかくとして、個人個人のすばらしい記録を振り返ってみたいと思います。まずは100メートル走からです。

1位	3-E	宮川 尚樹	12秒56
2位	2-D	青木 欣也	12秒67
3位	2-A	山本 謙次	12秒91
4位	3-E	佐々木 清貴	13秒01
5位	3-F	高橋 進	13秒03
6位	1-A	宮藤 有	13秒11
7位	1-F	西垣 晶弘	13秒11

次は女子100メートル走です。

1位	1-E	土堂 久美子	15秒15
2位	1-F	進藤 佳美	15秒78
3位	3-F	杉本 美香	15秒98
4位	2-D	板宮 由紀恵	16秒8
5位	2-A	山口 秀美	16秒10
6位	1-B	川井 比呂子	16秒22

男子の一位はやはり三年生にもっていかれてしまったようです。しかし二年生もちよつとのタイム差で上位に入っ

ています。一年生もよくがんばったと思います。
女子は一年生が一番がんばったようです。上位に赤組が固まっています、優勝した意気込みが感じられます。
次は長距離の記録です。女子は800メートル、男子は1500メートルを走りました。女子から、

1位	1-E	世利 夏子	2分54秒
2位	3-F	石井 明子	3秒03
3位	3-D	小林 佐知子	3秒06
4位	2-F	永山 恵子	3秒11
5位	1-B	鈴木 三奈	3秒14
6位	3-C	木村 美香	3秒15

松高の校庭で800メートルというところ、ちょうど四週分に当たります。みなさんおつかれさまでした。次は男子です。

1位	3-F	石川 康雄	5分05秒
2位	3-B	桑原 弘路	5秒06
3位	3-D	井川 淳	5秒15
4位	2-B	渋谷 快	5秒20
5位	3-G	森田 昌宏	5秒27
6位	2-F	棚村 浩	5秒28

1500メートルは七周半走ることになります。一年生が一人も入賞していない所を見ると、体力的にかなりきつい距離のようです。

次は、みなさんが応援に燃えたりリレーの結果です。まずは、女子400メートルリレーです。

1位	3-D	椎名・神保・中野・山口	62秒53
----	-----	-------------	-------

次はフィールド競技の結果です。

2位	3-A	林・平塚・高野・白銀	64秒05
3位	1-E	小野沢・中原・宮沢・土堂	64秒73
4位	2-B		64秒81
5位	2-E	3位以下の名前は	64秒88
6位	3-G	省略させて頂きます。	65秒18

男子は、スウェーデンリレーと言って、第一走者が百M第二走者が200M、第三走者が300M、第四走者が400Mで合計1000Mを走ります。次がその結果です。

1位	3-E	中沢・藤田・石川・秋本	2分24秒24
2位	3-C	山本・井塚・中條・服部	2秒25秒33
3位	3-A	村尾・阿部・井口・坂下	2秒26秒95
4位	1-A		2秒28秒32
5位	2-A	3位以下の名前は	2秒29秒19
6位	1-D	省略させて頂きます。	2秒32秒20

混合リレーは、男女混合で行われる10×100の100Mリレーです。結果は次の通りです。

1位	2-C	松井・飯田・持田・原・後藤・庄司・山口・米谷・安藤・鈴木	2分27秒36
2位	2-F	千野・前田・相羽・八木・早瀬・佐藤・茂手木・丸山・永山・田中	2分28秒29
3位	3-F	堀井・高梨・保坂・高橋・橋本・溝口・伊達・早水・佐々木・新名	2分29秒05
4位	1-F		2分29秒30
5位	3-G	4位以下の名前は	2分29秒51
6位	1-A	省略させて頂きます。	2分29秒52

次はフィールド競技の結果です。

1位	1-C	菅沼 伸多	1m70cm
2位	2-B	芦沢 主水	1m70cm
3位	3-C	井塚 久充	1m70cm
4位	2-D	青木 欣也	1m55cm
5位	3-D	笹原 卓郎	1m55cm
6位	2-F	佐藤 美紀子	1m55cm

女子

1位	3-D	山本 晋	1m30cm
2位	3-G	久保 恵一	5秒50
3位	3-A	井口 裕之	5秒41
4位	1-F	東 千尋	5秒39
5位	2-D	今井 聡一	5秒35
6位	1-A	荒金 和人	4秒80

男子

1位	2-F	永山 恵子	4m17cm
2位	2-B	遠藤 嘉美	4秒02

3位	1-B	塩手	香恵子	3 m 96 cm
4位	3-D	三宅	静香	3 〃 90 〃
5位	3-G	清水	麻貴	3 〃 79 〃
6位	1-A	秋山	直美	3 〃 53 〃

〈ハンドボール投げ〉—男子—

1位	3-D	塚原	剛介
2位	3-F	狛	裕樹
3位	3-D	河野	健
4位	3-B	坂上	大士
5位	2-B	千葉	進
6位	1-E	高橋	周歩

—女子—

1位	3-D	神保	多佳子
2位	3-A	遠藤	知子
3位	2-D	小林	未央
4位	2-F	千野	恵美
5位	2-C	後藤	ゆう子
〃	1-F	品野	妙子

というわけで今年は、全種目にわたって記録を載せることができました。自分の名前が出ていて驚いたり、喜んだりした人もいます。

皆さん、来年もまたがんばりましょう。

(二A 橋ノ口 久美子)

白組

白組応援団長 三D 橋本 享

今年の白組は、一年生の人数が足りず、初めのうちはどうなることかと思っていた。

少ない一年生や二年が思っていた以上にがんばってくれたと思う。三年生も今年が最後なので一所懸命やっていたが結局優勝することはできなかった。とても悔しかったが、今ではとてもいい思い出である。一年や二年生には、本当の意味でのいい思い出を作ってもらいたい。

最後に、団長をやったよかった……本当にそう思う。

白組応援副団長 三C 平林 真紀

やってよかった。これが私の感想です。三年間の夢がなくなって、副団となった時は、本当に何からやり始めていいかわかりませんでした。だけど、団員みんなの協力と、メンバーの良さが一つの白団を創り上げたと思う。つらかった時もあったけど、本当にこのメンバーでよかった。身勝手な三年の言うことを聞いてくれた一、二年生にはこれからの応援団を大切にしていってほしい。最後の白組応援歌と、みんなのエールは忘れません。

青組

青組応援団長 二A 安堵 元貴

こんにちは。私が二年のくせに団長の大生意気野郎の安堵です。今年の青組は、いろいろな事情があって、二年が団長という今までに例のない形で行ったわけです。が、やはり今一つまとまりに欠けていたような気がして、団長としては、ちょっとくやししい今日この頃です。あの日に、おもしろくやし涙を流せたのは、「青組みんなのおかげ」と深く感謝しています。しかし、このまま引きさがるわけにはいきません。来年は、必ず赤団から「優勝杯」をうばいとり、勝利のおたけびをあげてみせるぜ！

青組応援副団長 三A 田村 恵子

「苦勞とハプニングを感じたい奴、よっといで！」というほど、青組は大変でした。三年がたよりないために前代未聞の二年生団長が誕生し、途中で副団長がかわり、ダンスは体育祭前日に完成。人数が少ないために声は小さく、学年全体競技があると壊滅状態。こんな青組の唯一の武器は、度胸と明るさ、想像力と創造力である。これは「かまし」を見た人ならわかるでしょう。結果は負けちゃったけども、団長と団員のかっこよさでは「当然優勝」でしょ？ね安堵くん。

赤組

赤組応援団長 三E 畑井 一秀

涙を流してから約一年が過ぎ、負けた悔しさ、そして優勝という夢を抱いて再び俺達は真紅の旗の下に集まった。

あどけなさが抜けきっていない一年、言うことを聞かない二年、いい加減な三年。だらしない俺があいつらをまとめるのには、正直言って苦勞した。それでも、みんな、いい奴ばかりで俺としては、団員に恵まれたと思う。

体育祭当日、赤組（赤団じゃないよ）のみんなが俺達の夢を叶えてくれた。感涙を浮かべた奴もいた。

応援団の楽しさを文章にすることはできないけど、「応援団に入って本当に良かった。」これが赤団の三年全員の気持ちに等しい……わけねーか。

赤組応援副団長 三G 舞草 利映

団員のみんな、また赤組で一所懸命、頑張ってくれた人達に本当に心から「ありがとう」って言いたいです。

長くて厳しい練習に最後までついて来てくれて、また協力してくれたその甲斐があって、「優勝」という栄冠を勝ち取ることができました。あの時の感動は、一生忘れません。体育祭当日の赤団のみんなは、一人一人が輝いていました。

最後に、頼らない私に最後までついてきてくれて、本当にどうもありがとう。みんな、私のかわいい妹や弟たちです。是非、来年もこの輝かしい栄冠を勝ち取って下さい。本当におつかれ様でした。



文化祭

出し物

劇

- 1年A組 喜劇「白雪姫」
- 1年B組 「ウエスト・サイド・ストーリー」
- 1年C組 「シンデレラ」
- 1年D組 「日本昔話」
- 1年E組 「贈り物」
- 1年F組 「ぼくらの大冒険」
- 2年C組 「双児とがみがみやの魔女」
- 2年F組 「ちびまるこちゃん」
- 演劇部 「ナツヤスミ語辞典」

展示

- 2年A組 お化け屋敷
- 2年B組 クイズ
- 2年D組 体力測定
- 2年E組 迷路
- 美術部 油絵・個人作品など
- 写真部 写真の展示
- 華道部 生け花の展示
- 家庭科 ホームプロジェクト
- 美術科 一学期の授業の作品
- 書道科 展示

模擬店

- 3年A組 スパゲティ・かき氷・飲み物他
- 3年B組 ホットドック屋
- 3年C組 ドーナツ・ケーキ・飲み物他
- 3年D組 かき氷・フルーツポンチ
- 3年E組 お茶づけ他
- 3年F組 おにぎり他
- 3年G組 アイスクリーム・飲み物
- クッキング部 カレー・おすし・ケーキ等の販売

娯楽

- 吹奏楽部 器楽演奏
- 軽音楽部 バンド演奏
- ア二研 自主制作アニメ
- 物理部 パソコン等
- AV同好会 ビデオ上映会
- 天文部 プラネタリウム等
- 合唱部 合唱
- ESS 後夜祭でのダンス
- 整美委員会 古本市
- 音楽科 音楽選択者の演奏・独唱
- 上條バンド ライブ

大成功!! 白雪姫

— A 長谷川 健人

まず、この劇の制作は夏休みから始まった。クラスの出し物はほぼ全員一致で、劇となった途端に僕を含めた約十名が「執行部」なるものを組織した。しかし、なかなか劇の内容が決まらず、かなりの時間を費やした後この「白雪姫」となった。あえて白雪姫を白雪姫にしたことがオシャレである。内容としては、白雪姫のパロディーになり、執行部のメンバーはギャグ精神旺盛なのでこの劇のパロディー化はなかなかいい案が出来た。しかし夏休みがあけても肝心の台本が未完成であった。仮の台本を制作して、クラスのみんなに配布した。なかなかウケているようだったので、益々劇を大成功させようという意欲が執行部にはあった。しかし、キャストینگは難しかった。立候補をとったが案の定、決まらない。しょうがないので執行部の独断と偏見でキャストینگをした。これは本当に申しわけないと思ったが、比較的スムーズに引き受けてくれた人が多かった。この劇は成功すると確信した。本番までの時間が刻々と過ぎていくなかで、台本も仕上がり、練習も本格的になり、執行部とキャストもやる気みなぎっていた。放課後の公園での練習や早朝の練習の成果が十二分に発揮されることを祈りながらいよいよ九月二十二日の本番第一日目に来た。この日の体育館の客入りは、— A の顔の広さで一番入っていた。二日目も大ウケで大成功に終わった。この瞬間は一生忘れないだろう。

大成功した文化祭

— B 安野 武平

ボンジュール。ハァーイ♡レディ達。ボク達の劇を覚えてるかい?。そう: messins-messinomyを。他のクラスが笑いを入れてる中、ボク達はマジでした。話はアメリカ版ロミオとジュリエット。出てくるキャラはボク達と年の近い少年少女。対立してるストリート・ギャングに親友、兄がいるためにトニーとマリアの愛は引き裂かれてしまう。マリアが死んだと聞かされ、トニーは殺されに行く——死ぬって事は終わる事。何の意味もない。意味があるのは愛してる人がいなくなる事。だから死ぬっていうのは: 愛する人がいなくなる事。生きるって事は何の意味もない。意味があるのは愛してる人がいるって事。だから生きるってのは: 愛する人がいるって事。命なんて大切にやない。愛されてるから命に価値がある。愛しているから。——ってワケで、感動して涙する人も出たボク達の劇でした。フフン♡

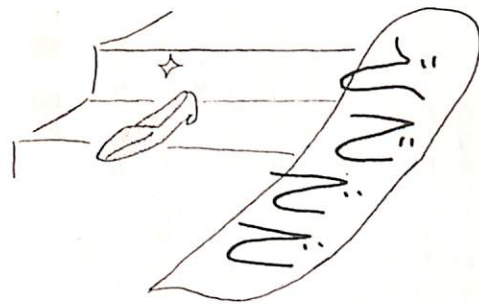


文化祭を終えて

一C 猪瀬 亮介

私たちのクラスはシンデレラの劇をやりました。もちろん脚本はORIGINALです。その中で私はシンデレラという大役をすることになりました。もちろん私は男です。演技はやりずらかったですが、「ウケ」ねらいということもありかなりのOVERACTIIONでやりました。

結果、お客さまが笑ってくれたので私は自己満足できました。もちろんお客様や、他の役をやっていた人も、きつと満足してくれたはず。私たちのクラスは文化祭を終えてさらに仲良くなりました。そしてクラスがいつも和気藹々としています。文化祭を終えて私たちのクラスはこのことをもとにしていつでも協力していい良いクラスになったと思います。



文化祭を終えて

一D 高瀬 信一

今年初めて松高の輝松祭を経験しました。それも文化委員会副委員長という形で、始めは何をされているのか分からなくてとまどっていたけど、だんだん分かっていきました。

またクラスのほうをまとめるのにも大変だったと思います。途中からクラスのみんなが協力してくれたので楽でした。結局、何事もなく、見事に成功をおさめたので文化委員をやったかと思えます。今回の輝松祭は良かったとは思いますが、もっともっと良くなると思っています。今回で満足せず、もっと発展させて来年はもっと素晴らしい輝松祭にしてほしいと思います。

輝松祭を終えて

一E 小野澤 みゆき

結構良かったんじゃない？お客さんも毎回満員で入れなかった人もいたり。アドリブ、盛りあがったよね。その分事前準備も大変だった。小さな口論も絶えなかったり。進まない練習は監督さんを随分困らせたり。自分の不満、口に出せなかった人も多いんじゃないかな。そんな中で初めのステージ。スポットに照らされた時から不安と緊張でいっぱいだった。んー懐かしい。みんなの一人一人の協力があったから成功したと思う。みんなでわいわいやってるうちにいろんな人と話もできたんじゃないかな。本当にみんなお疲れさまでした。どうもありがとう。

F組20日間戦争

一F 林 智加子

うちのクラスは、「ぼくら……」シリーズにちなんで「ぼくらの大冒険」を藤田朋子（似てるー）ことJuJu丸こと藤田純子が隠された才能を発揮し脚本を書き下ろした。20日間戦争とは、夏休みあけから始まった準備期間のことである。夏休み中、集まる集まるというつつ結局集まらなかったつけがまわってきたと思う、この団結力のあると有名な（ほんとかよ）F組は、そろって準備にかかった。特にOさんは役についていながらも、クラスをまとめるためにかけずりまわってくれた。

こうして完成された劇は、輝松祭始まって以来の、大作になった……と今現在も思いこんでるうめぼれ屋のF組一同である。



二A

二A 橋本 隆治

我々二Aは、お化け屋敷をし、そして大成功に終わった。演劇部関係者や吹奏楽部員などが多く、人数はなかなか集まらなかったが、少人数でも、一人一人が、一所懸命に張り、ダンボール集めから、壁作りまで、素速く、また、上手くできた。輝松祭前日ともなると、クラスが一丸となってお化け屋敷のセットを完成させ、そして、輝松祭当日を迎えた。一日目も二日目も、並んで列を作るぐらいの盛況ぶり、喜ばしいことに、四百人近い人が、このお化け屋敷に入ってくれた。知的には行かなかったが、内容的には「高校生らしく」、「豊か」で、「人を楽しませた」と思う。実際そうだったから、人が入ったのだと思うし、中で小道具を動かしている方も、楽しめたのではないかと思う。最後に、このお化け屋敷は、クラス全員の協力と、団結力があつたからこそこんなに大成功をしたと言いたい。クラスの皆さん、御苦労さまでした。



深い反省の文化祭展示

二B 山本 昇平

今年の文化祭については、二Bの生徒には皆反省すべき点があったと思います。他のクラスと比べて、クラスの人があまりまとまっていなかったようだし、準備なども万全とは言えませんでした。そして、あのような不本意な結果に終わったわけですが、クラスがまとまらず、そして誰かが間違った時に誰もそれを止められず、ひきずられてエスカレートしてしまったためだと思います。例えば、自分が制作の時に参加していなかったとしても、それも間違っている事だろうし、全く責任がないとは言えないと思います。今回の事を、一人一人が考え、そして反省したら、次の機会には必ずもっと素晴らしい物ができると思います。

二B 松野 美穂・田尻 俊介

二Bの文化祭に対する構えとして、「何をやるか」という時点での皆の自覚が足りなかったように思う。それでも「クイズ式迷路」と決まり、特定の人になったが、前々日までに、一応の準備は終え、ホッとした。やれば出来るじゃないかという気持ちも湧いた。しかし前日、迷路の壁に、人に非難を浴びるような落書きをした人が出てしまった。落書きをした人も、悪かったが、それを注意し得なかった二B全体に、無責任な気持ちがあったのだろう。この結果を深く反省し、来年の文化祭は立派なものにしたいと思う。

文化祭

二C 沢村 実

「双子とがみがみやの魔女」おそらく誰も知らない童話だったにちがいない。原作を読んだことのある僕は初めて劇の台本を見たとき、かなり原作と違っているのに気づいた。しかし文化祭の一日目に、劇を見物したら、最初の台本を少し変えてあった。良くなっていたと思う。特に魔女の飼猫が魔女に対して急に態度を変えるところや、魔女がほうきを叩きつけるところが、非常におもしろかった。がみがみやの魔女は、体がとても大きいので、劇ではどうやってそれを表現するのかと思ったら、実にうまい方法を使っていた。感心した。

D組の文化祭

二D 矢崎 博文

D組は「体力測定」ということで文化祭の前日になって本格的に準備し始めました。色々な器具を借用したり、客寄せのために教室をかざり付けたりして、準備のときも楽しかったのではないかと思います。そして文化祭当日D組には、予想していたよりもはるかに多くの人達が遊びにきて、何人位教室に居るのか数えられない位で、お客様の反響はきつと大きかったのだろうと思っています。何よりも最大の効果を上げられたからよかったと思っています。

二年E組だ！

二E 後藤 ゆきえ

間に合わないと思ってた
絶対に間に合わないと思ってた
小野先生が汗をいっぱいかいて、
「ほらほらっ」て言いながら、困った顔して
そこら中をウロウロしてる姿が頭の中に見えた
でも文化祭の目には間に合った
みんなで作ったら、ちゃんと間に合った
二年E組の団結力って、すごいかもしれない
とってもすごいかもしれない

二年F組

二F 伊藤 正人

今年の輝松祭で、我が二年F組は演劇「ちびまる子ちゃん」を上演しました。
劇の制作に取り掛かったのは本番の約二週間前でしたがキャストや大道具、小道具、その他の係の人も精一杯努力し、団結してなんとか本番に間に合いました。本番では、キャストの人が悲惨な目にあい、顔にマジックで線を引かれた人、髪を奇妙な形に固められ、さらに金色に染められた人など様々でしたが、それぞれ恥を忘れて懸命に演技してくれました。

私は、この劇の結果の善し悪しは関係なく、この作品を造り上げた二年F組の団結力を見て、今年の輝松祭は大成功だったと思います。

ああA組されどA組

三A 村尾 昌彦

はつきり言って、売れた。それにおせじぬきで一番おしやれだったと思う。味もかなり良かったと思う。が、コストがかかりすぎた。予想以上に売れて大変だった。しかし終わってみると、大変だったことも、楽しかったことも、大きな思い出となってみんなの心のページに刻みこまれたことだろう。そしてA組の絆も深くなった。A組のみんななどの生活もあと二ヵ月。巣立っていく鳥のように、みんな思い出を胸に、あの青い大空へ向かって飛び立っていく。
ああA組されどA組

文化祭

三B 小野 孝善

我等三年B組は、一度食べると病み付きになってしまおうという「ホットドック」を作り出した。これを食べなかった者は、おそらく一生悔恨の念を持ち続けるに違いない。さて、我がクラスの反省点といえば、少しサービスに欠けていた点であろうか？その他は別に見うけなかったと思う。それよりも頑張っている人々が目に焼きついた。装飾の人々、調理の人々、会計の人々、ジュース売りの人々、それぞれ一所懸命やっていて、青春してるなと思った。最後になったが、皆この文化祭で何かを得たと思う。僕は、憧れの人のエプロン姿が良い思い出となりそうだ。

輝松祭をふり返って

三C 木村 美香

今までの文化祭を振り返ってみると、私はいろいろなことをやってきたと思います。

一年のときは体育館で劇をやりました。「ウルトラマンタロウの悲劇」という題名です。体育館に人があまり入らなくて、半分クラスのみんなのやる気がうせたことを思い出します。でもなんとか成功(?)したのでよかったです。

二年のときはクラスでは「同級生」という劇をやりました。その傍ら、生徒会(私はその当時生徒会副会長をやっていました)ではアイスクリーム屋をやりました。どちらも大評判でした。

三年生になると模擬店の許可が出ます。でも私たちの代になって規制が厳しくなったのです。その規制の中で、調理をするとき火を使つてはいけないという規制が決まったのです。私たちのクラスは「お好み焼き屋」に決定したのですが、その規制の関係でドーナツ屋に変更しました。これも大評判(?)でした。変更してどうなるか焦りましたが、大成功に終わってよかったです。

一年からこの三年まで成功に終わってきました。でも、私が経験した文化祭は松原高校従来のものでした。私はこれからの松高生のみなさんに、従来の良い点は残して新しい催しを考えて、輝松祭をどんどん発展させてもらいたいと思っています。

「すばらしき挑戦者たち」

三E 乙幡 耕一朗

奇跡の学年優勝から一年が経った。教室が変わり普段の生活が戻り、彼等も再び淡々と学校に通った。今回は模擬店をやるという。そして、まったく文化祭への盛り上がりがないまま九月、そう彼等の季節がやってきた。

文化祭五日前、誰かがそろそろ残ろうかと言出した。そして六人ぐらい残って作業をしてくれた。日が経つにつれて徐々に残る人が多くなった。ついに昨年の彼等が帰ってきたのだ。今度は「お茶づけ屋」の看板を持って…。

前日の準備など彼等の独り舞台であった。他の店が静まり返っているのにお茶づけ屋はE組の顔で埋まっていた。ほとんどが疲れた表情を見せながらも作業に没頭していた。そこには普段のみんなとは反対の姿があった。当日も彼等の努力以上に良い結果が出た。そして片付けの時間となりお茶づけ屋は教室に変身した。

今回は優秀賞を発表されることはなかったが、文化祭に対する姿勢は言葉では言い表せないものだった。それは自分達がどれだけの事を出来るか試している様に思えた。全員で作上げた思い出を四十八分の一だけ大切に持って行くと思う。目を瞑ると青いハッピーを着た兄ちゃんや姉ちゃん達が威勢よく声を張り上げている姿が浮かぶ。このすばらしき挑戦者たちに僕は拍手を送りたい。

ジュースで乾杯!

三D 山鳥 あおい

輝松祭にうちのクラスは、「かものほし」という店をだし、シュークリームなどを売りました。でもこのシュークリームという売り物はなかなか決まらなくて、模擬店をやるって企画は早くから決まっていたのですが、途中でいろいろ変わったりして結局直前になって決まりました。

服の方は店の名前と同じ「かものほし」で統一したのですが、このTシャツ、この世に存在する人全てを、オーストラリアの自然を駆けまわる小動物のようにかわいらしくしてしまおう、なかなかナイスなTシャツでした。

店の方は連日満席?で、結構繁盛しました。場所も、給食棟前という松原の「おへそ」をねらったこと、あと宣伝マンの方々の努力、作った人たちのセンスが光るポスター最後にクーラーボックスを夜遅くまでかかって集めてくれた方々の努力が実を結んだのでしょうか。途中、目玉商品のシュークリームが売れ残るというハプニングが起こりましたが、さすが三Dの人たち、学校中売り回って全部完売させてしまいました。(中にはかわいいい生徒の笑顔に負けて二回も買わされた気の毒な先生。あと、冷蔵庫を借りている弱みにつけこんでシュークリームをただで奪ってしまう生物の某先生もいたそうです…。)

いろいろありましたけど、高校生活最後を飾るすばらしい文化祭でした。最後に売れ残ったジュースで乾杯したあのおいしさ?は、いつまでもみんなののどに焼きついて、はなれないことでしょう。

文化祭

三F 鈴木 亮子

今年の輝松祭で我が三年F組は、和風喫茶「はやし屋」をやった。本番当日の三、四日前になると皆、放課後も遅くまで残って着々と準備を進め、当日の朝までかかって立派なお店ができあがった。調理の係も朝早くから登校しておいしいうおにぎりやみそ汁を作って頑張った。

そしていざ文化祭が始まると、予想以上のお客さんの入りで、終わる前に売り切れてしまった品物もあったのには驚いたし、うれしくもあった。

こうして二日間の輝松祭は大盛況のうちに終わり、めでたしめでたしでした。

文化祭

三G 北 礼子

私たち三Gは、アイスクリーム屋をやったのですが、みなさんのおかげで、完売致しました。本当にありがたうございます。みんな初めての事ばかりで、慣れなくて、戸惑うこともありましたが、協力し合ってなんとか楽しく天候にも恵まれ、二日間無事にできました。私たちにあって、高校生活のよい思い出になりました。

二年生の修学旅行

《始めに》

一九九〇年十月二十三日から二十六日の四日間にかけて一日目には宮島(広島県)、二日目には津和野(島根県)と萩(山口県)、三日目には萩市内及び青海島の見学といった特別自主行動となり、四日目には秋芳洞の見学といった計画で実施された。一日目は、午前六時四十分と大変早い時刻の東京駅集合だったため、例年と同じように少数の遅刻者を出したが、ほぼ全員参加することができた。実施された四日間の内の半日だけが雨という、とても好天気であったため、どの班も計画通りの行動ができて、無事終えることができた。

▼津和野

山陰の小京都と云われる津和野町は白山火山帯の西南端に属し、東に秀峯青野山、西には城山を望み、錦川の清流をはさみ島根県、山口県との県境に位置し、古くから政経文化の中心地として人口は一万足らず、方千kmの中心地は城下町として栄えた町である。

約七百年の昔、吉見頼行がこの地に移封されて三本松城を築き以来十四代を重ね、千姫との悲恋物語の城主坂崎出羽守一代十六年、亀井藩主十一代の居城として栄えたものである。そのように栄えたこの地は、町内には大岡家老邸門・養老館・三本松城址・日本五大稲荷などの無形文化財

と共に、郷土館や民俗資料館などの歴史文化生活産業の資料を多量に残し、史跡と鯉の町やSLの発着地として有名である。

この津和野はとても静かな所というイメージが強く、もし歴史的にも何も関係がなかったら、ただのいなかなったのだなあと思っています。

▼萩

日本海に流れる松本川と橋本川に囲まれた静かな町で、江戸時代には長洲三十六万石として知られている城下町として栄えた地であります。幕末から維新にかけて、歴史の流れを大きく変える原動力ともなった数多くの志士を生んだ町としても名を残している。落ち着いた家なみや夏みかんが顔を出してくる石垣や土堀に、訪れる人は旅情をかきたてられる、そのような町である。

次に、特に有名な萩城跡(指月公園)・城下町のようにすについて中心に見ていきたい。

▼萩城跡

慶長九年(一六〇四)、関ヶ原の役に敗れた毛利輝元が、防長二州三十六万石の居城として築いたものであり、明治七年には解体され、壕と城壁の一部、石垣などが残っています。旧本丸の一部を指月公園とし、園内には志都岐山神社、花江茶亭、東園などの遺跡があり、春は桜がたいへん美しく、名所となっています。

この指月公園は、たいへん広く静かな所でしたが、秋に行ったため桜の花が見られなくて残念だったと思うだろう。

▼城下町

堀内三の丸一帯の武家屋敷、外堀を境として東に開けた中級武士、それに富商屋敷などの多くの屋敷跡が、碁盤の目のような萩の街の中に点在しています。なかでも、萩城下町(国指定史跡)は、御成道に面した江戸屋横丁、伊勢屋横丁、菊屋横丁の一画で、その姿を最もよく残しています。

この城下町を歩いていく内に、江戸時代から明治維新前後までの様子が頭の中に現れてくるような感じを与えてくれるので、本当に歴史的に強く印象が一般にあるのだなと思っています。

▼秋吉台

長さが十七km、幅七kmにわたる大高原で、その石灰岩は長年、雨水の溶食作用を受けてカルスト特有の景観を作ってきて、フズリナ・腕足貝などの化石を含み、ドリーネや石灰岩柱の異状な発達と共に、学術的に深い関心が寄せられている地である。そのようにできた秋吉台の南側に開口するこの大鍾乳洞は鍾乳石や石筍・石灰華に富み、百枚皿、傘づくし、黄金柱など世界的に奇観で有名である。

思っていたよりも大きく色々な長年の造形美を頭の中にとどめられることができるだろうし、そのようなことが言えるのはカルストの景観の地質学的な驚異がその感動を深めているからではないだろうか。

《最後に―修学旅行を終えて》

三日泊四日で行われた広島・山口へ学習しに行くという修学旅行が終わった。始めて広島や山口に行った人も多いのではありませんか。日本三景の一つでもある広島県にある宮島、歴史的に重要な意味を持ち山陰の小京都と呼ばれ、島根、山口の県境に位置する津和野、また、幕末から明治維新にかけて歴史を変える大きな人物を育てた萩、広大なカルスト地形で有名な秋吉台というようにそのすばらしさは今でも頭の中にきちんと残っていることでしょう。

(二C沢村 二D津吹、矢崎)



四十周年記念行事

十一月十日、この日は松高の創立四十周年記念行事が行われました。この日にふさわしく、朝からいい天気に恵まれました。ここで、我高の四十年の歴史をふり返ってみましょう。(くわしくは生徒手帳P4)

昭和25年9月 都立松原高等学校創立

〃 11月 第一回創立記念式典挙行

〃 26年1月 校歌制定

〃 3月 校章制定

〃 27年10月 新校舎落成式挙行

〃 30年10月 創立5周年記念式典挙行

〃 31年5月 体育館落成式挙行

〃 32年10月 校旗制定

〃 35年10月 創立10周年記念式典挙行

〃 40年11月 旧生徒ホール山田寮落成

〃 44年7月 創立15周年記念式典挙行

〃 45年10月 千倉臨海寮落成

〃 48年3月 創立20周年記念式典挙行

〃 54年8月 鉄筋校舎落成

〃 57年10月 山田寮閉寮

〃 創立30周年記念式典挙行

〃 体育施設落成

平成2年11月 創立40周年記念式典挙行に至る。

創立四十周年記念式典に参加して

私達の松原高校も早、創立四十周年。私達一年生は、まだその歴史の重さに気付いていないかもしれせん。しかしこの式典に参加して、四十周年を迎えた松原高校に入学して良かったと改めて思った人も多いことと思います。また、二・三年生の人達も同じ思いを抱いたのではないのでしょうか。記念式典と記念行事とに分けて行われたわけですが、どちらも大変素晴しかったと思います。記念式典では校長先生のお話で、大ざっぱな本校の歴史を知る事ができました。また、四十年という歴史を私達生徒と共に築いてこられた歴代の校長先生のお顔を初めて拝見できました。

本校二十四期卒業生の松本敦史さんを始めとするピーターパンの演奏は、普通のクラシックコンサートと違って、親しみやすかったのではないのでしょうか。

本校のブラスバンド部の演奏では、普段自分達と机を並べている友達が、舞台の上で素敵な曲を演奏しているので感心してしまいました。身近な物を使った台所変奏曲は、とてもおもしろかったです。

この記念式典を終える前と終えた後とは、この松原高校に対する思いが少し変わったのではないかと思います。

これからは私達が、松原高校の新しい歴史を一日一日、少しずつ少しずつ重ねていかなければなりません。私達の松原高校——創立五十年、百年、二百年……と、もっともっと素晴らしい歴史を刻んでいって欲しいです。

(一A 青野 一B 中島)

読書感想文



中国の音楽世界

一A 板倉 正佳

中国の政権や王朝を並べてみると、殷、周、春秋、戦国、秦、前漢、新、後漢、三国、晋、五胡十六国、南北朝、隋、唐、五代、宋、元、明、清、中華民国、中華人民共和国と四千年もの間にこれだけある。人物でも周の太公望。春秋の孔子、孫子。戦国の孟子、荀子。秦の始皇帝。前漢の劉邦、項羽。後漢の光武帝。三国の劉備、曹操、孫權、孔明。晋の竹林の七賢。しばらくたって中華民国の孫文、蒋介石、中華人民共和国の毛沢東などの数多くの人物を歴史に供給してくれた。はたして音楽はどうなのであろうかと思った。私に限らず、大抵の人は中国の音楽を聞いた事はあまりないと思う。外国のロックやジャズ、下手な日本のアイドルなどの曲は、テレビやラジオをつければ聞く事ができるが、中国音楽はこうはいかない。よほどの事がないと聞くのは不可能に近い。だからこの本を読めば、多少なりとも私の知識を豊かにしてくれると思って読み始めた。「想像よりかなり多くの重要な事が得られた。」と、いうふうな終わり方を目指してこの文をさらに進めていく。

この本を多数の中から選んだ理由は、中国という国に少なからず興味があるからである。アメリカ、オーストラリアは、二百年位、日本も国ができてから二千年弱位しかたっていないといわれるのに、中国は三千五百年から四千年位前から国家ができています。今私が書いている漢字なども

中国から伝わってきた。それだけ親密な関係である中国の音楽はいつごろできたかというのが、三部構成であるこの本の主に一部の内容である。それは今から七千年前のものである楽器が出てから、さらにその前であると書いてあった。日本ではその当時、楽器どころか音楽にも目覚めていなかったのではないだろうか。音の統一化へと時代が進んでいくには当然最高権力者、皇帝がいたわけである。快楽や贅沢が好きな皇帝ならきつとすばらしい宮廷楽団を持っていたにちがいない。ぜひとも一度聞いてみたいものである。皇帝の楽団ともなれば、今のオーケストラよりよはるかにすばらしい音聞くことができると思う。

また、この音楽のためにさまざまな事件、さまざまなドラマが生まれた。父の仇を討つために、父を殺した韓王の好きな琴を覚え、韓王の前で奏で、皆が聞き入っている間に韓王を殺し、自分も自害した蔣政の話。広陵散にまつわる竹林の七賢の一人である嵇康の死など、人間感情をふくむいろいろな事が起こった。音のために仇を討った者もいれば反対の事もきつと起こったことだろう。五線譜以外にも律呂譜、弦索譜、簡譜などいろいろあるのには、たいへん驚いた。生まれてから十五年、学校以外で音楽を学んだ事などなかったので五線譜以外の譜は珍しかった。

前の行までが第一部の感想であるが、正直言って、多数の単語を新たに覚えたが、それを理解するまでに並々ならぬ時間を必要とした。広辞苑を必要とするような単語のために二部へと進行するのがだいぶ遅れたと思う。

二部は演劇や語り物についてであった。京劇、川劇、湘劇、晋劇、河北梆子、豫劇などその広大な国土にふさわしく、多種多様なものがあつた。あの毛沢東の「白蛇伝」での行動。毛沢東ほどの人物も「白蛇伝」の世界に引き込まれてしまっていた。そして文は私の思いと同じように、ほとんど深くほりさげられていった。私が川劇と同じ位、いやそれ以上に興味を抱いている京劇。この文は私にとって最も楽しく、重要でしかも早く覚える事ができた。次々と頭の中に入っていく新しい知識、セリフ、もうここだけあればいいと思うほどであった。文を読むだけで、私はこの「霸王別姫」という京劇に感動してしまいそうなのである。

そしていよいよ最後の第三部は、各地方別の歌についてである。先日、中国の歌番組を見る事に成功した。というのも変だが、とにかく見た。中国の少年隊や中森明菜というふうで紹介していたが歌を聞くと、「どこが少年隊。」と、いうような心の叫びが聞こえた。上手なのである。とにかく声は日本の歌手とは比べようがないと思った。中国に対する私の感動をぬきにしても実に上手だった。しかも一人一人が。日本では売れない人がグループで歌っているとも聞か、足元にもおよばない人だと思った。これが私が中国人が歌にかけては世界でまずベスト3は、ねえるところにいるという事を知った理由をただ長くつらねただけである。三部については、二部においての京劇等の知識を無理といえるほど詰め込んだせいだろうか、頭の中が反乱を起こ

したように、ほとんど進まなくなった。現実には、頭の中は反乱やストライキが起き始めつつある。なにしろ早くかたづけたいという本音と、じっくり、とりくんでいきたいという健全な精神が激しく戦い、一部、二部と後者が勝ち、がんばってこられたが、三部では、健全な精神も多少バテてきて読む速度は、最後までがんばろうという残り少ない貴重な精神活動の疲弊に比例して、また遅くなっていた。それでも中国各地方における、同じ様で実は違うリズムがあり、時でも同じ様であったと書いてあった三部を読んだ感想としては、山東・雲南の二つが個性的であったとだけ書いておく。

全部を読み終えた後の感想としては、中国に関しての知識は増し、ますます興味がわくという実に喜ばしい結果になった。

最後にこの文を書くにあたって、この本の著者の孫・玄齡氏並び訳者の田畑作和子さん並び出版元の岩波書店、そしてここまで私の命令に忠実だった右手と、最後の最後まで真面目に働き続けた頭脳に感謝の気持ちを示しこの文を終了したい。



「坊ちゃん」を読んで

— B 庄司 愛美

東京から四国のある小さな漁村に、中学校の数学教師として一人の男が姿を現しました。その男は、曲がったことが大嫌いで正義感が強く、常に自分をしっかりと持っている性格でした。しかし、小さいころから親譲りの無鉄砲で、単純で、少し頑固なところも持つ江戸っ子でありました。今の世代の若者達に欠けているものは何かということをお教えしてくれたこの男が、この本の主人公、坊ちゃんです。私はこの坊ちゃんと一緒に、いろいろな人達に会って、いろいろな生き方を見て、私自身の姿と生き方を振り返らせられました。

坊ちゃん、あなたは、飾った気持ちではなくて、素直な気持ちを形にしていますね。そんなあなたを、私は羨ましく思います。言いたくても先のことを考えると言えないことや、心の中にしまっていること、意外とたくさんあるものです。思ったことをすべて全部形にしていたら、世の中とげとげしくなる気もしますが、自分に正直に生きているからこそできることから、正直に生きていくことは大切だと思ふから、気持ちを押しさえることも必要だけど、上辺だけの表現で実は見えない陰で笑っているよりは、その時は多少ぶつかって辛い思いをしても、本音で、相手にも自分にも嘘をつかない生き方ができたらいいと思いました。一見、丸く穏やかに見える世の中も、半分は偽りで溶かさ

れたために丸くなったのなら、時間はかかっても、自分の手で尖った部分を削って、丸い部分にしておく方法を選びたいと思いました。今の私達に欠けているもの……それは、仮の自分を捨て、本当の自分を知ること……。

坊ちゃん、あなたには大切な人がいましたね。あなたの家で召し使いをしていた清さんです。親や町内の人々から冷たくされていたあなたを、誉め、かわいがってくれました。心にいつも暖かい優しさを送り込んでくれた人です。他の人には欠点に見えなことを、清さんはあなたの良さとして理解し、伸ばしてくれました。清さんの存在は、あなたの人生にとって、大きな多くの影響を与えていたのです。きつとあなたは、気づかぬうちに清さんを心の寄りどころにしていたのでしょうね。間違ったものに立ち向かう勇気を育てる大事な場所として……。誰かの力になれる、誰かの心の故郷になれるなんて、とても素敵なことだと思います。私も、誰かの心の支えとして、誰かの役に立てる人間になりたいと思いました。今の私達に欠けているもの……それは、深い愛情の中から生まれ育つ真の勇氣……。

坊ちゃん、あなたとまるで正反対の性格を持っていたのが、赴任先の赤シャツ教頭でした。自分に不利なことはせず、自己中心で、一般には世渡りがうまいといわれるタイプです。あなたは、そんな赤シャツ教頭を嫌いました。でも、そんな赤シャツ教頭のような若者が増えつつある現在なのです。逆にいえば、坊ちゃんのような若者は「あいづはバカ正直だ」と笑われる傾向があります。みん

なと同じことをしていれば、自分だけ損をすることもないし、自分さえよければいいのですから、他人を心配する必要もないのです。そのために、個性が失われているように感じます。もし坊ちゃんが今の時代に遊びに来たとしたら、周囲にいる人がみんな赤シャツを着ているように見えるかもしれませんね。顔はそれぞれ違うのに、やることと同じようでは、よく考えてみるとなんだか不気味なこと。また、それをなんとも思わなくなってしまう私達も、おかしいのかもしれない。坊ちゃんは、何よりも自分を信じていたから、違うと思ったことには、ずるいやり方ではなく堂々と、自分を譲らなかつたのです。そこに、坊ちゃんの強さを見た気がしました。自分を信じて失敗したのなら、それは自分の責任です。そこで一歩前進し、成長するのではないかと思いました。平らな道を障害もなく歩いていくより、大変だと分かっている、海や山の厳しい道を歩いた方が、同じゴール地点では何倍も新しいことを得ている気がします。きちんと分かっている、実行しなければ意味がありません……。赤シャツ教頭のような現代っ子が、私のように、いつか何処かでこの本と出会ひ、自分を見つめなおす時間を持つことができればいいなと思います。きつと、何かを発見し、何かが変わるでしょう……。

。今の私達に欠けているもの……それは、自分を信じ、それに関しては責任を持つということ……。人には、弱点がたくさんあります。欠点もたくさんあります。でもそれを隠す必要はないと思いました。隠そうと

すればするほど目立つものです。弱点や欠点の間から、ちらりと見える「良さ」が鮮明に光っていれば、その人全体が光って見えるでしょう。これからの人生、いろいろなものに興味を持ち、たくさん好きなものを見つけて、そこからあらゆる力を自分のものにしたいです。そして、そこで溜めた力を勇氣に変えて、自分を信じて実行してみたいと思います。結果は良くても悪くても、新しい自分を知ることができたなら、それは一歩前進、少し坊ちゃんに近づけたかなと喜びたいと思います。

毎日が練習なしの本番で、毎日が一度きりしかない大切な時間です。今、こうしている時間も、どんどん戻ることのできない過去へと変わっていきます。時間は、速くなったり遅くなったりせず、規則正しく流れています。その時間をいかにうまく使うか……。

— 不可能なことを可能にする —

坊ちゃんだったら、この道を選ぶでしょう。時間をコントロールするために、今を有効に使い、今を一所懸命に生きるでしょう。それができたら不可能だったことも可能になるかもしれません。もし私が時間の流れに迷い、自分を見失ったら、また坊ちゃんに会いに来ます。今の私より成長して、ちよつぱり強くなって、何かを探しに、会いに来ます。

「高瀬舟」を読んで

一C 堀内 治江

暑い夏、せみの声。連日の部活動で夏バテがきになって、いた私が手にした本。森鷗外の「高瀬舟」。それは心が洗いきれられるような、私の考えが変わるような、そんな一冊でした。

話は、徳川時代の京都で、高瀬川を上下する舟の上での回想でした。その舟は、罪人が遠島を申しわたされると、その罪人を大阪までまわすもので、罪人には護送する町奉行所の配下にいる同心が一人つきます。この物語では、罪人、喜助という三十歳の男と、同心、羽田庄兵衛が高瀬舟に乗っていました。文章には、喜助は舟に揺られて、悲しいどころか嬉しそうな様子だった、と書いてありました。私はとても不思議に思いました。普通、罪人で大阪に送られるのなら、もっと悲しいはずなのに、もっと気持ちが暗いはずなのに、と。同心の羽田庄兵衛も私と同じことを思ったのでしょうか、私が喜助にたずねたいことをそのままたずねてくれました。私はそのときは既にもう、庄兵衛と喜助の隣りにいるように話にのめり込んでいました。喜助の話によれば、喜助は京都にいて今迄、悲惨な生活をしていました。お金など全然なく、食事も毎日なんてできなかったそうです。身を粉にして働いても働いても、その稼いだお金は右から左へと人の手に渡ってしまうのです。それが、大阪に行けば働いて毎日の食事は保証されるし、それ

に二百文の鳥目ももらえました。だからたとい遠島でも、京都で暮らしていたよりは人間らしい生き方ができる、と言っていました。私はなんだか、喜助がすごく哀れでした。現在の私達には想像もつかない状況です。そんな喜助の罪が、「弟殺し」と知ったとき、私はまさかそんなことはあり得ない、と思いました。何故なら、そんなに悲しい毎日を送っていたとしたら、兄弟助け合って暮らしていたに違いない、と考えていたからでした。私はなんだか、喜助に裏切られたような、そんな気分になり、読むことがつらくなりました。でも読んでいく内に、弟殺しは誤解だということが分かりました。一日一日の生活が苦しいときに、病気がなってしまった弟が、たった一人の肉親である兄に申し訳ないと思い、自ら首に刃を入れ、死のうとしたのでした。これ以上もう迷惑をかけるわけにはいかない、と考えたのでしょうか。でも、切り所がずれて死にきれず、喜助が仕事から帰ってきたときに、苦しくてもだえていました。その描写が何とも生々しく、本当のようで、見てもいいのに様子が有りありとうかがえ、目を覆いたくなる程でした。そんな弟を喜助は必死で助けようと思いました。でも、弟が、早く楽になりたい、殺してくれと言ったので、涙をのんで楽にしてあげたのでした。私は、喜助の気持ちが痛い程に伝わってきて、とても胸苦しく、切なく思いました。今迄、どんなことがあっても、二人きりで助け合い、励まし合ってきた弟が、目の前で苦しみ、自分に迷惑をかけるまいとして死んでいった。私には兄弟がいないので、世間で

「海と毒薬」を読んで

一F 新井 宏光

——みんな死んでいく時代やぜ。病院で死なん奴は毎晩空襲で死ぬんや——。

本当に誰もが死んでいく時代だった。街の焼けた所には黄色い砂漠が広がっていた。それに反して、街全体は日ごと、目に見えて小さくなっていた。

その世の中で、本当に生きている人間を使い、生体実験を行うなんてことがあったのだろうか。生体実験をした人は、いったいどんな気持ちでこれを行ったのだろうか。この人達の良心はまひしてしまっただろうか。たくさん疑問と驚きをあげていたらきりが無いのだが、その中でも特に僕が考えさせられたのは、良心の苛責ということである。

生きている人間を使つての生体実験。医学の進歩の陰に起きた事件といえ、いいわけもつくかもしれない。しかし、それに使われたのが、米軍の捕虜である場合、これはただの医学の進歩の陰に起きた事件だったではすまされないように思う。

洋服屋の主人もガソリンスタンドのマスターもかつては戦争で多くの人（敵兵）を殺したという。戦争では良心の苛責など考えてはいられない。そんな事を考えていたら、自分が殺されてしまう——。仕方がないのだ……。そして、勝呂も戸田も橋本教授も、みんな仕方がないと思ったのだ

よく言う「兄弟愛」というのは、こういうものなのか、ということを知り、感動しました。弟の死にざまも立派だったと思います。お兄さんを愛して、大切に思っていたからこそ、何よりも大事な自らの生命を絶とうと決心し、それを実行したのでした。私がいずれも、この弟の立場だったら……そう考えると果たして、このように勇気のいることができたかどうか分かりません。本当に凄く決心だったのではないかと思います。それが、病気になるってしまった弟が、兄にしてあげられる唯一の恩返しだったのではないのでしょうか。その死にざまは、とても男らしくったと思います。

この物語を読み終えて、なんだか久しぶりに、人間の素晴らしい姿を、感じ得ました。人間の愛情というものは、ときには自分を犠牲にしても守らなければならないこともあるのだ、と改めて知らされたような気がしました。

最近、部活や塾や習い事が忙しくて、じつくりと本を読むことが少なく、我ながら反省させられる毎日ですが、わずかに数十ページの中に、こんなに心をゆさぶられる内容の本があったなんて、実に奇遇の出会いであり、感動の嵐でした。今の私達は人生に対する考え方、生き方を探る大切な時期です。本にはストーリー性だけでなく、作者の思想や生き方が盛られているのです。色々な本を読み、多くの感動を得て、人の生き方を追い求めようと思います。これからも、一冊一冊との出会いを大切に、自分自身を高めるつもりです。

そして二つめに、戦争が、私の感じていたよりもずっと最近に起こった出来事だということ。被爆したために、血管が通った黒い爪が今なお生え続けている、という人の話が、この本にあった。殺し合う戦争は終わっている、その苦しみはまだ続いているのだ。

三つめに気付いたことは、私達の世代は確かに戦争を知らないが、知っている世代とも共に生きているということだ。つまり、知ろうとすれば、チャンスはいくらでもある。たとえそれが、本当の戦争体験のほんの何百分の、何千分の一であろうとも、私達は「戦争」という人間の過ちに、目を向けるべきなのだと思う。過ちの原因や実態について無知なのは、その防ぎ方に無知なのと同じだ。

今年、修学旅行で広島へ行くことになっている。この本に載っていた物や写真が保存されている原爆資料館にも。そこに行つて、実物を目の前にしたとき、また、実際の戦争体験を耳にしたとき、私の戦争や原爆に対する感じ方は、また違ってくるだろう。それに、百数十ページの一冊の本では感じとれなかった多くのものを、そこで感じ、戦争や原爆について、自分なりに考えてみようと思う。そしてそれを、何も知らない私の踏み第一步にしたい。

「雰囲気」というのは、大切だと思う。もつと固く言えば「環境」かもしれない。それによって何かを考えたり、見つけたりするきっかけが出来るから。学校の人々で広島へ行くんだ、という雰囲気の中で、私が、この一冊の本を読み、ヒロシマを考えるきっかけをつくったように。

原爆詩集を読んで

二A 箕川 和代

本を開いて最初に目についた言葉は、「わたしをかせわわたしにつながるにんげんをかせ」でした。私は最初の「序」からショックをうけた感じでした。この衝撃は、本全体を通して感じ、読んでいけばいくほど重く、暗く、深くなっていきました。特に「死」「ちいさい子」などは強烈でした。「死」では、道ばたで一人離れて死んでいくという、悲しさでは片付けられないような悔しさ・無念さ怒りが、「ちいさい子」では、幼い子供を一人残して死んでいく親の切なさを書いてありました。この二つの詩を読んだ時、あまりにも悔しく、切なく、無惨で詩の最後を見たまま黙って考えるしかできませんでした。でも、この本に書いてある事は全体のほんの一部だろうし、実際に体験した人の気持ちは、体験していない人にとって計り知れないものがあるだろうと思います。現にこの本の詩の中にも、無惨すぎて想像しきれなかった部分がありました。

私は、原爆はもちろん戦争も経験していません。当時の様子を写真や本で知り、話を聞くだけです。聞いて、ひどい、無惨だ、繰り返してはいけないとは思いますが、やはり経験していないし、身近に経験者がいない分、そういう気持ち表面だけ、というかいま一つ身についていないかっような気がします。物語をきいているような。はっきり言うと、原爆関係は気持ちが悪いという方の気持ちが強か

一人一人のきっかけと考へが、いつか大きな結果をもたらすことが出来ると思いたい。だから私も、この一冊の本をきっかけにヒロシマを考えたい。しかし、ヒロシマを最終点にするのではなく、ヒロシマをまたきっかけにして、戦争について、人の命について自分なりに真剣に考えていきたいと思う。

「きみはヒロシマを見たか」
広島原爆資料館



つたです。ホラー映画と変わらないとも思いました。でも、ホラー映画と決定的に違うのは、今から四十五年前に確かに現実が起こった出来事だということです。それにもかかわらず、いろいろな国で核を所持・研究していたり、平和利用を理由に原爆と紙一重の原発を研究、推進したりしています。やはり、気持ちが悪いからなどと言って避けないで、しっかり見つめ直す事が大切だと思います。世界や未来などを広い視野で見て考えた上で、とりあえず自分ができる範囲の事からやっていく姿勢が必要だとも思います。私は、やっぱりまだ苦手ではありますが、とりあえず修学旅行で行くと思う原爆資料館にある物を、なるべく目をそらすずに見てくるようにしたいと思います。この本を読み終わって、今度は本当に無惨だ、むごい、繰り返してはいけないと思いました。



修学旅行 講話の感想

二B 松野 美穂

佐伯さんが話を始めたときとても驚いた。マイクを使わず大きな声で話してスゴイと思っただけ、お年の割に元気で気丈そうなんだと思っただけ。しかし、そのスゴさも、元氣も気丈そうなのも、戦争という悲惨な出来事を私たちに伝えたいという気持ちからくるのだと思う。佐伯さんは本当はあまり戦争の話はしたくないとおっしゃった。確かに怖い地獄のような日々や、苦しむ兄弟たちのことを思い出し口にするのは、本当に心の痛い思いだろう。しかしそんな思いを何度も味わいながらも、私たちに一つ一つ教えようという気持ちがあるけれども、私たちに一つ一つ教えよう

山をこえるとき、男の人が死んだ人の身につけている高価なものを盗っていたけれど、自分も熱さをよけようとして死体やうめいている人の上を歩いたり、親類かどうかを区別するために苦しむ人々をけつたりしたので、何も言えなかったと佐伯さんはおっしゃった。しかし、私だってそんな場にいたら、きっと、人の上を歩いたり、けつたり、高価なものを盗ったりしたかもしれない。あの言葉が、とても印象的だった。

当時の広島の様子や、無理に人を殺す訓練をさせられたことなどを語ってくれたが、私たちにとって想像するのも嫌なことを、佐伯さんは本当に経験してきた。でも私たちは想像して怖いと思うだけで本当に経験したのではない。

「夏の花・心願の国」を読んで

二B 平井 真由美

私には難しい本でした。私はこの本を読んで主人公の原民喜という人がとても立派で偉大な人であると同時に気の毒でたまりませんでした。とても仲の良い夫婦でありながら奥さんの貞恵さんが糖尿病と肺結核で病弱の為入院の繰り返し、最後は自宅療養の末に亡くなってしまいました。でもどんなに身体の弱い奥さんでも、この人が生きていてくれてそばにいてくれる間は、主人公の乱れがちの神経を穏やかに揺り鎮め、内攻する心理を解きほぐしてくれていました。そして彼の書く小説をいつもそばで見つめ励ましてくれていました。この夫婦はたえずお互いをいたわり合い甘え合っている、素晴らしい夫婦愛を感じとる事が出来ました。そして最愛の妻が亡くなって、一人になってしまった彼は、広島

の兄の所で暮らす事を思い付き昭和二十年疎開して、原爆の被害に巻き込まれていくのですが、八月六日の朝から彼が体験した原爆の悲惨さ、恐ろしさを私はこの文章の中から想像するだけでも恐ろしくなりました。

顔を血だらけにした女達の、「おじさん、助けて、助けて！」という叫び声。灌木のそばで豊かな肢体を投げ出して、うずくまっている中年の婦人の顔。魂の抜け果てた顔は見ていられるうちに何か感染しそうな程奇怪な顔。焼け落ちていく建物。熱風。黒煙。黒い大粒の雨。そして竜巻。流されていく死体。焼けただれた死体。顔がくちゃくちゃに

もし第三次大戦がおこったら（もちろんそんなことがあってはならないのだが）私たちはどうするだろうか。佐伯さんがおっしゃったように、私たちのような戦争を知らない者たちは、佐伯さんのような方に、戦争について教えてもらい、それを後世に伝えながらより良い社会をつくるために努力しなければならぬと、本当にそう思う。

今まで私は戦争はよくない、二度と繰り返してはならないと思っていた。ただいけないことだと思っていた。けれどもそれはまちがいであった。私たちがしてはならないことは、安直に戦争になるような社会をつくることであり、私たちがしなければならぬのは、戦争なんて、およびもつかない程良い社会をつくることだと思う。



腫れ上がった眼は糸のように細く、唇は思いきりただれ、男女の区別もつかない程それでも生きていられるらしく、「水を下さい。助けて下さい。」と訴えている声。また私と同じくらいの年齢の少女達が一倍半も顔が膨脹し醜く歪み、焦げた乱髪がせて女である印を残し、身の毛もよだつような姿で生きながらえている様子。死体という死体を見て回り、妻や子供を探し回る人達。あちらこちらから聞こえる断末魔のうめき声。施設所は重傷者があふれ出て、「助けて下さい。先生、看護婦さん。」と言いながら死んでいく人々。原爆はまさに地獄です。辛うじて助かった人達もそれらの後遺症で頭髪が抜け、鼻血を出して亡くなる者。運良く助かってからもそれから何十年と身体がだるかったり、焼けただれてしまった身体中の皮膚は元には戻らないでしよう。

戦争とは悲惨で怖いものという事を身にしみて感じました。私は秋に修学旅行で広島に行きますが、この本で主人公が体験して書き残してくれたものの何十分の一でもこの目で見て理解していきたいと思えます。そうしなければ、広島で亡くなった人達の無念さや悲しみが無駄になってしまふし、今、平和に生きている私達若い年代が忘れてはならない事だと思えます。



聞き書き

二C 吉沢 慶子

私は、うちのおじいちゃんから聞いた、戦争時の生活を書きたいと思います。

昭和二十年頃の生活は、まず、食糧や衣料やその他、物資の統制により配給制になり、思うように物が手に入らなくなった。みんな生活するのに必死で、どうしても配給されるものだけでは暮らすのが大変で、ヤミ市という所で必要な物を買っていた。

ヤミ市というのは、町ではなかなか手に入らないものが置いてあったり、統制品の横流ししたものを売っていた。現在の上野にあるアメ横も当時はヤミ市だった。

子どもは学童疎開し、大学生などは、学徒動員といって強制的に入隊させられ、商業者は、軍需工場に徴用される食堂では、ぞうすいしかなく、しかも一人一杯と決まっていた。

毎日、毎日食べ物といえば、ぞうすい。ぞうすいは、野菜などを入れて増やして食べられるから、都合がよかった。

二十年の一月と三月は東京が大空襲にみまわれ、下町が大火災ではほぼ全滅になってしまった。幸いなことに、新宿区はあまり被害にあわなかった。近くでいえば、池袋の道路に落ちた焼夷弾を見ると、一㎡の所に二、三個の割合で落ちていたというすごさだった。

空襲は、昼と夜とにかかわらずいつ来るかわからない。

祖母の戦争

二F 石坂 直子

戦争—この二文字から思い浮かぶイメージは、恐ろしいとか、怖いとか、そんなものだと思います。しかし、実際に戦争を体験した人には、戦争とは、ただ恐ろしいとか、怖いといった言葉だけでは、表現できないような複雑な思いがあると思います。

映像や、文章の中の戦争では、本当の戦争を知る事は出来ないと思います。実際に体験した戦争を、私は、祖母から聞かせてもらいました。

当時東京に住んでいた祖母は、戦争中は、金沢と高崎にまだ赤ん坊だった私の母と、疎開していました。実家である高崎には義姉がいました。義姉の家族は皆、戦争へ行ったりで、いませんでした。しかし祖母の家族は全員無事に揃っていたため、義姉はそれを妬み祖母に嫌がらせをしました。嫌がらせといても、例えば、義姉が出かける前にわざと食べ物数を数えていくといった陰湿なものだったそうです。寂しさや妬みをぶつけてしまう義姉の気持ちもわからなくないし、誰でも同じ立場に立たされたら、やりかねないことだと思います。

祖母は、疎開先では空襲には一度しかあわずにすんだそうです。しかしその時、逃げ遅れて赤ん坊と二人きりで小さな防空壕でじっとしていた時は、本当に恐ろしかったそうです。

常に防空壕の中に貴重品やたんすなど入れておいて、いつでもすぐに避難できるようにしていた。

家の電気は、外に光が漏れないように、黒の布をまいていた。なんとも暗い生活をしていた。家にある金属類（ナベ、かま以外の余分なもの）は兵器（爆弾や弾丸）にするため供出された。寺だったら、鐘を供出した。しかしそういう物を出さない家もあったそうだ。

昭和二十年八月、やっと終戦の日が来た。

しかし、戦争が終わったからといって、庶民の生活状況が突然変わるものでもない。配給制度も今まで通りで、しかしアメリカからの物資の援助があった。米の代用食として、脱脂大豆やとうもろこしなどが配給された。他にもアメリカから、衛生隊がやって来て、日本人の体中についたのみやしらみを取り除くため、DDT（粉末薬品）を頭から散布した。

それから二、三年は、このような生活は続いた。

おじいちゃんは、元から工場で働いていたために徴兵されずにすんだのだそうです。しかも、住んでいる近所は、空襲にもあわず、すごく運がよかったのです。

話を聞いていて、今では本当に想像もつかない生活を送っていて、なんだか恐ろしい気がしました。もう四十五年も前の話を、こうもはっきりと覚えているなんて、つくづく戦争の恐ろしさを感じました。

東京に残っていた祖父は体が弱かったため戦地に行かずに済み、三度も命拾ったそうです。祖父の入るはずだった部隊は、すべて全滅か、全滅に近い状態になったそうです。運が強いとしか言い様がありません。

祖母がまだ東京にいた頃、空襲警報が鳴り家の裏の防空壕の中から空を見たそうです。その時空には、日本の戦闘機と、アメリカのB-29が飛んでいたそうです。日本の小さな戦闘機と、立派なアメリカのB-29の差に祖母は驚き、その時「日本は負ける」と思ったそうです。

戦争が終わってから、祖母は疎開先の荷物を取りに行くので、上野に行った時、ただ座ってボーッとしている無気力の人の多さに驚いたそうです。そして地下道で十五、六歳の子供が裸で死んでいるのに、誰も振り返ろうとしなかったそうです。誰もが、自分の事だけで精一杯だったのだでしょう。

祖母の家は東京大空襲でも焼けずに、そのまま残っていたため、生活する場所には困らなかつたけれど、周りは焼野原で、マッチ箱のような家が沢山あったそうです。

祖母が三軒茶屋の駅で三回ほど、十二歳位の男の子が二歳位の女の子を、おんぶしているのを見かけたそうです。しばらくして出会うと、背中の子はなくなっていました。そうです。多分、死んでしまったのでしょう。祖母は今でもその事を思い出すと胸が苦しくなるそうです。あの時の男の子がもし今生きていたら、きっと立派な人になっていただろう、と。

原子力発電

二F 早瀬 純子

祖母は、戦地に行った人には悪いけれど、女に生まれて本当によかったと思いい、誰もが、戦争さえなければ、幸せだったのに、戦争が早く終わればいいのにと思っていたそうです。

三回も命拾いした祖父が亡くなってもう八年が過ぎました。戦争を体験した人が少なくなっているのです。できれば、戦地の人の事を思い、辛い事も悲しい事も我慢した人々の言葉を次の世代へと受け継ぎ、語り継ぎ、戦争の悲惨さを繰り返さないようにしなければならぬと思いました。



私はこの本を読んで、原発を造ったのは私たちで、原発を廃止しようとしているのも私たちであると改めて感じた。私たちが生きていく為に必要なものは、水と空気と食糧でしょう。しかし、私たちの生活が豊かになるにつれてこの三つ以外のものも欲しくなってきました。それが電気なのです。私たちは電気がなくても生きていけるのに、そのために自分たちを死へ追いやっているのです。

私たちの生活には、どんどんと新しい電気製品が入って来ています。しかも、それをいくつも使用しているため、今日では電力量が、まかなえるギリギリの所までにきています。それでも私たちは、電気を使っています。そしてついに原発が登場したのです。

原発には、たいへん危険な物質、濃縮ウランを使い、その物資の使用後には「死の灰」と呼ばれる高レベル廃棄物が残ります。この廃棄物は私たちが出すゴミのように処分できずに、いつまでも危険な状態のまが残りつてしまうのです。海に捨てても、氷に埋めても、地下に埋めても、最終的に危険は私たちにふりかかってくるのです。

今この危険な原発を廃止したとしても、もう手遅れです。これまでに使用したこの高レベル廃棄物にこれから何年も何百年も、何万年も、私たちに危険をもたらすのです。

私はこの本を読んで、今まで自分がどれだけ電気を無駄

「黒い雨」を読んで

二F 渡辺 響子

使いしてきたかということを考えて反省しました。何気無く使っているうちに、莫大なエネルギーになっていることを、改めて感じました。一人一人がほんの少しづつ節約していくだけで、その莫大なエネルギーを取りもどせるのだから、それを心がけたい。私たちが今のまま、平穩に暮らして行きたいのなら、原発の大惨事を未然に防いで、守っていくしかありません。それが出来るのは、私たちしかないのです。私たちの生活を守るために活動するしかないのです。

昭和二十年八月六日。広島。ピカドン。死の街。灰の街。原子爆弾。被爆者。原爆病。B29。これらの言葉を大半の人々は聞いたことがあるだろう。たいていの原爆小説は隅から隅まで原爆について描かれていて関係のないものは全て省略され、文章というより記録を読んでいるようであった。しかしこの小説は、小説らしさがある。故にかえって、普通の小説を読んでいるときに自分自身がその世界に入りこんでしまうことができた。この文章は反戦をかき立てるようなものではなく、黙々と戦争に協力しながらも、その犠牲になってしまった人々への追悼の文章であるように感じられる。

日本は資源に乏しかった。外国から輸入していた石油にもストップがかかり鉄もなにもなく、とうとう各家庭からナベやお玉杓子までが引き集められ、寺の釣り鐘まで戦争のために国に持っていかれてしまった。鉄砲はなくなり、最後は竹槍にたよることにまでなった。食糧も勿論、大いに不足だった。ただでさえ国民は弱いの、貧弱な生活を強制されていた。にもこりずに降参しなかったために、関係のない一般の人々を地獄へと導いた原爆が広島に投下されてしまったのだ。一部の人間のわずかな意地という感情によって。多くの人々が死に、多くの人々が原爆病で苦しみ、多くの人々が後遺症で悩まされている。原爆



のあまりにひどい瞬間殺人によって生と死の本当の意味というものをみつめずにはいられない。マネキンが黒こげになつていような死体。あまりにもひどい全身火傷で弟かどうかいぶかしがる兄。崩壊した家に足がはさまつて動けない息子を襲う火の手から助けようとしていたが、自分の身の危険を感じ逃げてしまった父親。水を下さい、たすけて……の言葉を無視していかないと、自分の命が危なくなると……。人間性というものを考えさせられる場面の光景や風景描写がたくさんでくる。また「黒い雨」はテレビでも観た。私はその中でこのシーンがいちばん印象に残っている。重松が、原爆症が現れてきて、体をわずらっている友人宅へ見舞いに行った所の場面である。その友人が、こう言う。「なぜ、広島におとされたんじやろ。なぜ東京じゃないんじやろか。」と。広島の人々の第一の疑問かもしれない。そして訴えかもしれない。なぜ、なぜ広島だけがこのようにひどすぎる害を被らなくてはならないんだ！と。

原爆が投下された後の広島が描かれている中の一つに、インパクトの強い文章があった。『――逆さになつた女の尻から大腸が長さにして三尺あまりも噴きだして、径三寸あまりの太さに張らんでいた。それが少し縄れを持った輪型になつて水に浮かび、風船のように風に吹かれながら右に左に揺れていた。』何という悲惨な光景でしようか。想像を絶する。なんでも容易に手に入つてしまうような現在のような時代に生まれ生きている私には、実に想像

を絶する文章である。

今でも戦争をしている国がある。それに、今、まさに戦争をふっかけようとしている国もある。――なぜでしょうか。人の命を失つてまでも、領土が欲しいのでしょうか。お金でしようか。名誉でしようか。一体、何が欲しいのでしょうか。何のために「人間」として生まれ、何のために地球にいるのか。そういうことを考えないのでしようか。人間は戦争によって、命だけでなく、全てを失う。――物質的なものも精神的なものも。しかも、人間の中の極一部のものが始めた戦争に自然までも、まきぞえになり、森や川、草や木、地面、空。人間だけでなくその他の生物たちも害を被る。もう二度と、広島のようなかなしい出来事を見ないようにしよう、と約束したことを忘れずにいつまでも永久に守り続けたいとせつに願う。今戦争をしている国の人に、この「黒い雨」でも、その他の原爆小説でも、写真集でも、なんでもいいから、読んだり見たりして感じてほしい。

広島の いまも苦しんでいる
被爆者の方々

諦めないで
戦争のおそろしさを
語り継いで下さい

新潮文庫 黒い雨

井伏 鱒二

ルイス・キャロル作「鏡の国のアリス」を読んで

三 B 岩井 智子

Which dreamed it, Red King or Alice?

夢をみたのは誰でしょう。『鏡の国のアリス』を読んだ人なら誰でも、この謎々に目をとめることでしょうね。

森の中でティードルディーとティードルダムに会ったアリスは、赤の王様が眠っているのをみつけます。そこで、ディーの方が彼女にたずねるのです。――赤の王様はなんの夢をみていると思う？ アリスは答えます。――わかりっこないわ！ ディーが――君の夢だ。彼が目を見ましたら、君は消えてしまう。

なにげなく、鏡に映す自分。自分が自分でないように思える瞬間というのがあるものです。え？と心が動くときはひよつとすると（赤の王様：でこそないかもしれないが）、自分ではない（誰か）または、別の（私）が夢をみているのを感じたときかもしれません。その（誰か）は、なにか異様な生物かも。（私）は羊水の中に浮かぶ胎児であるかも。いずれにしろ、それは（創造主）と呼ばれるべきでしょう。こんなにも変化に富み、複雑な世界を夢にみているモノ。

アリスの世界では、夢をみているのは、赤の王様のようです。しかし実は、彼は物語の最初の方で、赤の女王様と歩いているのです。時として私たちもそうであるように自分自身を夢にみているのでしょうか。

ところで、自分の存在に自信を持っているらしいアリスは叫びました。――「I read、それはしごくまともな反応でしょう。私たちにしたって、「君はこの人の夢なんだ」なんて言われたら、笑って「なに言ってるんだ」と思います。が、おもしろいのは、ディーもダムも自分たちが赤の王様の夢なのだと自覚しているところです。

もしかしたらアリスは「I read」と叫んだときすでに自分を疑いはじめていたのかもしれない。泣きだしてしまします。そこで存在の証をうちたてようとしします。――もしわたしがreadでなかったら、泣くことなんてできないはずだわ。――まさか、とダムは証を突き崩します。――まさかその涙がreadだと思っているわけじゃないだろうね。アリスも負けてはいない――Nonsenseときめつけて、さっさと立ち直つてしまうのです。

アリス自身はreadだったのでしようか。鏡の国が夢の世界であつたのは確かのように、色々なところで指摘されています。たとえば、羊の店の『夢の燈心草』など。

さて、nonsenseときめつけたアリス本人も最後までこたわり続けていました。仔猫のスノードロップに、『お前はわたしの夢の中で』と言っていますし、キティにも『わたしの……』と言います。そして『赤の王様はわたしの夢の一部だった』と宣言しながらも、『わたしも赤の王様の夢の一部分だった』と認めています。だからじれったく感じたのでしょうか。『どっちかに決めて』と、決定を猫に迫つたりします。ムチャなことです。

作者であり、語り手であるルイス・キャロルはこの物語を——あなたはどう思いますか。と結んでいます。少し考えてみましょうか。

アリスが赤の王様かときかれたら、私だったら、「両方です」と答えます。つまり、アリスの言うとおりだと思うのです。間違いなく、赤の王様は眠り、夢をみていました。そしてそのときちょうど、アリスも気持ちの良い椅子の上でうたた寝をしていたのでしょう。鏡が霧のようになり、アリスは鏡の国へ行く——アリスの意識が薄れ、赤の王様の夢とつながる。アリスは彼の夢に吸い込まれてしまったのでしよう。彼女は彼が夢をみている間、あのチェスの国に留まり、冒険を繰り広げます。が、彼が目覚めたとき、アリスは自分の世界へと追い帰されてしまったのです。では、赤の王様自身は目を覚ましてどうなったのでしょうか？ 鏡の国の世界は——ティードル兄弟などの愛すべきキャラクターたちとともに消滅してしまったのですから。どうなったのでしょうか？ きつと、動かないチェスの駒に戻り、アリスの家のテーブルの上にくらがっていることでしょう。

『あなたは どう思いますか』



「ポケットに名言を」を読んで

三 E 上村 あも

気がつけばそれは我が家の本棚に黄ばんだ紙魚だらけの頁の古めかしさを隠しめせず、折れ曲がり破れ汚れた背表紙をまとい、よそよそしい誘惑者の顔でおさまっていた。ふと手に止まったのは十にも満たぬ頃、頁をめくったのはようやく十を過ぎた頃だ——「ポケットに名言を」寺山修司——ひと皮むけばそこには親しげな口調があった。異端視されることを好む小学生に、「名言」達は無類の武器に思えた。例えば友人との会話、先生との対話に、当然私より「名言」達と親交の深い親への捨て台詞に：傷つける痛みを持たずにただ傷つくばかりの子供を、誰ひとり声をかけてはくれぬ子供をなぐさめるのにも、彼等は万能薬であった。二十に満たぬ現在、再び同じ背表紙の上に指先は止まった。三度目の全細胞の入れかえを始めた私の体は明らかに当時の私の容れ物でさえなく、脳髓は更に遠い。「名言」達はかつての輝きで勝者の高みへと私を魅了することなく、今まさに戦っている者の汗が時折見せる輝きをもって悲しみと寂しさを訴えかけていた。万能薬は何に変化したのだろうか？ あたかも賢者の石を投げ入れられたかの如き変貌、痕跡すら残さぬ——どこへ行ったのだろうか？ 汗に光を宿す太陽は、神であり自己であり社会であり他者であり、又幸福と呼ばれる裁き。何故あのとき彼等は万能薬であったのだろうか？

裁きの日はあまりに遠すぎて、わたしはとてもさみしい。

ひとと云うのは、小さな頃幼い頃はさみしさも悲しみも精一杯、表に出すことが許されている。けれどそんな感情を沸き上がらせる出来事が増えてゆくのと同じ速度で成長するにつれて、それらを隠すことを強制され又その術を身につけてゆく。年を重ねることは私にとって喜びを、悲しみを、涙で洗い流さずとも隠しておいて何とかやっていく確率が五分程あがったというだけの事にすぎないのだ。包んで、しまつて箱の中。鍵をかけたその後でふと背中を振り返ってみると地図さえ持たないというのにそこは見知らぬ街並みの広がる場所。荷物は——先刻鍵をかけたばかりのその鍵さえも——何ひとつ持っていない。これから何処へ行くにせよ、私は歩き続けなければいけないのだけれど。立ちすくむその時に、すれ違いざま手を振ったのは「名言」達だった。彼等もまた、そのことばを生み出したひとびとであり、歩き続けなければならぬ者達であった。

十にも満たぬその頃、私は故郷にいた。

今では私も、彼等と同じ見知らぬ街見知らぬ道見知らぬ空の下見知らぬ人々の間を歩いて、「彼等」と時折すれ違うことが出来る。額に幼い頃の憧れよりもずっと確かな自尊心と悲しみを記して、私は彼等を友人と思えるのだ。やつと歩みだし生きた足と足の裏が感じているように。「名言」達のうちには未だ出合わぬものたちや会うごとに姿形、声色を変えるものたちもいて、出会うたび立ち止まったままの自分の足をもう一歩動かしてくれる。そうして

助けられながら、立ち止まりつまずき駆け出して、私は行くのだ——裁きのなかに休らぎと優しさを感じることもできるその日へと。たとえ行き着けずとも肉体の滅びた後「私」として歩み続けてくれる「名言」を残せるよう何ごとか書き散らし、わめき散らしながら。目的地なぞ初めから存在しないものかもしれないけれど、生まれる前と死んだ後の一瞬の他は入る事を許されぬ門であるかもしれないけれど、私の足は常にその一点を指して歩み続けるだろう。それぞれ自分自身の目的地を目指し、歩いてゆく生身の、文字の、音の、色の、友人達に手を振り——時に微笑みさえ向けながら。

ひとの心と同じものがなく、道も一本として同じものはないだろうがそのひとりきりの寂しい道行きにこの本を思い出し、「名言」達に出会う時、私は笑うことが出来ると思う。泣けなくとも、笑うことは出来るだろう。

「笑うというのは、他に何もできない時人間のする行為だ」、と言うけれど、幽かな微笑みさえ漏らさぬ人間と友達付き合いた人はいないだろうから。半ば強制的に、笑みを作り出してみよう。

笑って、手を振って、知った瞬間すれ違う長い長い道のりに、ふとそのときにこそ目的地が存在するのかも知れぬとひとり思う。思いながら——足はお構いなしに動き出しているだろう。それを誇りと信じることで私は歩いてゆける。歩くのだ。架空の園であろうと実在であろうとどちらでも構わない。目的は目的地ではなくそこまでへの道程に

あるのだから。ウロボロスの環の完全さ、けれどまぶしい日々であろうと。

わたしはいつもさみしい。

故郷は既に消え、儚い泡と追憶の彼方へ。

わたしはとてもさみしい：歩み出してしまったので、誰ひとりともつれあいにはなれぬ道を、歩いて行かなくてはならないので。

けれどもまぶしいその日々に、笑うことだけは出来るのだ。

〈筆名注〉「きざらぎ ひろぶみ」について

恐らく一年中で最も透明な月と、とある詩人の下の名を足したら梅の木になった。この筆名である。



「スローカーブを、もう一球」を読んで

三G 堀内 亜紀

私は、感想文が嫌いです。これから十枚も書くというのに、いきなり何を言いたすのかという感じが、さらに厳密に表現するなら性に合わない、又は気に食わないというのが適切でありましょう。もっとも、文章を書くこと自体は嫌いどころか大好きで、小、中学校の頃などは友達と一緒に創作活動に熱中したものでした。それでは、何ゆえ「感想文」が嫌いなのか……。もちろん、最初から嫌いだったわけではなくて、小学校の頃などは、みんなが「感想文？ ゲゲッ」と言っているのを尻目に、嬉々としてとりくんでいた時期もありました。ですが、中学生になってからの事です。今にして思えば、思春期という奴だったのだでしょう。自分の気持ちに正直でなくてはという戦いが始まったのです。その一環として、感想文を書くこともやり玉にあげられました。他の人はどうだか知りませんが、私は本を読む時には、内容にのめりこんで、ガッーと読み上げてしまうので、読んでいる最中に何か感じるという事もありません。ですから「〇〇はどうした。私はすごいと思いました。」みたいな文は書けない。又、読んでいて、こういう感想を書くべきという筋がよめてしまう。そうすると、書いていてウソをついている気分になる。かといって、自分の心情を的確に表す言葉も技巧も未熟なので、結局ウソっぽくなる。それでも、感想文を書くことがたまらなく

苦痛になってくるのです。いい加減にやっちゃえば、それはそれで楽なのだけれど、かつて好きだっただけにくやしいのです。ですから、まるっきり偽りの物語、小説の方が書いていてずっとリラックスできたのです。高校に入るとさらに、「黒い雨」だの「ころ」だの難しい作品で感想文を書かされることになりましたので、自分の感想を述べる点でさらに難しくなりました。が、同時に性格もかなりいい加減になってしまっ、中学の時ほど苦しむことなくなあなあでやり過ごしてしまっただけでした。そしていよいよ本論に入るのですけれど、今回の感想文で、いい加減さは頂点に達し、思いっきり趣味に走る結果となっただけです。

最初、感想文の宿題があることを知って、「ふんっどうせ小難しい文学作品か」と（生意気にも）思ったのですが、リストを見てみると意外や意外……。おっ赤川次郎に、新井素子もあるぞ。こいつはいいや。」という具合。さては先生、どこかの文庫の広告を丸ごとコピーしてきたな、と思っただけですが、どうせ感想文を書くのなら、カルめの楽しめる奴がいいや、というわけで探し出したのがこの「スローカーブを、もう一球。」本屋で手に取った時には、これで感想文を書こうとは我ながらいい度胸をしているな、と思っただけですが、リストの中でこれを見つけた時は「これだ！ これしかないっ。」というヒラメキがあったのです。私は野球を見るのが大好きだし、正にピッチリじゃないのよ、という心境だったのです。この本はノンフィクションの短編集で、てっきりおしゃれな都会派小説と思いこんでいた

私を拍子抜けさせたのですが、目次を見てみると「江夏の二十一球」なんてのもあってなかなかおもしろそうです。さらに読んでいくと野球だけでなく、ボクシングやら棒高飛びの話もあってそれぞれ楽しかったのですが、ここでは表題作「スローカーブを、もう一球」にしばってみました。

猛練習とは無縁の秀才校高崎高校（通称タカタカ）が、あれよあれよと関東大会決勝戦まで勝ち進む、という話なのですが、タカタカのマウンドを守る川端君は、なかなかのユニークキャラクターなのです。《なぜオレにはガールフレンドができないのかな？》と本人が言うとおり、どちらかというと丸っぽいプロボーションで、ユニホーム姿が映えるほうではない。はつきり言って「キャッチ川端くん。」などと騒がれることの決していないタイプ。変則的なフォームから相手打者をノラリクラリとかわしていく。そんな彼のお気に入りの球は超スローカーブなのです。一試合に何球か投げるこの球は、フォームを崩してオットットとたたたらを踏んでから体勢を立て直した頃、やっどホームベースに到着するという具合なので、打者は待ちきれず、スウィングを乱して打てたものではありません。このスローカーブがゆらゆらと本塁に向かっていくのが、まるで自分の様だと彼は思います。それで投げ終わった後に思わず笑ってしまうのです。そしてこの川端君、なんと高校生にして原辰徳より江川の方が好きという嗜好みなのです。走りこみが足りない、太りすぎだ、手を抜いたようなピッチ

ングをする：そんな江川が好きだといひます。多分、江川というピッチャーは考えすぎるほどバッターについて考えるピッチャーなのだろう、と彼は分析します。私は、「同病相哀れむ」と言つては表現が悪いのですが、どうも江川と川端君が重なつて見えてしまひます。確かに彼もがむしやらの練習は大嫌いで、ピッチング練習と言つてはランニングをさぼるのでありました。しかし彼だつてやる時はやります。関東大会決勝戦、相手校の超高校級スラッガー月山に対して、彼は闘志を燃やします。それは、自分と対極にいて、常に脚光を浴びて来た人に対する嫉妬からかもしれない。結果的に言つと、タカタカは試合に負けるのですが、二人の勝負の方はという。第一打席は三塁打、第二打席はショートゴロ。第三打席は三振、そして八回の第四打席でこの話はあえてラストになつています。一球目は例のスローカーブでストライク、さらに続けてカーブ。三球目のキャッチャーのサインは「スローカーブを、もう一球」川端君は月山君を三振に打ちとります。私はこのシヤレたラストがお気に入りです。三打席目も三振でしたが、この時の勝負球は今試合で最速のストレート。だから、四打席目のスローカーブの三振の方が、余計に彼らしい。そしてその後、力が抜けてしまつたかのように四安打されてしまふのです。私は、月山君のような「額に汗キラリ」將來有望さわやかスポーツ少年ノ」よりも、川端君のような「日陰もん」の方が共感がもてます。《短時間で集中してやれば、同じ効果が得られると思うんですけどね》と言ふ

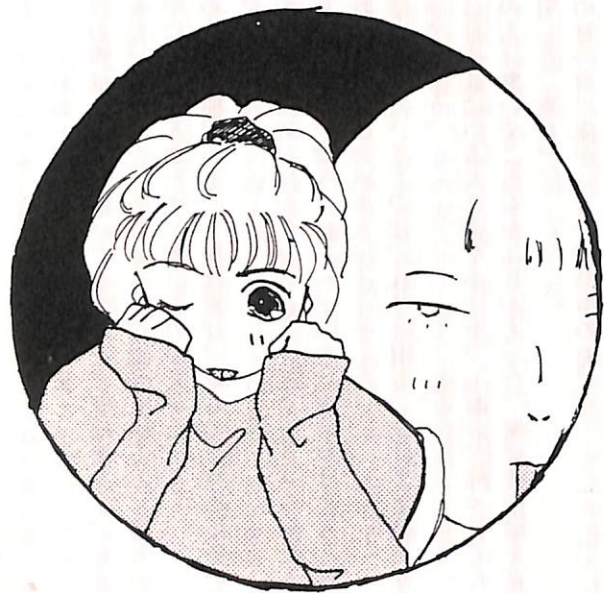
あたり、自分のセリフのような気さえしますから、それで余計にこのラストは心地良いのです。ささやかな仇討ちと言つたら大袈裟ですが、「うーん人生の一コマだなあ」という気がします。

もちろん、このストーリーは川端君が軸になつてゐるわけですが、その他にもエピソードはたくさんあつて、野球歴三カ月の先生が、若いというだけで監督になつたり、大会出場の宿泊費の心配をしたり《これじゃ、まるでマンガじゃないか》とあるとおり、私は本気でマンガにしたらおもしろいぞ、と思つたのです。マンガと言へば、高二の時に中島敦の「山月記」を習つた時も、私は同じ事を考えたのです。李徴が虎になつていく所など、イメージがすうつとわいてきて、これはいいぞと思つたのですが、絵にするためには、その時代の中国の文化（服装・建築など）を調べなくてはいけないので、ついに目の目を終つたのでした。

脱線ついでにもう一つ。今年の甲子園は、なんと、西東京代表が日大鶴ヶ丘ノはつきり言つて驚きでした。「そんなに強かつたのか」といふ感じ。しかも初出場にしてベスト8。どうせ初戦敗退と思つていただけに、びっくりでした。日鶴というと忘れられない思い出があります。昨年の修学旅行、ちようと同じ時期に、日鶴も九州に来ていたのです。長崎の孔子廟で友達といすに腰かけていると、隣に座つていた男の人が声をかけて来ました。それがなんと日鶴の先生で、飛行機で九州まで来たとのこと。新幹線で

六時間もかけてやつて来た松高生は、都立の悲しい宿命を思い知つたのでした。ちやっかり、先生にシャッターを押してもらい、写真をとつた私達は、「日鶴の生徒がいたら、もう時間だよつて声をかけてやつてね。」と言われて、先生と別れたのですが、甲子園に出た人達の中には、あの時九州に修学旅行で来ていた人もいるかもしれないと思うと、おもわずミィハーな気分になります。よく考えてみれば、同じ高校生なのですが、よくTVで観戦してて、こんな大観衆の中でプレーしているこの人達って何者なんだろうと思つてしまひます。ですから、この人達も普段は自分と同じように、遅刻しそふになつて青ざめたり、赤点の心配をしたりしているのかなあと思ふと不思議な気分になります。そういう意味では、月山君より川端君の方が高校生の等身大に近い気がします。おのずと普段の高校生活も推測できる気がします。

それにしても、この川端君の行く末はいかに。『まさか、プロの川端投手の事ではないでしょうね。もしそうだったら君とか呼んじやつて失礼だわ。どうしよう。』と、いらぬ心配をしつと、今回は、かなり肩の力を抜いて文章が書けたことを喜ばうと思ひます。



投稿欄

ふと見まわすとあたりは真つ暗だった

Fenny

ふと見まわすと、あたりは真つ暗だった。

右も、左も、頭上も、足下も。すべて黒い闇。

俺は何がなんだかわけもわからず、目をきよろきよろさせた。それでも闇。

目を閉じてみるが同じこと。ただ、漆黒の闇。

手をめくらめつばうに動かしてみる。

けれど手ごたえはなし。

ひとり。俺はひとりだった。

とにかく歩いてみよう、と思い俺は一步ふみだした。

と、その時、俺の後ろから声がした。

—— おい、待ってくれ

俺は驚いて後ろをふり向いた。しかし何も見えない。

ただ、闇。

向き直って前へ進もうと一步踏み出すと、また声がした。

—— おい、俺が見えないのか？

俺はもういちど後ろをふりむいてみた。しかし声はすれども姿は見えず。ただ、闇。

俺はうす気味悪くなつてダツと走り出した。闇の中、方向もわからず、ただめくらめつばうに走った。

走つても走つてもまわりは闇。ひよつとしたら俺は足踏みをしているのではないかと思うほど。

俺は走った。走った。走った。どれ位走ったのかわからな

い。もう何時間もたつたような気がするし、ほんの数分しかたっていないような気もした。

—— おい、待ってくれえええ

背後の声はまだ追い掛けてきていた。俺は怖くて、もう後ろをむけなかった。それでもまだ走っていくと、前方の闇の中に人が一人たたずんでいるのが見えた。

しめた。仲間がいる、と俺は喜び、走るのをやめてその背後に近寄った。

その人は俺に気が付かないらしく、きよろきよろしたあと手をめくらめつばうに動かしていた。声をかけようと思つた時、その人は突然歩き出そうとした。

俺はあわてた。ここではぐれては困る。俺はまたひとりになつてしまふ。

俺は目の前にいる人に声をかけた。「おい、待ってくれ」その人は驚いてこちらをふりかえつた。俺はその顔を見て絶句した。俺だ。

俺の目の前に俺がいる。闇の中の俺。

目の前の俺はこちらに全く気付かず、また向き直って再び進もうとした。俺はもう一度声をかけた。「おい、俺が見えないのか？」

目の前にいるもうひとりの俺がまたこちらをふりむいたが、すぐにダツと走り出してしまった。ちくしょお、なんだって逃げるんだよお。俺はあわてて追い掛けた。「おおい、待ってくれえええ。」

俺は目の前を走る俺に叫んだが、今度はふりむいてくれな

遊泳

三A 手島 慎一郎

時計の針は、ほぼ十一時をさしていました。

八月の初めの夜は、やはり熱く、それでいて純度のある涼しさがありました。

スズキさんは、マンションの四階の自分の家の錠を掛けました。マンションのエレベーターを降り、玄関から出て一〇メートル程歩いて駐車場まで行き、スズキさんは自分の車のカバールを外しました。

アルファ・ロメオを手に入れたのは、約半年前でした。

スズキさんが大学生の頃に知り合った車道楽の友人が、もちかけた話で、その友人が、新しく車を買おうと思ひ、自分のアルファ・ロメオを査定に出したところ、値がつかないと言われ、スズキさんに話がまわってきたのです。そのアルファ・ロメオは、赤のアルファ・ロメオ2000GTVでした。アルファ・ロメオは、スズキさんにとって憧れの車でしたが、自分の収入上、持てるとは思ってはいませんでした。金額を尋ねると、五〇万円いいと言うので、スズキさんは一週間考えて、買うことにしたのでした。

アルファ・ロメオは、街灯の光を斜め前からうけ、スズキさんに背を向けていました。ドアを開け、シートに座ると、フロント・ウィンドウ越しに、すこしばかり下がり気味のボンネットと、所々が街灯に照らされた夏の夜の駐車場だけが見えました。スターターにキーを入れ、右に回す

〈筆名注〉

サハラ地方に棲む小

狐、アラビア語でFEN
NEC(fenny)に基づく、

作者の新造語。



と、アルファ・ロメオのエンジンはずばやく反応し、静かな中に、はつきりと響きました。その響きは明らかに、活発なアルファ・サウンドでした。

スズキさんは三日間の休みをとっていました。スズキさんぐらいの年齢になるときと、家族サービスをしたりするのでしようが、スズキさんの奥さんと二人の娘は、休みの三日も前に郷里に帰っていました。必然的に、一人で夏休みの三日間を過ごすことになったのですが、もちろん、その後を追って、郷里に向かうこともできたのです。しかしスズキさんは奥さんと一緒になってから一度もしたことがない、一人で夏休みを過ごすことを選んだのでした。はじめは、ゴルフをしたり、家でゴロゴロしたりという、普通の会社員がするようなことを考えていたのですが、せっかくの一人の夏休みであるのだから何処かに行こう、遠くに行こう、と思い、色々考えていたのです。

ある日の夜、スズキさんはそのことを考えながらマンションの自分の家に帰り、ドアを開けました。玄関から居間を通して新宿のビルの光が見えました。スズキさんは不意に、車の免許を取って一年目に、中央自動車道で甲府の夜景を見てその美しさに感動したのを思い出しました。スズキさんはそれを再体験したくなり、その方向に決めたのでした。

二、三回のアイドリングをして、スズキさんはアルファ・ロメオを発進させ、住宅街を抜けて、環状八号線に出ました。その幹線道路は昼間と姿を別にし、切れぎれに、車

が昼間より幾分速く、街灯に照らされて走り抜けていました。スズキさんは、なるべく他の車を、抜くように抜くようにして、アルファ・ロメオを走らせました。テクニクには自信がありました。大学生の頃は自動車部にドライバ―として在籍し、ジムカーナ、トライアル、草ラリーになり多く出場して、入賞経験はちょうど十回ありました。しかし、スズキさんは競技の時のように気を張らずに、かなり余裕を持っていました。窓を開け、入ってくる風にあたりながら、受け入れるままに愉しみました。

やがてスズキさんとアルファ・ロメオは、高架橋をくぐり、甲州街道の交差点を左折しました。そこでも、基本的には変わらない風景がありました。道の両側には何か紅葉樹の並木があり、所々に24時間営業のコンビニエンス・ストアや、ファミリー・レストランが、どこかもの悲しく灯っていました。スズキさんのところはその灯とは対照的に明るく輝いていました。

アルファ・ロメオは、甲州街道を調布インターチェンジまで走り、そのロータリーを、大きく左にまわり、東京の外へ進路をとりました。中央自動車道の左右には、東京のたくさんの方々が、極めて日常的な光に満ちていました。やがて、右に、薄暗くなつてしまった競馬場が現れ、そのすぐ左にビール工場が現れ、アルファ・ロメオはその間を泳ぐように走り抜けました。

スズキさんは車の中で一人でニヤリとしました。自分が感じ、行っていることが、今までに求めていたものであり、

心が解放されたのを自覚したからです。その直前に、スズキさんは「楽しいぞ」と一人言を言っていました。それが、客観的に見て不気味であるのに気がついたのですが、誰かが聞いているわけでもないし、まあいいかと思いました。一人言が自覚をさせたのです。スズキさんのところは泳ぎだしました。

時計の針は、ほぼ十二時をさしていました。

スズキさんは、ここでも他の車を追い抜くように走りました。スピード・メーターは一五〇km/hを指し、それを保ちました。たいていの車は道を開けましたが、一台だけ、白のボルシェ924が開けませんでした。スズキさんは、パッシングをして抜かそうかと思いましたが、それは自分の今日のとりきめ——気を張らないこと——と反すると考えたからです。「ボルシェとの一戦」は、決してつまらないことではないのですが、それは愉しむことにはならない、気を張ることになるからです。アルフェッタ2000GT Vと924とは、車格も、フェイス・バリエーションも、実際、同じでした。しかし、みすみす逃がすというのも反すると思つたので、車間距離を五十メートル程とって、くっついて走るといふ行動に出ました。少し意地悪だなと思いましたが、夜のハイウェイを連なって走る姿は、なかなか良いのではないかと思えたのです。あと一台、青色のVWシロッコなんか来ればトリコロール・カラーで走れるぞ、シロッコじゃなくて青色のブリティッシュ・スポーツカーがあれば、ラテン、ゲルマン、アングロサクソンで三すくみ

だ、語呂もいいぞ、なんてことを考えているうちに、八王子インターチェンジの前でボルシェがスピードを徐々に落としたので、スズキさんもスピードを落とすと、ボルシェは道を開けました。ドライバ―の顔を見ようと思いましたが、その一〇〇メートル先で、黒のトヨタ・レビンが前に出てきたので、前方確認の為に見ることはできませんでした。もちろん、八王子インターまでの間に、そのトヨタ・レビンは、はじめの五分で道を開け、スズキさんは、意気揚々と抜きました。

アルファ・ロメオは、八王子インターチェンジに近づいたのでスピードを落とし、スズキさんは料金を払い、カードを受けとると、再び、スピードを上げていきました。中央自動車道は、山の中を文字どおり「縫う」ようになり、山肌に沿うようにして、アルファ・ロメオは走りしました。一番最初の、長いトンネルである小仏トンネルを、あまり長い時間をかけずに抜けると、闇の左下の眼下深くに相模湖がありました。そこには、人家の灯、街灯、ラブホテルのネオンや看板がありました。

それらの光は、東京の住家の光と同じように、決して美しいものではありませんが、それらは、スズキさんにとっては趣がありました。父が走らせる車の中から見た、自分が走らせながら見た、スズキさんにとっての高速道での原風景でした。

スズキさんは、不意に、自分が好きだった女の子のことを思い出したのです。これは明らかに旅情でした。それは、

未だに、ちよつぱり純情なスズキさんには、実に、思い出す時に恥かしくなったり、眉をひそめたりする思い出ですが、思い出すという行為が、アルファ・ロメオを舞台にしたところと、ロケーションがぴったりのので、あえてその行為にブレーキをかけませんでした。

アルファ・ロメオは、闇と光の中を右に左にカーブしながら走りまわった。すでに相模湖は過ぎ、談合坂のサービスエリアも過ぎていました。スズキさんのこころの跳躍とは関係なく、アルファ・ロメオは走り続けました。

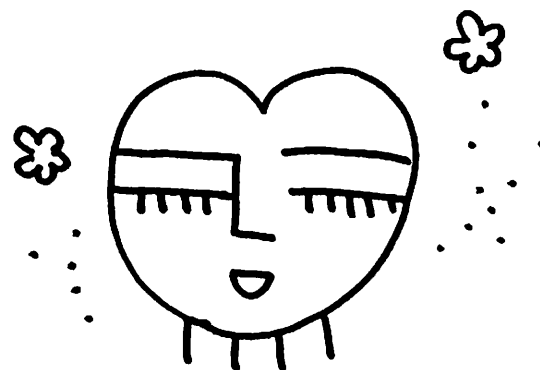
その人は女の子というよりは女性でした。とてもきれいな髪を持ち、普通の女の子よりずっと優しく、きれいで、それでいてかわいいところもありました。その人を好きになつたのは、ある年の初夏ですが、その人のことはずっと以前から知っていました。スズキさんはその夏の終わりに気持ち伝えました。そして、そのちょうど一ヶ月後にふられました。大体、予期はしていたことではありましたが果然とし、内心、とり乱しました。その後何日も、思い出しては頭の中が真っ白になりましたが、どうしようもありませんでした。「友達でしかない」とその人は言い、そして事実だけが残りました。

アルファ・ロメオは、すでに大月のジャンクションを過ぎていました。やがて、筐子トンネルに入りました。トンネルのオレンジ色の光の中で、スズキさんは思いました。

へ保母さんになりたいと言っていたけれど、ちゃんとな

れただらうか？。きつと彼女のことだからなれただらう。今、何処にいるのだらうか？。夫は？。子供は？。……。」
トンネルを抜けました。アルファ・ロメオの窓には、又闇が広がりましたが、その遠くには、たくさんの光のつぶが星屑のように見えはじめました。

時計の針は、ほぼ一時をさしていました。


$$\mu \circ \wedge^n = \kappa \wedge^n \quad \square$$

こめがあなたに届くことは、きつなかつた、
私が今、あなたに伝えたいこと、ここに書きます。
いつのまにか、とても、自分じやうどうしようもない
激しい気持ちの中、で、それがいてました。苦しくて
しょうがなくて、それがあなたのせいだ、とわかる、と、
思います。その気持ちは、強く、私を苦しめるのです。
一人でいるふとした瞬間、にも、となりにいたい、
私を喜ばせて、苦しめる。私はそれが大好きで
せつない。真実、の私を見失って。

あなたを好きだと気づいてから、今まで
 氣にならなかった、日常的な「ちよとしたこと」が
 嬉しかったり、悲しかったり。他人は気づかない
 「ちよとしたこと」で人生がバウ邑になったり、
 不幸のどん底へ落ちたり。私はそれを毎日
 くり返して。これは私に平凡じゃない
 日常をもたらしただ。

私を 強くするのよ、かわいくするのよ、素直に
 するのよ、うそつきにするのよ、あたししかない。
 きっとこれが 私の 真実 なんだね。

ごんなに近くにいるの
知って言えない。
近しいだけといには遠いから
つらいんだよね。

py. 十才分 (2年 女子)

— 80 —

— 79 —

くらす 紹介

なのた。

クラスについては
よく分かっているん
だけど、いざ「書く」
となると、なんとなく
ためらってしまう。



*最終的にはHJ
議員かか場合
が多い。

一年A組

朝、八時十五分。二、三人の笑い声が聞こえる……が。
八時二十五分のチャイムとともに押し寄せる生徒の波。こ
こから一年A組の一日は始まるのである。授業中は、静か
だノ・・・とは言えない。とてもにぎやかで、周りのクラ
スから男女の仲がいいと言われるが、保健体育のフォーク
ダンスでは、男子は恥ずかしがって踊らない。女子は、そ
れに反比例して、うれしそうに楽しく踊るのである。

入学当時は、まだ慣れなくて、授業中は冬の海のような
静けさを感じたほどであったが？ 今ではうそのように変
化してきた。これから先、このA組がどう変わっていくか
とても楽しみである。生徒の雰囲気も変わってきたが、教
室が明るく見えるのは、そのせいだけではない。黒板の上
の人形たちとコーヒー、紅茶の空きかんたちが、きれいに
そろっているのである。帰りのホームルームが終わり、生
徒がいなくなると入学当時のあの静けさを感じてしまう。
黒板の上の人形たちも、教室にポツンと残され、明日の朝
八時二十五分のチャイムを心待ちにしていることだろう。
というわけでA組の紹介はおしまい。うーんよく分か
りませんよね。私もA組をどう描いたらよいのか分からない
んです。だからあとは想像におまかせするほかありません
ね。よく分からないというよりも文章で表せないというの
がA組なのかもしれません。

(一A 秋山 直美)



(一B 安野 武平)

一年B組

私達、一年B組は美男・美女ぞろいのハッキシ言っ
てち
よおもしろいカッコイイクラスです。クラスのまともりも
素晴らしく、協力してガンバった体育祭じゃ、堂々ビリノ
あと、みんな仲が良かったです。ケンカなんかした人はいませ
ん。授業もちゃんと聞きマス。ただし、夢の中で……

ここだけの話ですが、ウチのクラスは、ヘンな人もけっ
こういます。授業中、一点を見つめ続けていて、何してる
の？と聞くと「考えてたの」とか言う人や、いつもニコニ
コしてる人や、外を見て、「今日の空はシブイ！」と言
う人、授業中にマンガを見て感動して泣く人、その人に「お
父さん転んじゃうトコでしょ？」と聞く人、トトロのスキ
な人、学校にシャープペンを持って来ない人、「明日、学
校くんのやめよーかな？」と言う人などです。他にもいろ
いろ……。残り少ない高一生活を、みんなで思いっきりエン
ジョイしたいです。

一年C組

私の友人に「我が一年C組はどのようなクラスか」というアンケートをしました。その結果のいくつかを見てみましょう。

- ・とても明るい
- ・楽しい
- ・うるさい

以上の三つは、一年C組に限らず大抵のクラスにはあてはまるのではないのでしょうか。逆に、「暗いクラス」とか「楽しくないクラス」などというものは、クラスの人数が十人未満などという、どこかの田舎の分校以外にはない、と言っても過言ではないと思います。その他の意見を見てみましょう。

- ・団結力がある
- ・非協力的なところがある

この二つは矛盾している、と考える人もいると思うので文化祭を例に簡単に説明したいと思います。
今年の文化祭で、私達は「シンデレラ」をやりました。劇をやるために最初にやらなければならぬことは、配役を決めることです。HRの時間に文化委員が前に立って配役を決めようとしていました。一部の役は積極的な人で決まったもののその他の役はなかなか決まりませんでした。ここで「非協力的なところ」がでてきました。結局、みんな文句を言いながらも推薦という形で配役が決まりました。しかし、役が決まるとみんな文句を言っていたのがウソのように、心をひとつにして一所懸命準備や練習を始めま

した。ここで「団結力」がでてきました。勿論、文化祭は大成功でした。

私から見れば、このクラスはやればできるクラスだと思っています。だからみんなでもっともっと良いクラスにしていきたいと思っています。（ちなみに今、私が書いているのは九月です。）

その他にもアンケートの意見が多数あるのですが、ページの都合により省略させていただきます。（大ウソ）

最後に、アンケートにご協力してくださった皆様、どうも有難うございました。

（一C 石本 尚之）



一年D組

……. はあ。そんな突然クラス紹介を書け。と言われてもねえ。何かよく分からないよ、このクラスは。まあ、とりあえず他人の言葉に頼ってみようかな。

「まず、先陣をきるのは大場君（担任の古文）」
「明るく伸び伸びしているのがいいところかな。遅刻多いし、欠席多いし、平均点は最下位だし…….」
駄目にしたのは僕だ。以下、簡潔に一言ずつ。

現国・柳先生「授業中は実に大人しい。」

数学・四家井先生「非常に明るく楽しく勉強している。よ

うに見える。もう少し集中心があればベストなんだが…….」

今後の頑張りを期待します。」

英語・鶴野先生「一番怒っているクラス。でも、まだ自分

の中で、どんなクラスかでていない。」

社A・一杉先生「他のクラスと特に違いはない。熱心に勉

強している。これから、ますます勉強してくれればなお、結構。」

社B・三壁先生「授業中もう少ししゃちを入れて欲しい。」

生物・小林先生「授業中元気になって欲しい!!」

「そして、最後は 副担任化学・山崎先生」

「何もないよ。特に……. きひひ。（笑い声）」

と、まあ色々ありますが、参考にして下さい。

（一D 大澤 純代）

一年E組

一年E組のクラス紹介ということで、担任である荒井先生にこのクラスについて、どのように思っているかを聞いてみました。先生はこのクラスについて、「悪い所もいくつかあるけど、よい所をみると、自分達の居場所があり、男女の仲も比較的良好（いい意味で）、体育祭では賞状を六枚ももらったし、学力テストでは毎回二、三人表彰されるなど学力面もよく、クラス全体もいい雰囲気をするクラスなのでは。」とおっしゃっていました。また最初の頃は、クラス内でいくつかのグループに分かれていたみたいで、あまりまとまりがないように思われていましたが、文化祭で劇をやった時、前日まで教室内のセットが何もできない状態からこれを半日で仕上げ、（美しく）文化祭当日も皆、まとまっていて、予想と反してたくさんの人が見てくれました。このようにいざという時、すごく団結力があります。それと一Eが一年クラスの中で最も遅刻の少ないクラスだったということは驚きです。以上が一Eのクラス紹介です。

（一E 小早川 良）



一年F組

私達一年F組は、カラオケ大好き、愉快で、にぎやかなクラスです。お姉さんのように優しい(?)担任の河村晴子先生と一緒に、毎日元気に過ごしています。しかし、その陽気さの度が過ぎて、どんどんけじめがつかなくなり、ついに、一部の教科の先生達の間で、「授業中の態度が悪い。」と評判になってしまいましたとさ。めでたしめでたし。ではなくて、そんな私達でも、やる時はやるのです。九月に行われた文化祭では、数週間前から、どの役割の人も一所懸命がんばって、(中には、役についている人で一人、例外がいて、だらけまくり、最後の最後までセリフを覚えずみんなの大ひんしゆくをかってしまったのがいますが、それは、私のことです。)おもしろく、感動的な舞台をつくりあげてきました。

要するに、自分達の好きな事には、はてしなく熱中するけど、大して好かない事だと、それほど……というわけです。

そんな一年F組だけど、これからはずっと、悲しいクラス替えの日が来るまで、みんなで仲良くやっていくだろうと思います。

簡単で、おそまつではありますが、これで、クラス紹介をおわりにします。

(一F 堀内 美穂)

二年A組

松原高校の中でも比較的狭い教室の中に五十人と一人、ひしめきあって生息しているのが我が二年A組である。そして、ただでさえ人口密度の高いこのクラスが最も狭く感じられるのが昼休みなのである。ついでに言わせてもらえば昼休み、授業中割と静かなうちのクラスが一日の中で一番騒がしくなる一時でもあるのだ。なぜ、昼休みになると二年A組はかわってしまうのか? 原因は明らかでして他のクラスの人たちがお弁当をぶらさげて集まって来るからなのであります。にぎやかなのは大変結構なことなのではあるけれど、教室に五十人以上入ってしまうこともあるから四時間目が終わると戦争になる。席取り合戦だ。まさに弱肉強食の世界。席を確保し損ねると、教壇をイス代わりに食べる破目になったり、中庭に追い出されちゃったりするからみんな必死なのです。無事席にすわることができた人もそれぞれ自分たちの話に夢中でとにかく騒がしい。そんな中に唯一のんびりが入っていらっしやるのが、担任の一杉先生であります。私たちがどんなにうるさくても、グループごとに机をくつつけてある間を出席簿片手にまわられ、静かに(気づかぬうちに)本拠地である社会科準備室に帰って行ってしまうこの先生は、常に穏やかであります。時に大声を出すこともあります、残念なことにはあまり怖くなく、私たちが驚かないことも、しばしば。

(二A 林 彩子)

二年B組

僕達二年B組は、担任の菊地先生(音楽担当)と生徒四十八名で成り立っています。みんなとても(かなり)個性的で明るく、仲は良いですが、あまりまとまりがなかったりもします。だけど、とても楽しいクラスです。

担任の菊地先生はH・Rの時など、クラスをまとめようといつも努力してくれているし、生徒の事にも気をくばってくれるし、時々熱意あまって大ボケもかましてくれます。

副担任の河村先生は、孔子が大好き(らしくて)で、いつも僕達に教養人になるための、とてもためになる話や、人生のなんたるかを話して聞かせてくれます。国語の先生であるので、漢字や熟語の知識はきつと誰にも負けないと思います。夏休みに病床に伏したそうですが、元気に回復して、いろいろな事を教えてくれています。

二年ももうあとわずかとなりましたが、ますますバラエティーかつパワフルに自分達の道をつき進んでいこうと思います。

(二B 勝尾 優)

二年C組

二Cというのはどういうクラスなんだろう。

もう二Cになってからずいぶんたつのに、いまだによくわかりません。どうしてもこれといった特徴が思いうかばないのです。こういう状態でよくクラス紹介なんて書く気になったなあ、と我ながら呆れてしまった。こんなことを行っているもしようがないので他の人に二Cについて聞いてみたけれど、この感想がまた酷かった。「よくわからない」とか、「やらなくちゃいけないときでもやらない」とか、「不活発」とか、誰か一人くらい長所をいってもよさそうなんもんだと思うけど。うーんよく今までやってこれたもんだ。一応フォローを入れておくけどみんな良い人ですよ。うんこれは本当。いまいち団結力とかクラスのまとまりとかに欠けるところもあるけど、まあ少なくとも悪いクラスではないでしょう。

(二C 山口 陽子)



二年D組

我が二年D組は、男女ともたいへん協調性があり、体育祭・文化祭等ではクラスが一致団結し、とてもすばらしい成績を残す等、仲の良いクラスです。二年D組の担任である高山先生は、ときには僕達に冷酷な厳しい印象を与えたこともあったが、先生特有のユニークでかつ厳しい所があるのは、何よりも僕たち一人一人の自主性を大切にしているところがあるからなのだと思う。そのような担任の先生がいる中でD組は、他のクラスに比べて大変おとなしいクラスだと感じられる。それというのはD組が授業で自習課題が出された時黙ってやっていたり(当然?)、ホームルームの時提案する人が出なかつたりするところがあるからである。しかし、そういうのがD組の性格を表す一つにあるのだからいい特徴だと思ってもよいと思う。

(二D 津吹 宏次郎
二D 矢崎 博文)

二年E組

うちのクラスは何だか特殊です。担任は、橋本先生いわく、『歩く人間コンピューター』数学科の小野先生。みんなから『小野ちゃん』と呼ばれている彼は、左手で英語の鏡文字が書けることを人生の誇りにしています。クラスの人々とはいうと、やつぱり特殊成分を持った人がいっぱいいます。体育祭は盛り上がりました。文化祭は、初めは下火だったみんなの情熱の炎も前日に燃え上がり、出来上がりは最高でした。うちのクラスは、ちょびり取り組むまでに時間がかかるけど、何かを始めると、素敵に仕上げてしまうクラスです。うちのクラスは何だか楽しいです。

(二E 余湖 真美子)



二年F組

「非常に幼稚。」これが我が二年F組の担任の口癖です。不幸にも我がクラスの担任になった人物とは、国語科の松田せつ子先生です。彼女は「ピンクの電話」のある人物に似た優れた美貌の持ち主で、生徒たちからの絶対的信頼があり、知性に満ち溢れているという三拍子揃ったすばらしい先生です。「エリー」というあだ名で呼ばれています。なぜそのように呼ばれているのかを知っている人は多くないようです。副担任は体育科の山崎清先生です。彼は松高一の色男という評判が高く、四十周年記念式典の司会ではひとときわ輝いて見えました。

さて、クラスの紹介ですが、二年F組は、北棟の二階という、この学校でもかなり目立たない所にあります。このクラスの最大の特徴は、分裂状態でつかみ所がなく、自由気ままであるということです。こう言えば良く聞こえますが、裏を返せば、勝手な行動をするわがまま集団ということになります。遅刻あり、中抜けあり、早退ありと、何でもありというこのクラスでも、やる時にはピシッと決めます。文化祭や修学旅行の時などは、見違えるほどの団結力、行動力を天下に示し、松田先生からお誉めのお言葉を戴きました。

こんなクラスですが、三年になってどのくらい変わるのかが非常に楽しみです。

(二F 伊藤 正人)



あいかけ、この図

三年A組

歸つて泣きだした……。So long. あしな
グーイングマイウェイでいくんだもん♡ いであつこ
私の夢は、かわいなおよめさんになることです。遠藤知子
CARLS BE DREAM'、 由貴江

「やすらぎ」を求めるコト……

片岡瑞代

(テクマクマヤコン)まゆ毛のある女になれ。(泣)金子
君に合えた松高にありがとう。これ、押し花電報で……みき
卒業したらオーちゃん追っかけから逃げられる。佐々木
一、いい大人になりましょう。

白銀ひろ江

ハレの日に、また逢おうね。

ユカコ

ミンナ幸せニナッテネ。

タカノチエ

ボリンキー三年間の秘密はね……教えてあげないヨチャン!?
新たな自分を見つけに出発ノ みつこ →田村

苦しみの後には必ず喜びがくる。何事にも頑張ろう!!祐佳
これからの出逢いを大事にして下さい。 奈良久仁子
NO COLOUR OR RELIGION... "H" カボ

高校でできた友達、忘れません。ありがとう。 玲子
Pesant memories ひぐきよ

またいつかみんなで会えるといいね。 小折
いつまでも忘れない。この季節、この時を。 陽子

みなさん どうもありがとう。 吉田

人間五十年 下天の内をくらぶれば夢幻の如くなり
文化祭さえなければ……

三年B組

さー、ガレキ屋のやせうふーんふーん……
K君、あごの黒ごま全滅大作戦せひ成功させてね 相田
優柔不断で損したことを心の糧とし余勢を過ごす。 近藤
凡人は失なつて初めてそのものの大切さに気づくらしい天
最後までやらなければ物事はそこで終わってしまう 伊藤
もう一押しほしいよねー。 ゆっこ

Just You'd My Love, AL…… TOM
固い絆に思いを寄せて語り尽くせぬ青春の日々 小川

時には傷つき時には喜び肩をたたきあったあの日 坂上

あれからどれ位たったのだらう 桑原

沈む夕陽をいくつ数えたらう 中原

故郷の友は今でも君の心の中に居ますか 景山

、やな、はとつてもステキな奥さんになりますっ♡金谷(妹) 三浦

人は俺を赤い稲妻と呼ぶ。 ウソ
「EASY」で行こう!! 森川

ちっちゃくてごめんね。 みふゆ
11月14日は埼玉県民の日。 さおり
早くおとこのこの子供が欲しい。 みゆき

やっぱガイジンが一番♡ 七知
箱根にいつて、富士山見て温泉たまご食べたい あおい
TO④ 早く一緒に住みたいね。 BYひろみ
山手線ゲーム!!がんばるぞ!!オーチャチャ……… 田中
努力あるのみ 小松

さようなら。

最後の試合が一番思い出になった サラバ松高 阿部 仁
予備校の入塾テストまでおちたらどうしよう 荒井英生

"JUSTICIZE" 今村 和人
It's a FINAL COUNTDOWN. 折山 治

踊らされていたとは……。人間不信だ。 カスイ
松原は塾のようだった……。塾の皆元気で!! 杉本 花子

またみんな会えるさ。だって地球は丸いんだもん。 斎藤
Toothrow is another day. 坂下

早く大人の男として脱皮したいです。 佐竹 英史

季実子は巨乳だが、粗チンだ。 杉本 花子

教訓！学校さぼってべへに行つてはいけません。高井 励
僕はまだドーテイです。お楽しみはこれから♡ 高月寿実

松原高校のみなさん「さようなら」 竹田 潔

僕の人生一発逆転 田沼 一哉

それじゃ、つぎ、会う時は新宿の「DUG」で。 手島
みんなのことは死んでも忘れないよーアルフィー狂信者 NS

A猪木とマサ斎藤の厳流島決戦ノ 羽根田浩一
自他共に優しく厳しく見つめましょう。 とおる

俺は兵藤だあ兵藤だあ兵藤だあ みんな元気で!! 藤田
山室君、二十年間オレによくぞ仕えた ごくろう 松尾

石渡？あいつはやつぱりいいヤツじゃなかったよ 松尾
人生、すなわちこれゲームなり。 ムラオ マサヒコ

"SEIZE THE DAY" From. KUBOTA
島根・山口・広島・岡山 島根

Don't Forget humor, Nobuko
ずこう、たいいく、こくこ、さんすう、しゃかい、 利果

傷だらけの膝が輝やいてる、少年でいられるか！ F・F
美容室ラブヘアー西小山店。待つてるよ。 だて

① 一本でもニンジン、二足でもサンダル 中野陽子
20XX年俺は世界を滅ぼすパワーを得るだろう みやた

青春の日々、剣道部ノ竹刀は捨てても、心は捨てず。 杉田
長いようで短かった高校三年間であった 桜井

元気だね！ 人生楽ありや苦もあるさ、ねっ真理ちゃんノ Y・Y

やっちゃえ やっちゃえーい………ぷー まつ
くっちゃえ くっちゃえーい………ぷー ごーごー

映画大スキ——ッ直滑降、直滑降ノ ふえねぎい
いろいろお世話になりました ふみこ

また会おう！それじゃあばいばい………めぐみ
たくさんたくさんありがとう。ずっと忘れない。 啓美

やつと自分の好きな道を進み始められそう。 木内宣昭
TOユッコ四月になったら一しよに野球見に行こうねノW

黒ヒョウ早く治ってくれ!!緑のプーサン疲れた。 田原俊彦
わたそのカード違う、それも違うノ Y

フィアンセから、奪ってしまいたいくらいすき。 みちえ
この3年間で何を学び、何を得たのだろうか。 高橋晴久

3ねんBぐみがスキ——ッパラレルパラレル！ お華P



1. 古屋 2. 田中 3. 岩館 4. 金沢 5. 小川 6. 金沢 7. 天羽 8. 渡辺 9. 相田
10. 沼倉 11. 伊藤 12. 丹沢 13. 坂上 14. 岩井 15. 高橋 16. 宮本 17. 伊藤 18. 藤縄
19. 小野 20. 佐々木 21. 木内 22. 杉本 23. 小栗 24. 川田 25. 近藤 26. 中野 27. 岡野 28. 小林
29. 石井 30. 中原 31. 杉田 32. 石松 33. 柴崎 34. 小松 35. 国井 36. 志賀 37. 愛崎 38. 井
39. 泉山 40. 森川 41. 中村 42. 宮田 43. 柳田 44. 高橋 45. 千葉 46. 小森 47. 島取 48. 新井 49. 田中 50. 三浦

三年C組

また逢う時は 緑と光の街で・・・ごきげんよう B M C
応援団ってかっこいいよね、特に今年の副団長は!? 副団
みんな、みんな、おおきくなるよ。 さん
日本人も宇宙を飛んだノさあ松高生も羽ばたこう!! 布施
二十六字で一言って言われても答案じゃあるまいし。オニ
うちの副担はやさしいから大好き。キャサリン・ストーク
「風はアジアから吹いている」英訳して歌うと。 さる
みんなありがとー、たのしかったよー。 やっちゃこ
こんにちわ・さようなら いいじまふみえ
かの入学式ぞ恋しき。思へば老けにけるぞかし。 綾式部
最後に、礼を言いたい君がいる、あいつがいる。清水敬一
三年間どうもありがと。 くーちゃん
ふぁいとノいっばつノひびこれっせん。 みかどん
FIGHT ONES WAY!... 帖佐 学
松高での三年間は、長いようで超短かった。 C・S
ありがと、さよなら。友達 先生 教室... T
ー a m H e e t h a n 丹沢:402号の宛の中人
俺は、テンブル大学に行ってバスケットをする。 池本
週末の忙しさは『舞台女優』の宿命よっノ BEANS
想いのローソクの炎を消さないで いつまでも なおこ
松高の参年間は充実してた・・・かな? もとこ
雨の日も風の日も自転車通学しちゃったよー かおり
みんな、後楽園で僕と握手!! ファイブマン

夢、それは幻。

青春、それは短くて・・・。

さーみろ!

ビデオ「コアラのふともも」絶賛発売中ノ

わかつちやいるけどやめられないノ よっぱらい S Y U

・・・てんでんテンテンテン・・・

「また一緒にあそぼーぜっノ」

先生さようなら、みなさんさようなら

夜霧よ今夜もありがとノ本間先生もありがと

TOP 皆さん、三年間ありがとございました。

楽しい思い出いっぱいありがと!! ポンポコ山いけ P O N

ホモと言われ続け、はや3年 With 帖佐

四年も行って大失敗

袖振りあうも他生の縁

悲しくてやりきれなかった。

昨日までのざわめきが笑い始めた。

・万馬券、それは幻

楽しい思い出をたくさんありがと

三年間とっても楽しい思い出をありがとノ

ふざけろ

これが出る頃、卒業決まっていればいいけれど。

はやく開放されたいよ!!

来年は、ちゃんと勉強します。マジでノ

いつべい
ひゃつべい
てつや
コアラ
ともみ
裕花
マッケン
井塚
大西滋郎
くみこ
服部征太
白石
ベータ
テップ
BAB A
恵子
智美
H・N
吉
(K)
水島

三年D組

ドームに一緒に行こうね！
もちろん、駐車場もね！！
みんな元気でね、いつかまた会おうね♡
トヨ、借金返シテヨ。バカ。
世田谷線はおもしろかった。
京王線は夢がなかった。

いつもゴーゴー、踊りがいかすぜさっちゃん
教訓一、雨十ローファルズベツ
教訓二、松高最高♡
教訓三、暴風雨。シヨートにバーマはヤメルベシ。ながを
教訓四、イジメル彼は作っちゃダメヨ！
「ダーツ」といつもビリビリフレンチかんかん
さなちゃんたら手足も福毛も長いし、ダンスの神。さちこ
はやく免許をとりたーい！！
ゆうちゃん、法学部で頑張つてね。
うん、ひろえちゃん、立派な秘書になってね。
十年後ようこは印旛沼で河童になる
十年後みわは武田鉄矢の弟子でバーシャルしてる
十年後ともは、「フォーカス」にのってる。
十年後のやまさんは、「笑点」の座ぶとん配りだ。ともも
十年後あかねは、夫をさがしに三千里
十年後あおいはまだランバダを躍っているだろう。あかね
十年後、めぐみは多夫一妻制の会長となる
あおい

マス
ちやや
ともこ
エナツ
美知代
かんかん
しーか
ときちゃん
ながを
神保
さな
めぐ
ひろえ
ゆうち
めぐみ
ようこ
みわ
ともも
ヤマ
あかね
あおい

二子玉爆龍会会員募集中心僕はお茶くみです

「・・・」
自称クラスのおさ、たくろー
卒業できてよかった——ノ（してないかも？）
まさる、おまえ本当にくだらねーよ
心はいつも太平洋せよ
いくぜツ

頭悪いんぢやないの？
ボクはクラスのおし、ぢやあない
愛と青春のかたまりの僕をよろしくね
本田ノ感想をどうぞノ
NO COMMENT—
失う者は何も無い
浪人したくねノ
どうもみなさんさようなら
「僕のことわすれないでね。よーしー。」
「君への愛は一生変わらないよ。」
卒業できて・・・るのかなあ
大学進学に関して、元木大介にはなりたくない
「美容師さん、前髪ちゃんとそろえて。」
クラスの遅刻王井関を忘れずに
来年は阪急ブレーブス優勝だノ

ダンディー中根
セクシー井川
おさむ
ジャニオ
植田己隆
本田雄次
小野寺宏治
鈴木雅明
庄谷圭多
よーしー
こーすけ
古(手)川
秋元健児
のり坊
井関治成
たくちゃん

もりちび
河野健
坂場敏雄
笹原
すすむ
朋輝

三年E組

これでやっと三年間の羊小屋の主からの解放だ！！担任ドラ
第二のナイチンゲールは私ですノ
ガ

ともみ
きみえ
しのぶ
やーこ
ゆうか
ツゆみこ
英子
チカ
あさこ
⑤
小林
大沢
④
③
マリモ
双子の姉
まう

有名になって見返してあげますつ。
学校まで一時間！！
ENGLISHをマスターするぞノ
めざせノ女子大生、そし若奥さまヨ
やっとおわりましてうれしです
これって、あとで見るとはずかしいもんですね
日本の緑茶飲んでる？飲みなさいよ！！——K氏談
本屋は書齋に使う。——K氏談
につぼんちゃちゃ。につぼんちゃちゃ。につぼんちゃちゃ。
私はガチャピンじゃないわよ！！まう！！
サーフボード片手に厚木へ嫁入り（ノ事実）
KYOKO LOVE♡
NORIKO LOVE♡
SANAE LOVE♡
3Pバンド クラッシュヤーズよろしく
「半分本気」と書いて「ハーフマジ」と読む。戒行寺タミ

BY バシ
BY マナブ
BY ナオキ
JOHN NY
戒行寺タミ

今日(二十二日)は、不調だったなあ。

Forever your memories BAKU キヨ
それでもやっぱ、君のことがだいじ好き♡ 友香
T154 世田谷区豪徳寺2-1-13 ⑤

やっぱ猫より犬のほうが、ずっとかわいそ。 ちよび
花咲く乙女穴を掘れ・夢は大きく世界征服♡ あも。
この三年間が、一瞬の出来事だったような気がする。 T
愛は美しい。
とうとう、地元脱出ノ
クリスティーン
ゆきちゃん
佐々木学
KX
ヨコヤマ
コイズミ
R
ALL I WANT IS U2
ワレ、なめとんかい、しばくぞボケ！！
俺の青春、軟式野球。
さようならオグリキャップ
は、歯まつた。。
三年間、楽しい思い出をありがとうノ
僕は自分自身を人生のお荷物にしたかないやい！！
てやんでい、こちら江戸っ子でいっ！！ NOTナンバー
自分の好きな自分になりたい ミズグチノリコ
本当はとつてもさみしがりやなのかもしれないな。なおき
↑始めにもどる

元(の)じノ
石川正仁
創
Mr L
四番 ファースト
えろ吉 三平
豊島涼子

三Eよ！ 永遠に！！

一九九〇年・冬。人込みでにぎわう新宿の町に一人で歌舞伎町へ足を向けている男がいた。その男の名はY氏とい、高校の教師をしている。以前はあまり新宿の地に足を踏み入れたことのない男であったが、あるクラスの担任をしてからというもの大いにその集団に悩まされ、ここに訪れる回数が増えたという。それではみなさんを真面目なY氏をこままでにした恐怖の集団に御案内いたしましょう。

その集団が二Eと名乗って旗揚げしたのは去年の四月の事であった。いろんな性格を持った奴等が集まっていた。真面目な奴・明るい奴・スケベな奴……。とにかく個性が豊かすぎるのだ。ゆえに多くの仲良しグループが生まれ、クラスとしての意味を持っていなかった。そんなんでスタートしたE組であったが、九月の文化祭では初めてまとまって、学年優勝を果たした。このクラスも捨てたものではないぞと感じたが、間もなく元の彼等に戻ってしまった。そして時間が経ち彼らは進級して、教室が変わったが、その他は何も変わらなかった。受験生と呼ばれる様になり、彼等は一層まとまりを失わせていた。女子はその名の通りの生活を送っていたが……。男は元気に表で遊んでいた。男と女の学力の違い（努力の違い）がすごく差があるのもこのクラスの特徴であろう。忘れてならないのは遅刻の多さである彼等のほとんどがムリをしないマイペース主義者だからだろうか。

(三E 北里 公一)

三Eの教室は必修の始まる三時間目の始業のチャイムと共に一杯になる。先生が入って来るまで各自が好きな事をしている。授業が始まると、さすがに二年の時とは違っていた。みんなでいる時間が減り授業だけの付き合いが続いたまま時が過ぎた。そして最後の文化祭がまたやってきた。自分は前回ほどは、うまくいかないだろうと思った。模範店というのは、本当に全員が一つにならなければ出来ないものだと思っていたからだ。しかし、またも彼らは自分の予測を覆し、見事に大成功した。これはただのお祭り好き集団では片付けることは出来ない。なぜこの時ばかりは違うのか分からないけど、この時の着飾らないみんなの姿こそ本当なのではないかと思えてくる。たとえ好きな事だけでも精一杯に努力することのすばらしさを自分は教えてもらった気がするのだ。

今、自分はみんなと共に三Eの教室にいる。クラスの雰囲気も以前に戻りつつある。そろそろ自分達の中にも一人また一人と自分の道を進みつつある。こんなクラスであったが、無事に終わろうとしている。卒業してからもここにいるみんなの笑顔が毎年見られる様なクラスになればいいなあと思う。

今日も和気藹々としたこの教室にショートホームルームのチャイムが鳴った。そしてお茶をすすっていたY氏も重い腰を上げ三Eの教室へ向かっていった。

三年F組

「いいいあきこ」をわすれないでね。

和子：やっぱいい男No1は仲村トオルよねエ

(MELON TEA)：これうたうといぢめる？

(Gyatorin)： Bye

三年間、ありがとうございました。

毎年カレンダーに花まるき青春は④の○番テール

真理：何言ってるのよノ織田裕二がNo1に決まってるじゃん

「さあがが」の得意なよっちーでした。

真佐子：エエマジ、山寺くんが一番いい声だよ

席がえのくじ引かせたら日本一

高校卒業した後に、心に残るのはどんな事かな

私の洋服ダンスは原色いろえんびつ

あつという間のSchool Life

美穂：なにより、明葉の歌が一番に決まってるじゃないノ

安心ババお元気で Y.M. Good Luck

THE END OF THE INNOCENCE

ちゃーばんとゆかひん、ずっと仲良しでいよう

これからも○博士でいたいワタシ♡

毎年アニバーサリー決行ノ減点ババ・メーガン様

→会うのはもちろん夜の部で でしょ!? 満点ババ

のがした魚は、大きいぞノ きりか・⑤ありがとう。

チャックダウンなら私にまかせて!!

月緑深き松よ……と、何回歌ったことでしょう。かなこ

和歌奈

優子：いいわねエみんな、私は我が道を言うだけだわさ。

谷口、オメーヨー技かけさせろよ。

猪木バンザイ 一、二、三、ハイッダー!!

やばい、やばいノ

やめいくつしよつちえはまったよ女優納得いかぞう

崎JS悪かったね隆春。パチン……OFF

なが

アカンノこりやホンマにアカンわ!!

志賀野沢安比蔵王赤万座……はやくキューとしたい!!

おさきまっくら。ポークビッツ

大洋はいい球団だし一位指名なので前向きに考えたい。蔵

「無関心さ」が松高がきたない理由だと思ふ。

「最高」。いっぱいいくわされた。

松高最強のMTBトライアラー、チャリダー高梨見参。

これからは、中国語講座の時代です。

ヤッテミロヨ!!

SOPHIA破り参上。

J君のボンジー&ヒロイズム復活希望

ジャイに告ぐノ語るな。たかるな。しきるな。ちびるな。

ジェラルナノ

佐久間、はやく言えよ!! これで通算4回目!! はやしや

なんだよキューふざけんなよそのスカートやめろよ 早水

性の美について考えてみよう。松葉くずしはまだ早い平野

④受験とスキの共通点を二字で書け ⑤ ⑥ ふじかど

はつくり松結成

冬・T・Iとの一夜は忘れない。パチン……ON

みぞ

三年G組

「ねえ、ねえ、パフェ食べにいいこ——？」 さなえ
 ちっちゃな事でもたくさん幸せ。これぞ人生♡ うっちー
 「いぢめる？」 「いぢめないよお」 ほのほの大好き♡ ①
 愛しいけれど、憎いお・か・た♡先生、いけずう。まるこ
 へんなクラスだった。十人十色ってやつ。 ボボンガボン
 Yorie M・Yunk たのんだわよ!! みな③
 《戻りたいけど戻れない》私の人生「波乱万丈」 みやこ
 花の十七歳の十八諦めの十九。でもをんな盛りは28ノ祭り
 New York 踊る踊る 北 礼子
 ズバリ私は大富豪になるでしょう!! G
 Brüber Bonbon 「は私におまかせ!!」 カオリ
 株は第一証券で買いなよ! ナンシー佐々木
 Boys be dreamin、少年は夢を抱けノサン
 5年後、都会派美女になった私を見て驚かないように。S
 ♡♡天からもらったこの命ならばいつかは散る桜 麻貴
 優しくするなら最後まで 冷たくするなら最初から 順子
 「みんな幸せつかんでね。」 新日鐵の辰ちゃん④
 楽しい友達に囲まれていやな授業もなんのそのノ 西武④
 見てびっくり知ってびっくりと言ったのは・・・?!なお
 「意外派ヒューマニスト」と友人Sに形容された私。ほり
 「リエねえ〜」。チョコパフェがい——。 榮作の妻⑧
 「今度、いつ会える？」 「いつでも会えるよ♡」 有里巳
 PRETTY・CUTIE・CRAZY ももさ

私は社長令嬢。逆玉狙いの人は、来・て・ネ♡ ペンキ屋
 この次に会う時は結婚式場つ………んっ? みーゆ。M
 我が親友大場さん河奈辺さん市川君もう一年やろう⑥ムタ
 ANNIVERSARY T・AG
 ハキトク スゲカエレ ジョージさん
 94年の米国W杯、絶対見に行くぜノ 萩原平八郎
 お先、まっ暗 草野 高広
 エリート街道まっしぐら。PC鏡持ってたか? 立身出世
 おれは野球にうるさい。 37
 GPでめえを殺るのはこの俺だ!! パーテン左京次
 ぜったいオオモノになる。 T・K
 月 だっぶるかな、でっれるかなさてさてほー ゴンタ
 私は絶対財界人に名を連ねるでしょう。 澤 幸宏
 バスケしようよ! しんどう
 はよモード学園に行きたい。卒業は知らない T・TAK
 皇室暮らしはリッチだぜ!! ババアしかないけど なまず
 人生太く短く。KICK ASS、 辻内
 もっと遠くにいきたい K・T
 今年は巨人が負けて西武が優勝したうれしいノ 徳山
 言さなく、腰低く、顔色表さず。 長野公彦
 今年は、ザ・ファンクスの優勝だ!!
 俺はアルマジロングだノ必殺技は体当たり弱点はおなかだ
 …… F
 我が為する事我のみぞ知る 宮沢
 先生さようなら、皆さんさようなら かじ屋の昌

編集後記

ぼくはつぐ。

編集を終えて

★作っている間中、本当に出来るのか不安でしたが、どうにか完成しそうなので、とてもほっとしています。
 一学期から準備をしていたのですが、私自身もこういうものが作りたいのかというイメージが、はっきりしていなかったもので、二学期になって大あわてすることになってしまいました。だからこの本が完成したのは、ひたすら手伝ってくださった方たちのおかげだと思います。このようにとても多くの人が苦勞して作った「ル・クール」なので、放りだしたりせずに、ちゃんと読んでください。

(委員長 山口 陽子)

★今なお無数の原稿用紙や写真やカットがこの小会議室の机の上にちらばっています。二学期も終わりが近くなり、「ル・クール」も完成しつつある、と言いたいが実はまだまだみたいです。はたして完成するのだろうか、という不安が一学期の初めから今までずっと僕につきまとっています。でもこの分なら多分まとまることができると思います。正直言うと僕はあまり仕事をしませんでしたと与えられた仕事は一所懸命やったのでちゃんと全部読んでください。

(副委員長 安倍 貞光)

★二学期最後の日になっても、原稿がなかなか集まらず、大変な仕事も沢山ありましたが、一応出来上がって本当に良かったと思っています。

私はあまり熱心に仕事をやらなかったんだけど、この委

員会に入って、色々な事が学べてとても楽しかったです。でも、来年この委員会に入ろうと思ってる人、今年のような二の舞は踏まないようにしてくださいね。

御協力してください皆様、ありがとうございます。

(副委員長 磯部 喜美子)

★私は、昨年もル・クール委員だった。でも仕事をちよっとしかなかった。だから、今年は貢献しようと思ってまたこの委員会に入った。書記にもなり、まあ少しは貢献できたと思う。うーん、もう書くことがない。

もう書くことないなら鉛筆対談をしよう。(まみこ乱入)
そうしよう……何話すの？(くみこ)

何話そうかね……私が今している指輪はココ山岡の100カラットの……うそびよん(まみこ)あーっ、私の書く所がなく
なっちゃった、バカー。ホウふき。(書記 余瀬 久美子)



注 字数の関係上、隣と名字を交換しました。
(書記 橋ノ口 真美子)

★人格としての表現の自由は尊重され、守られねばならぬ。表現には当然、責任が伴い、筆者名明記の努力がなされた。それでもなお、公明正大にして格調高い生徒会誌の品格を損なう無記名、則ち無責任記事のあることを残念に思う。

一年生には一年間の成果を問う意味で、二年生には二年間のそれが、三年生にとっては三年間の感慨を揺らめかせて、ここに東京都立松原高等学校の平成二(一九九〇)年度、庚午(かみうま)から辛未(しんみ)にかかる一年間の生き方の断面がごまかしようもなく記録されて、再び諸君に提供される。

生きることは、いつでも今日の在り方を自分自身に問うことであり、今日生きる志をいい加減にして過ごす者に、明日の夢を追う資格はない。人は無明(むみょう)に生きているから、せめて今日のささやかな志に殉じて、今日にひたすらを尽くすのだ。思想は常に幻影であり、行動力が生きる価値を決める。この生徒会誌に慰められ、励まされるものは何か。

(顧問 河村 廣通)



ル・クール39号

平成3年3月13日

発行 東京都立松原高等学校生徒会
〒156 東京都世田谷区桜上水
4-3-5

編集 生徒会誌編集委員会
印刷 株式会社フォレストアート
電話 03(3264)0801



1990（平成2）年度生徒会誌
東京都立松原高等学校生徒会
1991（平成3）年3月13日発行